

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第96集

# 天神前遺跡

2001

財団法人愛知県教育サービスセンター

愛知県埋蔵文化財センター

## 序

豊田市は愛知県のほぼ中央に位置しています。この豊田市域では旧石器時代から遺跡が連続として継続し、矢作川の恵みに育まれて人々は生活を続けてきました。今日の工業都市としての繁栄は、こうした歴史的な蓄積の上に成り立っていたものと思われます。

今回、発掘調査を行いました天神前遺跡でも、古墳時代中期から江戸時代までの長期にわたる遺構や遺物が確認され、矢作川によって形成された沖積低地にも古くから人々が生活を続けてきたことが分かってきました。取り立てて特徴的な遺構や遺物が発見されたわけではありませんが、1400年間にわたる遺構や遺物の発見は豊田市南部地域の豊かな歴史を明らかにしていく貴重な資料となることでしょう。

本書で掲載された調査成果が様々な形で活用され、ひいては埋蔵文化財の保護につながっていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際して、地元住民の方々をはじめ、関係者および関係諸機関のご理解とご協力をいただきましたことに対し、厚くお礼申し上げる次第です。

平成13年8月

財団法人愛知県教育サービスセンター  
理事長 久留宮泰啓

## 例言

1、本書は、愛知県豊田市鷺鴨町字天神前に所在する天神前遺跡（遺跡番号 63-474）の発掘調査報告書である。

2、発掘調査は、愛知県土木部（現建設部）が進めている国道248号線改良工事に伴う事前調査として、愛知県土木部（現建設部）から愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財團法人愛知県埋蔵文化財センター（当時）が実施した。

3、調査期間は平成10年4月から平成11年3月までで、調査面積は8000m<sup>2</sup>である。便宜上98 A区、98 B区、98 C区の3調査区に分割して行った。

4、発掘調査は福岡晃彦（課長補佐兼主査：現愛知県立横須賀高等学校教諭）、伊藤秀紀（現愛知県立大府養護学校教諭）、花井伸（現三好町立三好中学校教諭）、春日井毅（現一宮市立宮西小学校教諭）、後藤英史（現愛知県立名古屋西高等学校教諭）、酒井俊彦、鈴木正貴、藤山誠一の各調査研究員が担当した。各調査区の面積や担当者は本文第1章に記載した通りである。

5、発掘調査に引き続き、平成12年度に報告書作成のための整理作業を、財團法人愛知県教育サービスセンター・愛知県埋蔵文化財センターが実施した。遺構および出土遺物の整理は鈴木正貴が、自然科学的な分析は鬼頭剛（調査研究員）が各自担当した。

6、出土遺物の整理と報告書作成に関わる作業において以下の協力を得た。

小嶋そのみ・土倉崇子（以上調査研究補助員）、秋田道子・阿辺山孔子・伊藤恵・小川裕子・奥本真由美・河合涼子・妹尾美佐穂・浜島奈保美・真崎千恵子（以上整理補助員）

7、遺構の写真撮影は各調査担当者が行い、遺物の写真撮影は深川進氏の手を煩わせた。

8、本書の執筆と編集は鈴木正貴が行ったが、一部第4章第1節を鬼頭剛、小野映介、尾崎和美が分担執筆した。

9、本書で使用した遺構の略記号は次の通りである。遺構番号は報告書作成に当たり改めて通番を付け直した。調査当時の旧遺構番号との対照は付表を参照されたい。

S A……柵列跡、S B……建物跡、S D……溝、S E……井戸、

S K……土坑、S T……水田、S X……その他

10、今回の調査で使用した座標は、国土交通省告示に定められた国土座標（平面直角座標）第VII系に基づくものであり、海拔標高はT.P.（東京湾平均海面高度）による。

11、本書で使用した土壤色名は農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土壤色帳』に準じた。

12、発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係各機関・各位にご協力、ご指導を得た。

愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、豊田市教育委員会、鷺鴨公民館、井川祥子、岡本直久、加藤安信、金子健一、下村信博、城ヶ谷和広、長谷川章、長谷川義雄、藤澤良祐、松井孝宗、森泰通（順不同、敬称略）

## 目次

第1章 調査の概要	1
第1節 調査の経緯	
第2節 歴史的・地理的環境	
第3節 調査日誌抄	
第2章 遺構	7
第1節 基本層序	
第2節 下面の遺構（古墳時代中期）	
第3節 上面の遺構（古墳時代後期～江戸時代）	
第3章 遺物	21
第1節 出土遺物の概要と分析方法	
第2節 下面の出土遺物	
第3節 上面の出土遺物	
第4章 自然科学的分析	41
第1節 矢作川沖積低地、天神前遺跡地域の層序と古環境	
第5章 考察とまとめ	48
第1節 古墳時代中期の土器について	
第2節 遺物出土分布からみた天神前遺跡の動向	
第3節 まとめ	
付表	55
遺構図版	81
写真図版	97
遺跡抄録	113

## 挿図目次

- 第1図 遺跡位置図（1）
- 第2図 遺跡位置図（2）
- 第3図 調査区位置図
- 第4図 周辺の遺跡分布図
- 第5図 調査区周辺の明治17年当時の地割
- 第6図 98A区北西壁土層断面図
- 第7図 S B 1001平面・土層堆積図
- 第8図 水田状遺構土層断面図
- 第9図 S D 1007土層断面・遺物出土状態図
- 第10図 自然流路・溝、土坑遺構図
- 第11図 井戸遺物出土状態・土層断面図
- 第12図 溝土層断面図（1）
- 第13図 溝土層断面図（2）
- 第14図 掘立柱建物平面図
- 第15図 土坑土層断面図
- 第16図 方形土坑群平面図
- 第17図 下面の出土遺物実測図（1）
- 第18図 下面の出土遺物実測図（2）
- 第19図 下面の出土遺物実測図（3）
- 第20図 下面の出土遺物実測図（4）
- 第21図 下面の出土遺物実測図（5）
- 第22図 下面の出土遺物実測図（6）
- 第23図 上面の出土遺物実測図（1）
- 第24図 上面の出土遺物実測図（2）
- 第25図 上面の出土遺物実測図（3）
- 第26図 上面の出土遺物実測図（4）
- 第27図 上面の出土遺物実測図（5）
- 第28図 上面の出土遺物実測図（6）
- 第29図 上面の出土遺物実測図（7）
- 第30図 上面の出土遺物実測図（8）
- 第31図 上面の出土遺物実測図（9）
- 第32図 石製品実測図
- 第33図 金属製品実測図
- 第34図 木製品実測図
- 第35図 矢作川沖積低地周辺地域の地質図
- 第36図 天神前遺跡東西層序断面の堆積ユニット区分と<sup>14</sup>C年代値の層準
- 第37図 98B区水田平面の植物珪酸体含量
- 第38図 98B区水田平面の珪藻化石群集組成
- 第39図 古墳時代中期の土器変遷図
- 第40図 遺構変遷図（1）
- 第41図 遺構変遷図（2）
- 第42図 遺物出土分布図（1）
- 第43図 遺物出土分布図（2）

## 挿表目次

- 第1表 天神前遺跡に関わる発掘調査の一覧表
- 第2表 天神前遺跡各調査区一覧表
- 第3表 遺物出土量一覧表
- 第4表 98B区水田平面の花粉分析結果

## 付表目次

- 1 遺構一覧表
- 2 遺物一覧表

## 図版目次

- 図版1 上面遺構全体図
- 図版2 上面遺構図（1）
- 図版3 上面遺構図（2）
- 図版4 上面遺構図（3）
- 図版5 上面遺構図（4）
- 図版6 上面遺構図（5）
- 図版7 上面遺構図（6）
- 図版8 上面遺構拡大図（1）
- 図版9 上面遺構拡大図（2）
- 図版10 下面遺構全体図
- 図版11 下面遺構図（1）
- 図版12 下面遺構図（2）
- 図版13 下面遺構図（3）
- 図版14 下面遺構図（4）
- 図版15 下面遺構図（5）
- 図版16 下面遺構図（6）
- 写真図版1 遺構写真（1）上面遺構
- 写真図版2 遺構写真（2）上面遺構
- 写真図版3 遺構写真（3）上面遺構
- 写真図版4 遺構写真（4）上面遺構
- 写真図版5 遺構写真（5）上面遺構
- 写真図版6 遺構写真（6）上面・下面遺構
- 写真図版7 遺構写真（7）下面遺構
- 写真図版8 遺構写真（8）下面遺構
- 写真図版9 遺物写真（1）古墳時代中期
- 写真図版10 遺物写真（2）古墳時代中期
- 写真図版11 遺物写真（3）古墳時代中期
- 写真図版12 遺物写真（4）古墳～平安時代
- 写真図版13 遺物写真（5）中世前半
- 写真図版14 遺物写真（6）中世前半
- 写真図版15 遺物写真（7）中世前半
- 写真図版16 遺物写真（8）中世～近世

# 第1章 調査の概要

## 第1節 調査の経緯

愛知県豊田市鷺鳴(おしかも)町字天神前地内では、第二東海自動車道の豊田東インター チェンジ建設に関連して、国道248号改良(延伸)工事が行われることとなった。この建設予定地内には、1994年作成の遺跡分布図(愛知県教育委員会1994)では遺跡の所在は記載されていなかった。しかし、1997年度から大規模な発掘調査が行われ古墳時代から近世までの濃密な遺構と遺物が確認された郷上遺跡に隣接する地点に相当し、なおかつ遺物の散布が認められるため、国道248号改良工事予定地内にも遺跡の存在が確実となった。

そこでまず、平成9年度に国道248号と市道との区間の建設予定地内において遺跡範囲確認調査を実施した。調査は、郷上遺跡に北接することから仮称「郷上北遺跡」の名称で、平成9年5月に100m<sup>2</sup>を行った。この結果、おむね2つの生活面を確認することができた。上層では土坑や溝に混じって山茶碗類などが出土し鎌倉・室町時代を中心とした集落遺跡が展開すると考えられた。下層では古墳時代の土師器などが出土し、古墳時代中期を中心とした遺跡が推測された。これらの調査成果から郷上遺跡との

関連性が高いとはいうものの、戦国から江戸時代の遺構や遺物が希薄など遺跡の状態が郷上遺跡と異なると考えられたため、遺跡所在の小字名をとって「天神前遺跡」と命名することとなった。

この範囲確認調査の結果、工事予定地内の8000m<sup>2</sup>が遺跡範囲に該当することが判明し、本調査を実施することとなった。本調査は平成10年度に、98A区、98B区、98C区の3調査区に分割して行った。各調査区の面積と担当者は第2表の通りである。この発掘調査の結果、古墳時代中期から江戸時代までの遺構約1000基と破片数で約27000点の遺物が出土した。

なお、調査区北東部に所在する市道よりも北東部分でも第二東海自動車道の建設予定地となっており、この天神前遺跡が広がっていることが予想されたため、平成10年度にこの部分の遺跡範囲確認調査を実施した。調査は平成11年3月に150m<sup>2</sup>を行った。この結果、いずれのトレンチにおいても顕著な遺構・遺物を確認することができなかつた。このため、市道を越えた部分にまで天神前遺跡は展開しないことが明らかとなった。



第1図 遺跡位置図(1)

### 天神前遺跡

第1表 天神前遺跡に關わる発掘調査の一覧表

平成9年度範囲確認調査		
調査期間	平成9年5月12日～6月28日	調査主体
調査面積	100m <sup>2</sup>	(財) 愛知県埋蔵文化財センター 調査担当者 赤塚次郎・鈴木正貴
出土遺物保管	愛知県埋蔵文化財調査センター	
発掘届出文書	(郷上北遺跡)	平成9年5月19日付9教文第61-18号
文献	赤塚次郎1998「郷上北遺跡範囲確認調査」「年報平成9年度」(財) 愛知県埋蔵文化財センター 赤塚次郎1999「天神前遺跡」「愛知県埋蔵文化財情報14 平成9年度」104頁	

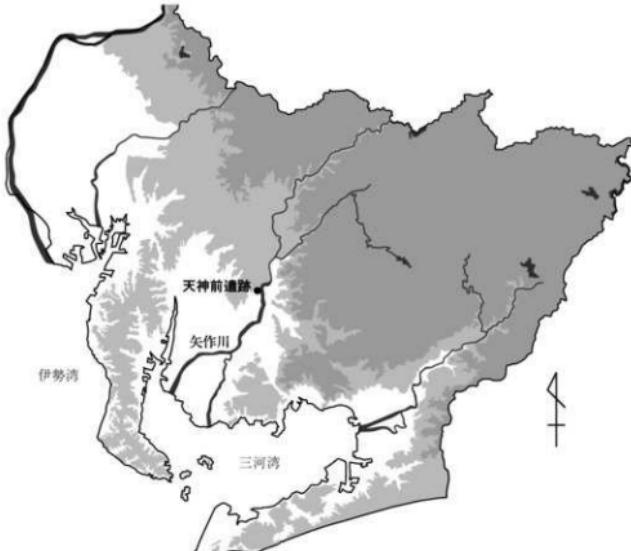
平成10年度本調査		
調査期間	平成10年4月～平成11年3月	調査主体
調査面積	8000m <sup>2</sup>	(財) 愛知県埋蔵文化財センター
調査担当者	福岡晃彦・伊藤秀紀・花井伸・春日井毅・後藤英史・酒井俊彦・鈴木正貴・藤山誠一	
出土遺物保管	愛知県埋蔵文化財調査センター	
発掘届出文書	平成10年5月8日付10教文第61-14号	
文献	後藤英史・鈴木正貴1999「天神前遺跡」「年報平成10年度」(財) 愛知県埋蔵文化財センター 鈴木正貴2000「天神前遺跡」「愛知県埋蔵文化財情報15 平成10年度」84頁	

平成10年度範囲確認調査		
調査期間	平成11年3月	調査主体
調査面積	150m <sup>2</sup>	(財) 愛知県埋蔵文化財センター 調査担当者 福岡晃彦・伊藤秀紀・酒井俊彦
出土遺物保管	愛知県埋蔵文化財調査センター	
発掘届出文書	平成11年3月25日付11教文第61-2号	

第2表 天神前遺跡各調査区一覧表

調査区	面積	調査期間	調査担当者
98A区	2500m <sup>2</sup>	1998年10月～1999年3月	福岡晃彦・花井伸・春日井毅・後藤英史・伊藤秀紀・藤山誠一
98B区	3000m <sup>2</sup>	1998年4月～1998年10月	福岡晃彦・後藤英史・鈴木正貴
98C区	2500m <sup>2</sup>	1998年10月～1999年3月	福岡晃彦・伊藤秀紀・酒井俊彦



第2図 遺跡位置図(2)

## 第2節 歴史的・地理的環境

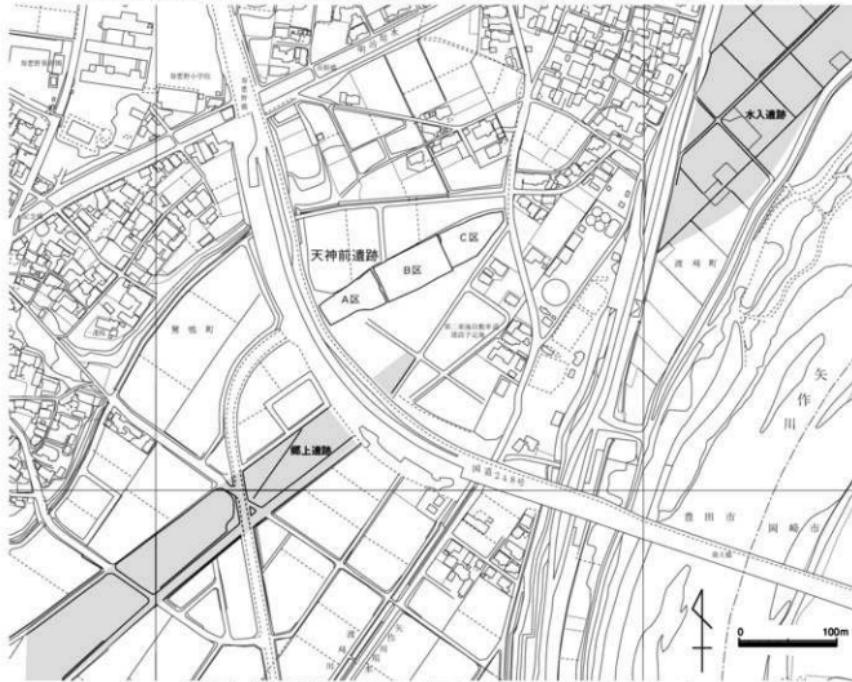
天神前遺跡は、愛知県豊田市鷺鴨町字天神前に所在し、矢作川中流域の右岸に広がる沖積低地に立地する。この場所は、東には矢作川、北及び西には碧海台地が近接するために非常に幅が狭い沖積地となっている。北緯約35度1分25秒、東経約137度24分30秒の位置で、現地形の標高は約23mである。

愛知県の中央部に相当する西三河地域を南北に流れる矢作川は、長野県浪合村と平谷村の境にある大川入山から愛知県西尾市までの総延長が約117km、流域面積は183000haの一級河川である。この矢作川を河口から約32kmほど遡った地点に豊田市鷺鴨町は所在する。矢作川右岸には豊田市から西尾市にかけて洪積台地である碧海台地が広がっており、この台地端部に多くの遺跡が確認されている。天神前遺跡はこの碧海台地端部の崖面を背後に控えた位置に所

在する。台地と沖積低地の比高差は約10mである。

現在の豊田市鷺鴨町の集落は碧海台地上に約1000世帯が集まっているが、天神前遺跡や郷上遺跡が所在する沖積地では水田や畠地が広がっている。今回の調査地点は調査前は水田として稲作が行われてきた場所である。調査地点の南西には、岐阜市と蒲郡市を結ぶ国道248号が走り、豊田市の産業の発展に大きく寄与している。

天神前遺跡が所在する鷺鴨町は、現在は豊田市に属しているが、古くは三河国碧海郡鷺鴨村であった。碧海郡とはいえ加茂郡と額田郡の郡境に近く、江戸時代においては領地が転じた経緯を持つ。江戸時代の当初岡崎藩領であった鷺鴨村は、宝暦12(1762)年に天領、明和6(1769)年に一部が岡崎藩領、天明2(1782)年に上総大多喜藩領、文政5(1822)年に一部が駿河沼



## 天神前遺跡

津藩領、明治2（1869）年に菊間藩領となつてゐる。また、鷺村は寛文3（1663）年には東西に分かれている。

鷺町の台地の上には、豊田市水源町から矢作川の水を安城市方面へ送水する明治用水が流れている。集落内には若宮八幡宮、真宗大谷派安福寺、淨土宗遍照寺、一蓮院などがある。今回の調査区の北端部に近い碧海台地端部にはかつて「天神社」が所在した。この天神社の建立の経緯などは詳らかではないが、少なくとも宝暦14（1764）年3月の年号が記された『參州碧海郡上野西鷺村繪図』（鷺村公民館所蔵）にはこの「天神宮」の記載が認められる。この天神社は明治41（1908）年に若宮八幡宮に合祀され、現在は故地に石碑が建つのみである。遺跡名の由来となっている小字「天神前」は、台地上の天神社の前の低地という由来で付いたものと推察される。ちなみに宝暦14（1764）年の繪図では、今回調査した天神前遺跡に相当する場所は田または畠であった。

天神前遺跡の周辺には多くの遺跡が所在する。碧海台地上には古墳時代中期を中心とする神明遺跡をはじめとする多くの遺跡が存在する。神明遺跡周辺は早くから発掘調査が行われ

れ、豊田市南部域の古墳時代から古代にかけての様相がかなり明らかになっている。一方、碧海台地下に広がる沖積地では遺跡の存在は知られていたものの、その実態は近年までよく分かっていなかった。しかし、最近の第二東名自動車道に関連する当センターの発掘調査により、沖積地に弥生時代以降の各時期の集落遺跡が存在することが明らかとなってきた。天神前遺跡の南に広がる沖積地には古墳時代から江戸時代にかけて連綿として継続する郷上遺跡が近接する。郷上遺跡は現在の鷺村集落が移転する以前の近世東鷺村に相当すると考えられ、約30区画の屋敷地が確認された。さらにその南には弥生時代から古墳時代前期を中心とした川原遺跡、古墳時代中期を中心とした本川遺跡などが展開し、当該エリアにも沖積地に人々が連綿と生活を続けてきたことが明らかとなってきた。

### 参考文献

豊田市 1976 『豊田市史一巻（自然・原始・古代・中世）』

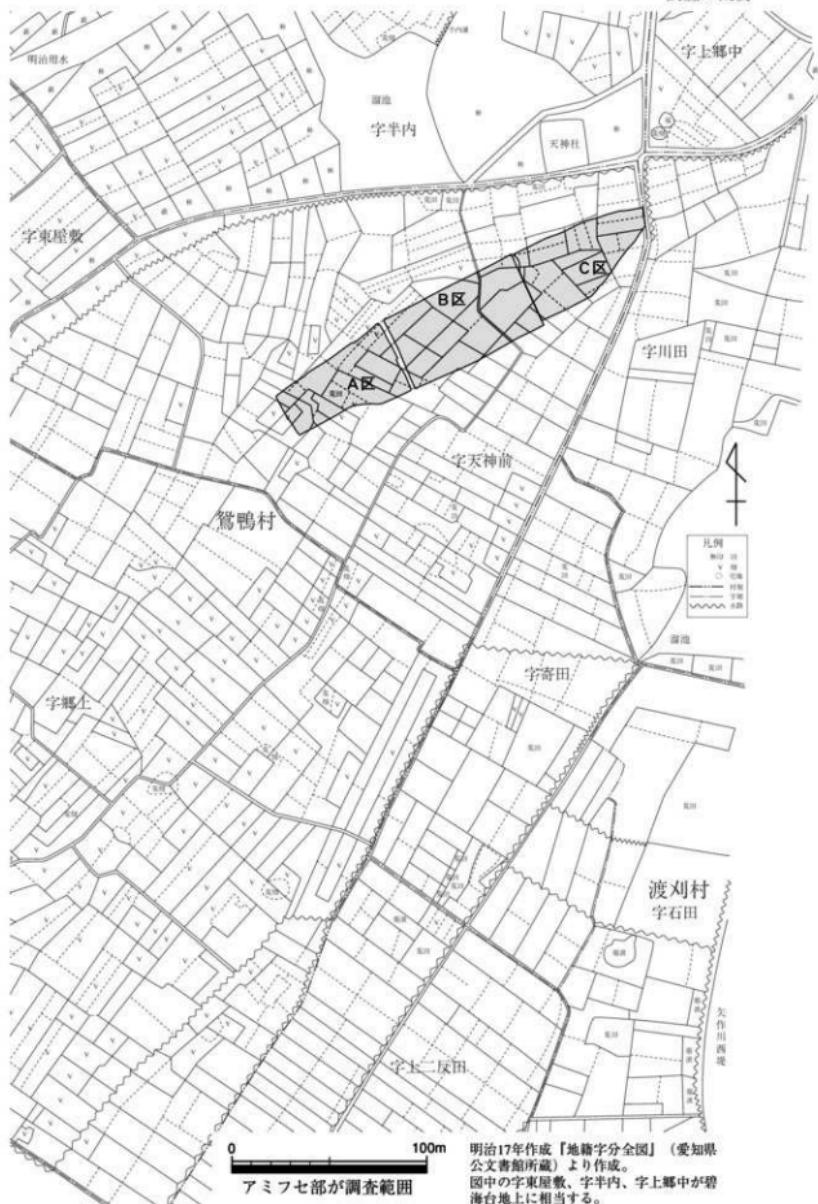
豊田市 1981 『豊田市史二巻（近世）』

豊田市教育委員会 2001 『豊田市の城下町展－中世～江戸期の豊田－』



第4図 周辺の遺跡分布図（平成9年11月国土地理院作成1/25000 地図「豊田南部」を一部改変した。）

調査の概要



第5図 調査区周辺の明治17年当時の地割

## 第3節 調査日誌抄

4月2日 B区発掘調査を始める。

4月3日 B区の土表を重複にて除去する。水田耕作土と暗灰土シルトを除するが灰色シルトをベースとする遺構面を確認することができた。土表中の遺物は安全な位置から確認したもののみを採集した。

4月20日 B区土表はぎれ。北レーン(北東端部)と東トレンチ(東東端部)を削除し、土表端部や遺構の状況などを確認した。

4月21日 遺構面を削り消して、遺構検出を北東端部から開始する。黒色土を土表とする遺構遺物などが確認された。

4月23日 株式会社パスコにより基準杭を4本設定。国土理標示標高を獲得する。

4月27日 基準杭から5mグリッドを設定し、グリッド杭を設置する。これ以降の出土物の取り上げは基本的に5mグリッドにて行うこととした。

4月28日 グリッド杭を基準として遺構面開拓(1000)を完成した。

5月1日 遺構検出及び暗視調査作業を終り終了する。北トレンチと東トレンチをさらに深く削除し、下面の層構の有無を確認する。この結果、下層の砂質シルトから古墳時代の遺物が確認され、2面調査が必要であることが確定的となった。

5月6日 遺構検出を北東端部から開始する。必要に応じて遺構面開拓作成、断面写真撮影、遺構面印字上げ、遺構出土土質標示作成などの記録を行ったが、大部分の遺構については土表の記録のみになっていた。

5月12日 B区S106号は傾いた面ではなく小規模な溝の集合体であることが判明した。

5月13日 B区S101号とS102号の層構状況を確認するためサブトレンチを開削。下層にB区S12を確認した。

5月22日 西部の範囲にて広がる落ち込みのB区S106の削除を開始する。

6月4日 B区S106の底面から黒色土を土表とする溝などの遺構を確認する。

6月17日 東端部の落ち込みB区S109の削除を開始する。

6月30日 B区S106西部の灰褐色土層を遺物が僅少であるために重複にて削除。

7月2日 稲作地盤を土表とする遺構(B区S12やS12K等)は洪水により侵食され離れて移動したことが確認した(災害教訓)。

7月13日 南西部にサブトレンチを削除し、落ち込みB区S113を確認。上層の遺物を土表に削除。

7月27日 遺構削除をはは見える。写真撮影に向けて遺構削除を順次行う。

7月31日 株式会社パスコによりヘリコプターによるB区第1面遺構の航測調査が実施され、及び高所作業車による遺構撮影を行う。

8月3日 例側の遺構撮影と南東端部削除を行なう。トレンチの深掘りを行う。第1面調査面の30~60cmの底泥びり黒色土層から鉢底式切削機で土器片が出土する。この黒色土層は土表にいくに従い、落ち込みことが確認された。

8月4日 第2面調査に向けて層面を重複にて削除する。

8月5日 調査面削除の部分にサブトレンチS101を削除し面積面積を行なう。状況のよき確認。木柱跡が残存している可能性が考えられた。

8月11日 井戸B区S171の上層遺物取り上げ後、削除。板材や角材が出土するが出土状態が不規則である。井戸B区S171底土の山などの分析サンプリングを採取。

8月17日 例側削除が終わつた部分から遺構削除を行う。溝については遺構削除を行なう(SD 501~505)。

8月21日 重機による深耕削除を定める。

8月24日 黒灰土色のうら、砂が混入する部分と枯り気味であつて均質な部分に分けられ土壌者が耕作土表。後者を削除と思われる。

8月25日 ブランコオバール分析等の試験的採取を行なうと区画で行った。

9月8日 第2面の遺構削除は終了した。遺構削除を行なう。

9月18日 株式会社パスコによりヘリコプターによるB区第2面遺構の航測調査が実施され、及び高所作業車による遺構撮影を行う。水田跡の割り跡を観察を行う。

9月25日 例側をB区S109と井戸B区S171の下層を割り削除を行う。井戸B区S171最下部から曲物類の井戸構造物を確認した。

10月2日 B区の土表を重複にて削除する。B区と同様、灰褐色土層を遺構削除した。土表中の遺物は安全な位置から確認したもののみを採集した。

10月8日 B区の埋め戻し作業を重複にて開始する。

10月12日 A区(株式会社パスコにより基準杭を4本設定。国土理標示標高を獲得する。基準杭から5mグリッドにて行うこととした。調査区の周囲にトレンチの削除を開始する。C区の土表を重複にて削除する。C区北東部の黄褐色砂疊土は近年の盛土であることを確認。これを除去した。

10月13日 埋め戻し作業を重複にて開始する。B区北西面を深瀬とし、北西セクション回をつく。写真撮影も行なう。

10月14日 B区の調査終了。A区遺構検出を開始する。部分的に包含層が残存しており、これらの除去は平行して行う。

10月28日 A区遺構削除の作業を行う。C区表土は既終了する。C区南北部は土表の掘削が進んでおり第1面遺構面はあまり直角に残存していない。

10月29日 A区第1面遺構削除がほぼ終了する。同時に遺構削除に着手する。C区に株式会社パスコにより基準杭を4本設定。国土理標示標高を獲得する。基準杭から5mグリッドを設定し、遺物の取り上げはこのグリッドごとに行なうこととした。

11月2日 C区の周囲にトレンチの削除を開始する。南西部はさらに20cm下げる必要があることが判明した。

11月4日 A区S158から「黒墨痕帯春杯帯が出土する。

11月5日 C区第1面遺構削除を開始する。湿地部分や荒れ部分には遺構が落着することが確認された。

11月6日 株式会社パスコによりヘリコプターによるC区第1面遺構の航測調査用空撮撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。その後追跡調査を行う。

11月10日 C区第1面の遺構削除を開始する。

11月12日 A区第2面調査に向けて留置を重複により削除する。

11月17日 C区第1面の遺構削除をほぼ完了する。

11月24日 A区開削削除が終了する。

11月25日 A区の周囲にトレンチ削除を開始する。

11月26日 株式会社パスコによるC区第1面遺構の航測調査用空撮撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行う。

11月30日 C区第1面の堆積調査を行なう。

11月31日 A区水面まで包含層の掘り下げを行なう。

12月2日 A区第1面遺構の掘り残し部分の削除も同時に行なう。

12月8日 A区包含層の掘り下げを終了し、第2面の遺構検出を行なう。既にから離れる浦や大町町を検出できたものの、これ以外の時期を確認することができなかった。

12月10日 C区中央に東西方向のトレンチを削除し、第2面の遺構の状況を確認する。南東西に河原があることなどが確認された。

12月11日 A区北東部の大町町の検出及び掘り下げを行い、写真撮影を行なう。

12月14日 C区第2面調査に向けて留置を重複により削除する。一旦、水田造成などは確認できない状態である。

12月15日 A区を横断する南北方向のトレンチを8本削除する。黒馬土塁は自然地形と判断される。

12月18日 A区の北区から漁業権を削除する。

12月22日 C区開削削除が終了する。南東側トレンチ、中央部に南北方向のトレンチを削除する。

1月7日 C区第2面の基礎杭を設置する。

1月10日 A区第1面調査の掘り残し部分の削除がほぼ完了する。A区には井戸が全く存在しないことが確認された。第2面の遺構削除もほぼ完了する。手前より後方の10mの遺構面の作成に着手する。C区第2面遺構検出を開始する。田沼町が検出されるものの、水田作土と思われる暗灰土色を残した状態の黒色土上部で、浦や大町町を検出することができなかつた。

1月11日 A区大町町の写真撮影、セクション実測などを行なう。こののちC区を横断する南北方向のトレンチを断続する。

1月21日 C区では追跡削除困難であるため、水田作土と思われる暗灰土色を削除して、浦や大町町を検出することとした。

1月28日 C区での暗灰土色の削除を行なう終了し、遺構検出をしたが、水田跡が検出できなかつた。浦や田畠町などの遺構が確認された。第2面の遺構削除調査用空撮撮影を行なう。

2月1日 A区北西面を削除し、北西側セクション回を作成。写真撮影を開始する。C区第2面の遺構削除をほぼ完了する。北浦旧河床の削除は済みが削除して削除せざるを得なかつた。

2月5日 A区第2面調査の高所作業車による写真撮影を行なう。

2月8日 C区第1面の削除終了。

2月10日 株式会社パスコによりヘリコプターによるC区第2面遺構の航測調査用空撮撮影、及び高所作業車による遺構撮影を行なう。

2月15日 A区北西面を削除し、北西側セクション回を作成。写真撮影を開始する。C区第2面の被削除を行なう。

2月22日 A区埋め戻し作業終了。調査終了する。

2月23日 C区の黒色土層に板木台に5枚程度由北方向に搬えられて出土する。同様作業を行なう。

2月25日 C区の埋め戻しセクション回の作成に着手する。

3月3日 C区中央トレンチと北浦河床のセクション回を作成を終了。この後埋め戻し作業に入る。

3月21日 寄附公民館での遺跡調査報告会にて報告書を行なう。

3月29日 天神前遺跡の発掘調査現地作業を全て終了する。

## 第2章 遺構

### 第1節 基本層序

天神前遺跡は沖積低地にあり調査前は水田となっていた。部分的に造成された盛土とその下位に堆積する最近までの水田耕作土を除去すると、基本的に最初の遺構面が確認される。調査地の大部分は少なくとも地表面下3mまでは砂またはシルトが互層となって堆積していたが、碧海台地に近いC区北東部では洪積台地を構成する疊層が部分的に確認された。

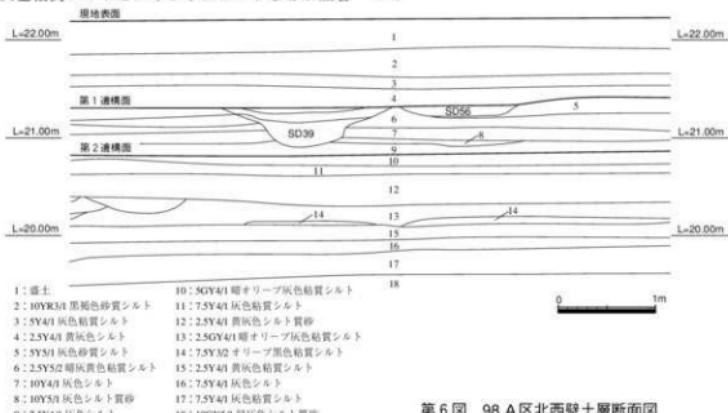
ここでは、まず98A区の北西壁土層堆積（第6図）を検討する。

第1層は水田耕作後に造成された盛土、第2層は近年まで耕作された水田耕作土（黒褐色砂質シルト）であり、ここまででは確実に表土に属する。第3、4層は水田床土（灰色粘質シルト）と考えられるが、この上面では遺構検出が困難であった。従って第5層灰色砂質シルトの上面を第1遺構面（上面）として調査した（標高約21.4m）。この第1遺構面では古墳時代後期から江戸時代までの遺構が検出され、遺構面は後世の洪水などにより少なからず侵食されたものと推察される。第6層以下は順に、暗灰黄色粘質シルト、灰色シルト、灰色シルト、暗オリーブ色粘質シルトというようにシルトなどが互層

に堆積している。このうち、第10層上面が第2遺構面（下面）に相当すると思われるが、この部分は第2遺構面では緩やかに傾斜する自然路内に相当し注意を要する。

第7図下は98B区南東壁土層堆積断面図の一部である。水田耕作土を除去した標高は21.6m前後であり、この高さが基本的には第1遺構面となる。これ以下は上位から、灰オリーブ色砂質シルト、灰オリーブ色シルト、暗オリーブ色粘質シルト、オリーブ褐色砂質シルト、暗灰黄色シルト質砂、暗灰黄色シルト、暗灰黄色細粒砂、黒褐色粘質シルト、オリーブ黒色シルトの順で堆積する。上位から8層目の黒褐色粘質シルト層上面から懸穴状遺構S B 1001が掘り込まれており、この面が第2遺構面（下面）となる（標高約20.9m）。第2遺構面はB区中央部で最も高く標高約21.0mになり、南東方向と北西方向に緩やかに傾斜して下がっていく。結果、北東・南西方向に馬の背状に伸びる微高地が展開することとなる。

なお、調査地の土層堆積については第4章で堆積学的な検討を行っているので参照された<sup>vi</sup>。

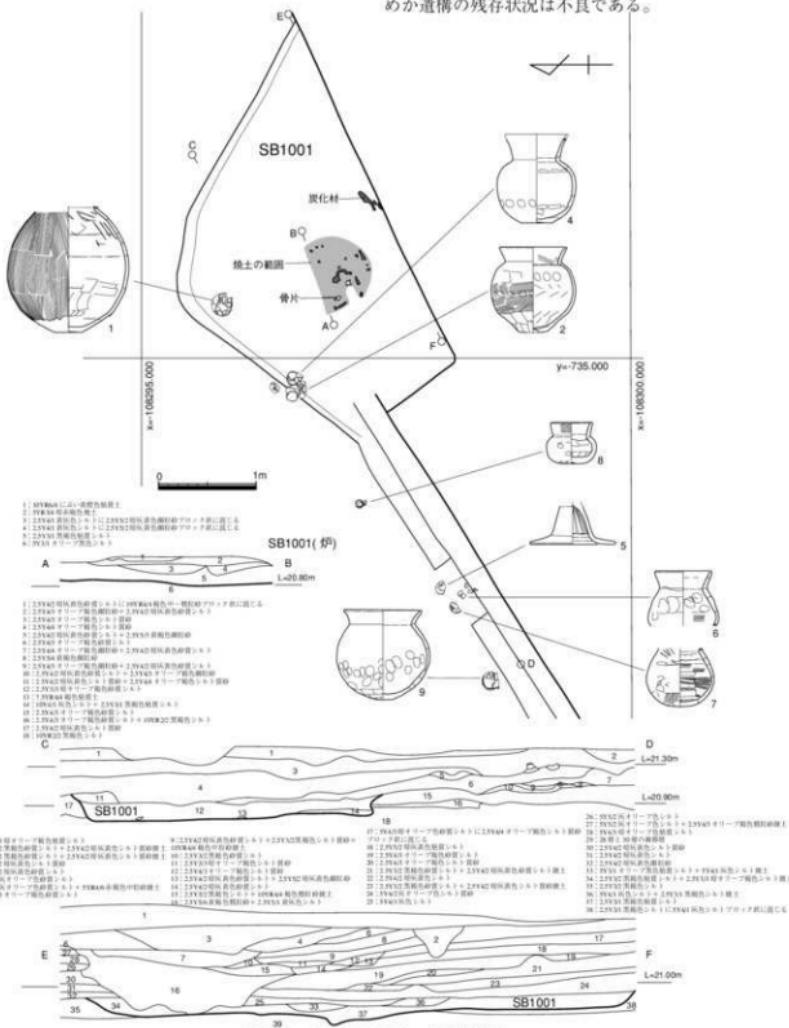


第6図 98 A区北西壁土層断面図

## 第2節 下面の遺構（古墳時代中期）

今回の発掘調査で、下面（黒褐色粘質シルト層上面）にて確認された遺構には、堅穴状遺構1基、水田状遺構18区画、溝25条、土坑78基、

自然流路2条などが存在する。豎穴状遺構と水田状遺構はB区で比較的に良好な状態で確認されたが、A区とC区では微高地が安定しないためか遺構の残存状況は不良である。



第7図 SB 1001平面・土層堆積図

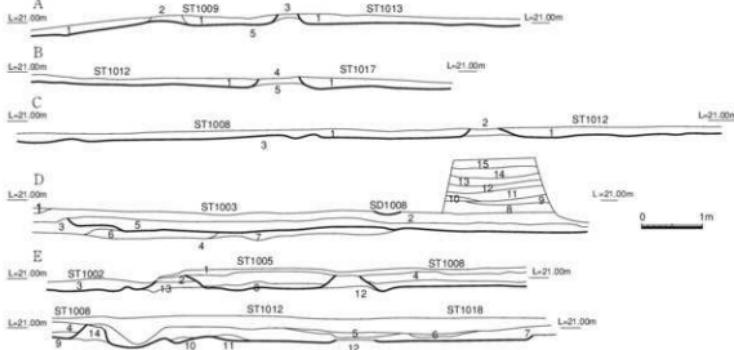
## (1) 堪穴状遺構(第7図)

堪穴状遺構は98B区で1基確認された。

**S B 1001**は98B区南端中央部で検出された堪穴状遺構である。南半部は調査区外に広がるため正確な規模を知ることはできないが、3.0m以上×3.2m以上の隅丸方形の平面プランを持つと思われる。検出部分のほぼ中央の位置に焼土の堆積が認められ、これが地床炉であったと考えられる。焼土中には獸骨と思われる焼骨が散乱した状態で含まれていた。床面で柱穴や周

溝、カマドなどの付属施設が全く確認できなかったため、堪穴住居とは断定できずここでは堪穴状遺構とした。西端部で直口壺2個が上下に重複したまま横倒しになった状態で出土した。上位に位置する壺(2)は底部が穿孔されており、2つの直口壺は下壺と蓋の組み合わせて使用され廃絶されたものと想定される。また西端隅角部で口縁部が欠損した壺が出土している。これらの遺物の年代から、S B 1001は5世紀前半に位置付けられよう。

なお、S B 1001付近では古墳時代の土器が若



A・B断面土壌層説明

- 1:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 2:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 3:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 4:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 5:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 6:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層

C断面図上層説明

- 1:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 2:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 3:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層

D断面図上層説明

- 1:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 2:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 3:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 4:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 5:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 6:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 7:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 8:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 9:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 10:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 11:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 12:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 13:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 14:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 15:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層

E断面図上層説明

- 1:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 2:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 3:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 4:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 5:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 6:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 7:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 8:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 9:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 10:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 11:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 12:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 13:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 14:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層
- 15:IXV3 オリーブ色土+ホワイトセラミックオーブン底面跡層+ホワイト層



第8図 水田状遺構土壌断面図

## 天神前遺跡

干出土しており、出土層位が明瞭に把握された資料も存在する。高杯(5)と小型壺(6・7)はS B 1001が埋没した後に堆積したオリーブ褐色砂質シルトの上位から出土した。甕(9)はS B 1001が掘り込むオリーブ褐色砂質シルト中から出土している。これらの土器はS B 1001とそれほど時期的に差が認められないことから、土器が出土した経緯に若干の問題が残るもの、S B 1001が機能した前後の比較的短期間に洪水による堆積が頻繁に起こっていたことが想像される。

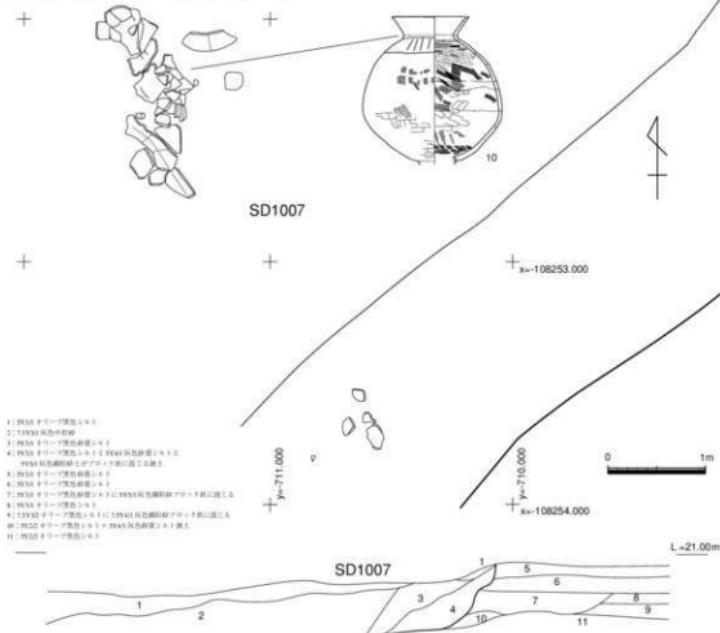
### (2) 水田状遺構(第6図)

水田状遺構は98B区北東半部で18区画確認された。黒褐色粘質シルト層上面(標高約20.9m前後)で検出された畦畔状の遺構を指している。周辺の利水に関連する遺構が明瞭でないこと、プラントオパールが十分に検出できなかつたこと(第4章を参照)などから、これらを水田遺構と確定するには疑問が残るが、ここでは

便宜上水田状遺構として記述を進める。

水田状遺構の上位には、黄灰色砂質シルトが標高21.1m前後の高さでB区東半部で堆積しており、これが水田被覆土に該当する。この土層を除去すると全体として水田検出面が現われる。S T 1005付近のセクション(第8図)で見ると、水田作土相当部分の堆積はオリーブ黒色砂質シルトで上位に灰褐色砂質シルトがブロック状に混入する。上位の水田被覆土との境面に微妙な起伏が存在した可能性が考えられる。このS T 1005作土相当の堆積は層厚は約20cmを測る。畦畔の高まりはオリーブ黒色砂質シルトと灰褐色砂質シルトの斑状で構成される。S T 1005の下層土はオリーブ黒色シルトであるが、耕作による攪拌(巻あげ痕)は認められなかった。

水田状遺構が検出された部分は北東が高く南北に向けてやや傾斜して低くなる地形となっている。東部ではこの傾斜にはほぼ並行する形で水田畦畔が確認され、西にいくにつれて若干方位



第9図 SD1007 土層断面・遺物出土状態図

を変える。畦畔は部分的に途切れるが、その部位については特に規格性は認められない。区画の規模は最大で S T 1008 の約 9.0m × 約 9.8m、最小で S T 1005 の約 2.4m × 約 3.6m、平均すると一区画面積はおよそ 20 m<sup>2</sup>である。S T 1008 など大型区画の場合、畦畔が残存していない場合も想定されることから、基本的には 15～25 m<sup>2</sup>位の規模の区画が並んでいたと考えられる。この水田状遺構は、南では N R 1001、北では S D 1007 によって切られており、本来存在した広がりを特定することはできない。しかし、水田下層土の堆積が南と北の両側に向かって傾斜していることから、水田状遺構は広くても幅が 25m 程度の微高地に展開していたと考えられる。S D 1007 に切られることで下層土（トレンチ）から柳ヶ坪型壺（114）が出土することなどから、水田状遺構は 5 世紀前半代に位置付

けられよう。

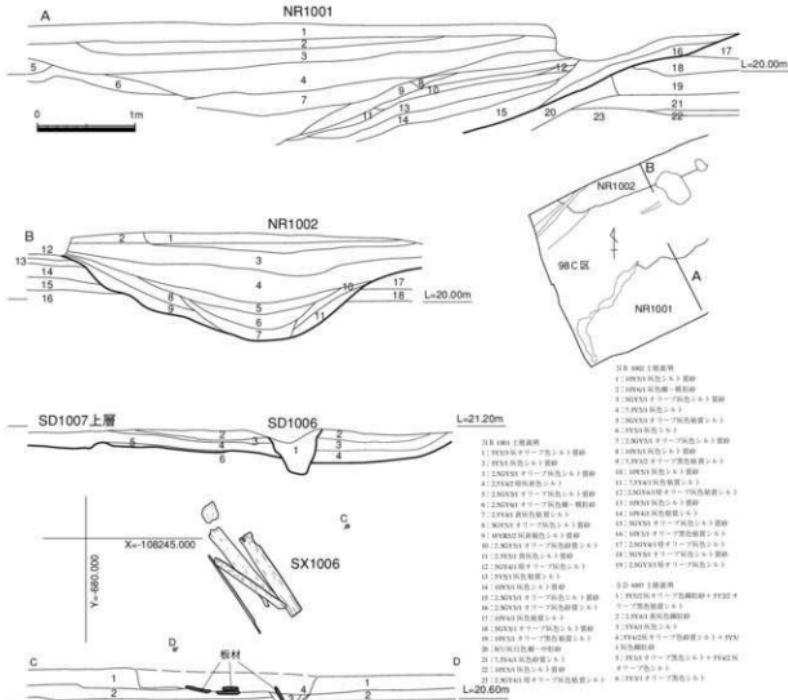
なお、98 B 区北西端部と 98 A 区北端部でも畦畔状のやや大きな高まりも確認された。調査当時は大畦畔として調査を進めたが、付近では他の遺構が確認されなかったため水田に関わるものと推定するには至らなかった。

### (3) 溝 (第 9・10 図)

下面の溝は全部で 25 条確認されたが、ここでは特徴的なものの取り上げる。

S D 1001 は 98 A 区を縱断する形で検出された幅が狭い溝である。後述する S D 1006 につらなるものと思われる。出土遺物からみて 5 世紀前半の溝であろう。

S D 1006 は 98 B 区から 98 C 区にかけて伸びる幅が狭い溝である。溝の壁が直立ぎみで長期間開いていた遺構とは考えにくい。出土遺物から 5 世紀前半代に位置付けられるが、S D 1007



第 10 図 自然流路・溝・土坑遺構図

## 天神前遺跡

が埋没した後に掘削されていることから S D 1007 よりは新しい。

S D 1007 は 98 B 区から 98 C 区にかけて伸びる幅が 5 ~ 6m の大規模な溝である。あるいは自然流路かもしれない。S D 1007 の上層で土師器甕（10）が出土した。水田状遺構を切っている。

S D 1008 は 98 B 区から 98 C 区にかけて伸びる幅が 1m 強を測る溝である。遺構検出面よりも高い層位から掘り込まれており、結果的には溝底のみを検出したものである。やや荒い灰色砂質シルトが堆積していた。出土遺物に内側する杯部を持つ高杯（16 ~ 18）や須恵器小片などが出土することから、5 世紀後半の時期が想定される。

S D 1017 は 98 C 区で確認された幅が約 1m の溝である。自然流路 N R 1002 が埋没した後に掘削され、中から 6 世紀代の須恵器が出土した。

### （4）土坑（第 10 図）

土坑は全部で 78 基確認されたが、性格を特定し得る遺構はほとんど存在しない。特徴的なものとして、98 B 区の水田状遺構群の中に畦畔に隣接して存在する土坑がある。皿状に浅く掘込

まれたもので出土遺物は全く存在しない。また、98 C 区では自然流路 N R 1001 上面と 98 C 区北東部に土坑が集中する部分が認められる。これらの多くはおそらく下面（黒褐色粘質シルト層上面）に対応する遺構ではなく上面から掘り込まれたものと思われ、いくつかの土坑から山茶碗の小破片が確認されている。同様に 98 C 区で確認された下面の溝のいくつかは上面遺構と考えてもよいだろう。

S X 1006 は 98 C 区中央部で検出された板材が集中して出土した遺構である。土坑の掘り方を確認することはできなかったが、おそらく浅い土坑が存在したものと想定される。材は少し乱れた状態で 5 枚並べられて出土した。この板材は棺材の可能性などが考えられるが性格を特定することはできない。

### （5）自然流路（第 10 図）

調査区中央にある微高地の両側に地形に沿う形で自然流路 2 条（N R 1001・1002）が流れている。両者は特に掘り込み面を持って下がるのではなく、微高地の堆積に連動して流路内の堆積も進んでいる状況である。長期間にわたって流路として機能していたものと推定される。

## 第 3 節 上面の遺構（古墳時代後期～江戸時代）

今回の発掘調査で、上面（灰褐色シルト層上面）にて確認された遺構には、井戸 2 基、溝 136 条、土坑 633 基、自然流路 1 条、礎石建物（棚）1 棟などが存在する。土坑の多くは掘立柱建物の柱穴と考えられるものであり、本来的には掘立柱建物がかなり発見されている状態といえる。ただし、柱列がきちんと並ばないケースが多いため、確実な掘立柱建物を抽出することは難しい。ここでは復元可能な一部の掘立柱建物についてのみ建物として報告するが、実際にはもっと多くの建物が存在したと考えられる。

また、古墳時代後期～江戸時代の長期間にわたる遺構が同一遺構面で確認され、多くの遺構は小破片の遺物のみが埋土から出土するため、出土遺物が正確に遺構の時期を反映しているか否か疑問が残る。こうした事情から、本来はある程度時期的まとまりごとに報告したいところであるが、これをあえて行わなかった。ここでは遺構の種類毎に記述を進め、最後に遺

構変遷について若干の考察を加えることで報告としたい。

### （1）井戸（第 11 図）

井戸は 98 B 区で 1 基、98 C 区で 1 基確認された。

S E 01 は 98 B 区南部で検出された井戸で、水溜部分に曲物筒が設置されたものである。掘り方の平面形は長軸が約 3.6m の梢円形に近い形状で、水溜部分は掘り方のほぼ中央に所在する。掘り方の断面形は標高約 20.6m の地点で段を設け、さらに深く標高約 19.5m まで掘り込まれている。井戸の木製構造物は水溜と考えられる最下部のみが遺存していたに過ぎない。水溜部はタガを巻いた曲物筒が 2 段とタガを巻かない曲物筒が 2 段の合わせて 4 段が上下に重ねられて設置されていた。水溜部の直径は約 50cm を測る。曲物筒の上位は掘り方と異なる大きな掘り込みが断面で確認され、比較的の短期間に埋め立てられたと思われる。上位の土層中からは

数片の板材等が出土しており、この板材は上位に存在したと考えられる井戸構造物の残片の可能性がある。このことから井戸を廃棄する際に材が抜き取られたものと考えられる。埋め立てられた土層中からは比較的多量の陶器や土器が出土しており、これらの所属年代から井戸の廃棄時期は12世紀後半と推定される。

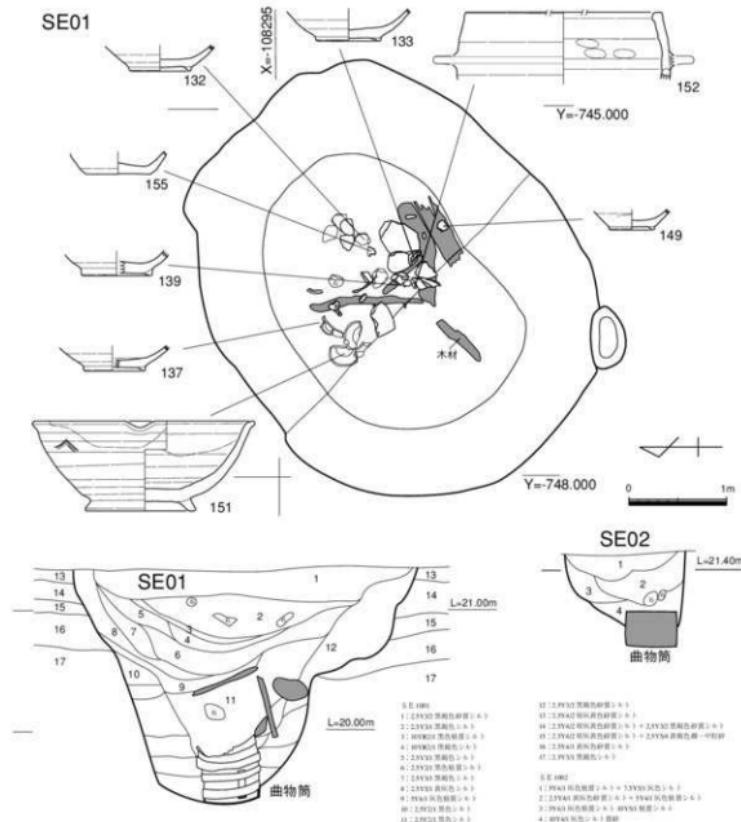
S E 02 は 98 C 区北部で確認された井戸で、S E 01 と同様に水溜部分の曲物筒のみが残存したものである。上位は後後に削り取られたと思われ、掘り方の平面形は直径が約 1.0m の円形であった。水溜の曲物筒はタガを上下に 2 本

巻いたものが 1 段のみ残存しており、掘り方の南側に片寄った位置で検出された。井戸の底は約 20.5m までしか掘り込まれておらず、水溜部の直径は約 40cm を測る。遺物はわずかに出土しているが、これらは 13 世紀前葉に位置付けられるものである。

この他に S K 450 や S K 558 などの深く掘り込まれた土坑がいくつか存在するが、井戸と確定するには至らなかった。

## (2) 溝 (第 12・13 図)

第 1 遺構面で確認された溝は全部で 136 条である。この中で特徴的な溝について抜粋して報



第 11 図 井戸遺物出土状態・土層断面図

告する。

**S D 19** と **S D 28** は 98 A 区で平行して走る溝である。幅は最大でも約 1.0m であり深さも浅い。**S D 19** と **S D 28** の溝心心間距離は約 4.8m (3 間半) を測る。**S D 19** は **S D 34** と **S D 35** に切られて検出されたため、古代に属する可能性がある。

**S D 34** と **S D 35** は 98 A 区北端部で確認された直角に屈曲する溝である。両者はほぼ平行して走り、溝心心間距離は約 3m を測る。**S D 35** から黒笛 90 号窯式期 (168) や大原 2 号窯式期 (169) の灰釉陶器碗などが出土したことから、両者は 10 世紀前半に位置付けられよう。

**S D 38** と **S D 39** は 98 A 区東部で検出された平行する 2 本の溝である。北東側は未調査部分があつて確定的ではないが、おそらく各々 **S D 55** と **S D 57** に繋がっていくものと推察される。尾張型山茶碗第 6 型式が出土したことから 13 世紀前半の造構と考えられる。

**S D 55** と **S D 57** は 98 B 区から 98 C 区にかけて調査区をやや斜めに継続する溝である。両者とも幅約 1.5m、深さ約 1.0m の規模を持ち、その溝心心間距離は平均して約 3.6m (2 間) を測る。途中で 98 B 区中央部ではほぼ平行する形で溝 **S D 81** が **S D 55** を切る形で重複しているがあるいはこれは部分的な掘り直しをこの状態で確認したのかもしれない。溝断面図を見ると少なくとも 2~3 回の掘り直しが行われた状況を読み取ることができる。溝埋土からは古墳時代から近世までの多様な時期の遺物を含み、時期を限定しえない。その中で安定して認められる最新資料は古瀬戸後期に属する資料である。

**S D 62** と **S D 64** は 98 B 区を南北に走る溝である。**S D 64** は直線的な形ではないが、おそらく関連して存在したものと想定される。**S D 64** は切り合ひ関係から **S D 55** や **S D 57** よりも新しく、このため近世に属する可能性が高い。

**S D 67** は「コ」字形に屈曲する幅が 60cm 前後の溝である。溝で囲まれた約 16m × 12.5m 以上の方形の空間が区画として分離され、おそらくその内側は屋敷地として機能していたと思われる。深さも 50cm 以下の部分が多く溝の規模は小さい。溝内からは瀬戸美濃窯産陶器の内耳鍋などが出土することから、古瀬戸後期に属する溝と思われる。

**S D 84** も **S D 67** と同様に「コ」字形に屈曲する幅が 1.0m 以上の溝である。溝で囲まれた約 18m × 14.5m 以上の方形の区画はおそらく屋敷地として機能していたと思われる。溝の深さは 30cm 前後である。溝内からは土師器の内耳鍋などが出土することから戦国時代に属する溝と考えられる。

**S D 71**、**S D 72**、**S D 77**、**S D 78**、**S D 79** は灰色粘質シルトの包含層 (**S X 06**) を除去すると検出された溝群である。**S D 57** に直交する方向に伸び、**S D 57** よりも南には全く伸びていないため、**S D 57** と共存してたと思われる。**S D 87** や **S D 88** と対応して約 18m × 15m 以上の方形区画を作った可能性も考えられる。**S D 71** からは尾張型山茶碗が出土しており、これらは 13 世紀代に収まる資料である。

**S D 83** は 98 B 区北部に所在する溝で、**S D 87**、**S D 88**、**S D 57** に切られる造構である。**S D 91** とは「T」字状に交わり連続していた。**S D 91** から古墳時代後期と考えられる壺の口縁部が出土している。

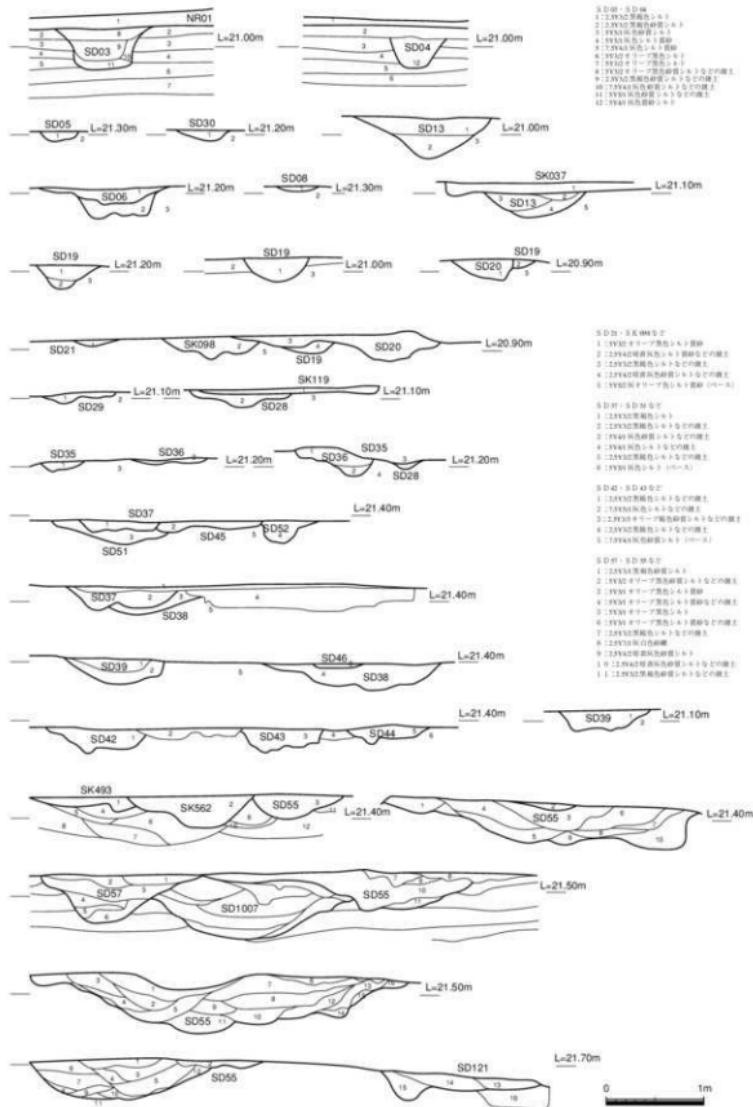
**S D 87** と **S D 88** は **S D 57** を切る形で検出された平行に走る溝である。出土遺物から 13 世紀代の造構と考えられる。

**S D 89** と **S D 96** は緩やかに曲がりながら平行して走る溝で、**S D 89** は 98 B 区から 98 C 区にかけて存在し、**S D 96** は 98 B 区で東端部が存在するものである。**S D 89** は最大幅が 2.0m を超え深さも 50cm を超える比較的大規模な溝である。土層断面を観察すると一回以上の掘り直しが認められる。出土遺物は古墳時代中期から江戸時代まで連続として続く様相を呈しており、最新資料は土師器培培 (216) である。なお、98 C 区では **S D 89** に平行する溝 **S D 129** が存在しており、これは **S D 96** の延長部と推察される。

**S D 98** は 2 回直角に屈曲した溝である。南部で **S D 99** と重複しており何度か掘り直されて継続したものと思われる。**S D 99** の東側には連続すると思われる **S D 103** と **S D 104** が存在する。これらの溝群は **S D 84** と平行しており、関連すると考えられる。**S D 84** と **S D 104** の溝心心間距離は約 4.5m を測る。

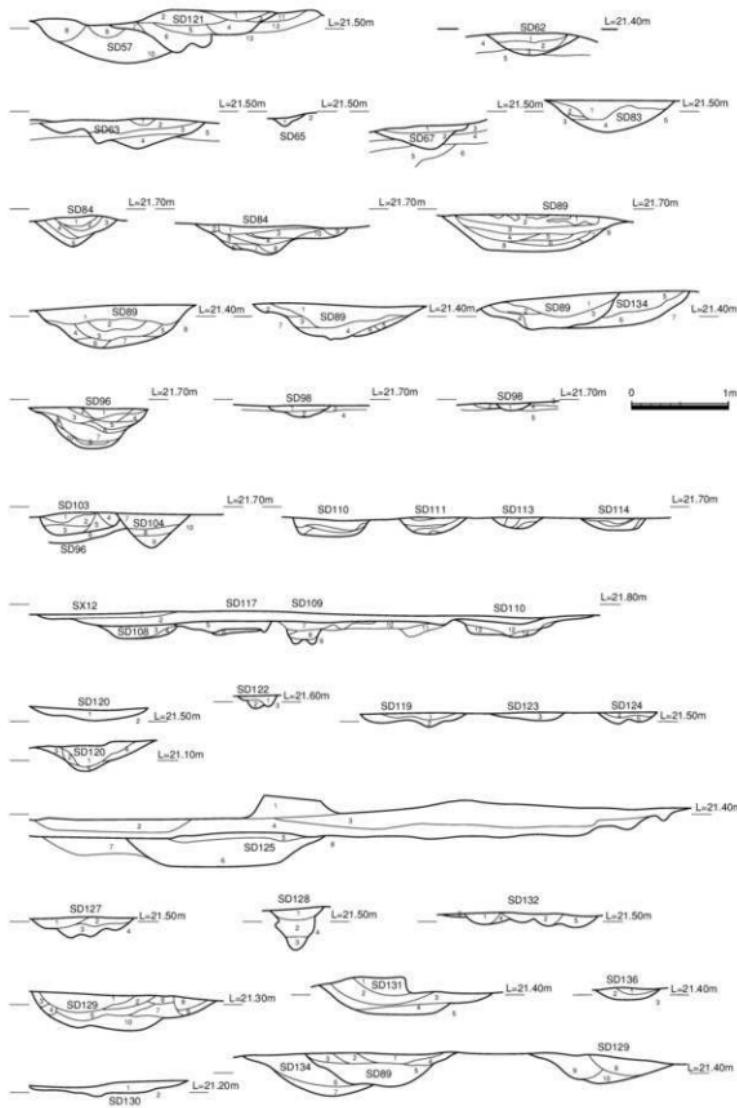
**S D 108**~**S D 114** は灰色粘質シルトの包含層 (**S X 12**) を除去すると検出された溝群であ

遺傳



第12図 溝土層断面図(1)

天神前遺跡



第13図 溝土層断面図(2)

る。この溝群の北側にも S D 118～124が存在し、一連のものと考えられる。溝の幅と溝と溝との間隔がほぼ同じで溝の深さも非常に浅いため、竪状遺構として理解したほうがよいかも知れない。S D 55やS D 89を切る形で存在しており、中世から近世にかけての時期が想定される。

**S D 120**は98 C区南西部に所在する溝でS D 55と直交する方位を持つ。幅は約1.0mを測りS K 608等の方形土坑群に切られる。出土遺物から見て戦国時代に属する遺構である。

**S D 134**は98 C区北端部で確認された溝でS D 89切られて重複する。出土遺物は7世紀代の遺物が大半を占めている。S D 89はS D 134の掘り直しの可能性があり、従ってS D 89の初現は7世紀代に求めることができるかもしれない。

### (3) 掘立柱建物（第14図）

掘立柱建物は今回ある程度推測できたもので17棟存在する。しかし、柱穴と考えられる土坑は約600基あり、実際にはもっと多くの掘立柱建物が存在したと思われる。掘立柱建物の時期は、床面の出土遺物を特定できない上に柱穴内出土遺物だけ特定することは難しいと思われたため、不明なものが多い。

**S B 01**は98 A区で検出された規模は約4.2m×約3.0m以上を測る桁行2間×梁行1間以上の掘立柱建物である。南半部が調査区外にあるため柵列である可能性も残される。

**S B 02**は98 A区で確認された規模は約4.3m×約3.0mを測る桁行3間×梁行2間の掘立柱建物である。建物内には墨書須恵器杯身が出土したS K 83が所在する。

**S B 03**と**S B 04**は98 B区西端部で検出された掘立柱建物で主軸方位はS D 62とほぼ平行する。S B 03の規模は約4.1m×約2.4mを測り、桁行3間×梁行1間である。S B 04の規模は約4.0m×約2.4mを測り、現状では桁行1間×梁行1間である。

**S B 05**～**S B 10**はS D 67に囲まれた空間に所在する掘立柱建物群である。

**S B 05**は南半が調査区外に伸びる。桁行3間×梁行3間以上？の庇付建物で、規模は6.6m×4.8m以上を測る。北辺の柱穴列は重複

して多数確認されており、数回の建て直しが行われた可能性が考えられる。大小が認められることから、小さい柱穴は束柱の可能性がある。

**S B 06**は南半が調査区外に伸びる。桁行3間以上×梁行2間以上で、規模は4.3m以上×2.0m以上を測る。

**S B 07**も南半が調査区外に伸びる。桁行3間×梁行3間以上で、規模は5.0m×2.6m以上を測る。北辺の柱穴列は平面形で大小が認められることから、小柱穴は束柱の可能性がある。

**S B 08**は規模が約3.0m×約2.8mを測り、桁行1間×梁行1間の小型の掘立柱建物である。

**S B 09**は桁行3間？×梁行3間で、規模は3.6m×5.1mを測る。S K 345とS K 349は棟持柱の可能性がある。東半部の柱穴の並びは良好でない。

**S B 10**は規模が約2.7m×約2.0mを測り、桁行1間×梁行1間の小型の掘立柱建物である。

**S B 11**は98 B区北部にある掘立柱建物で、規模は約2.8m×約2.8mを測る。主軸方位はS D 87と平行する。

**S B 12**は98 B区南部で検出された掘立柱建物であるが、現状では規模を確定し得ない。

**S B 13**は98 B区南部で確認された掘立柱建物で、規模は約4.7m×約3.9mを測る。現状では桁行2間×梁行3間で、主軸方位は付近の溝とはあまり平行していない。

**S B 14**は98 B区北部にある小型の掘立柱建物で、規模は約2.6m×約1.2mを測る。桁行1間×梁行1間。

**S B 15**と**S B 16**はS D 84に囲まれた空間に所在する掘立柱建物群である。S B 15は規模が約7.2m×約4.2mを測り、桁行4間×梁行2間と推測される。小さい柱穴は束柱の可能性がある。S B 16は規模が約3.2m×約1.0mを測る小型建物である。

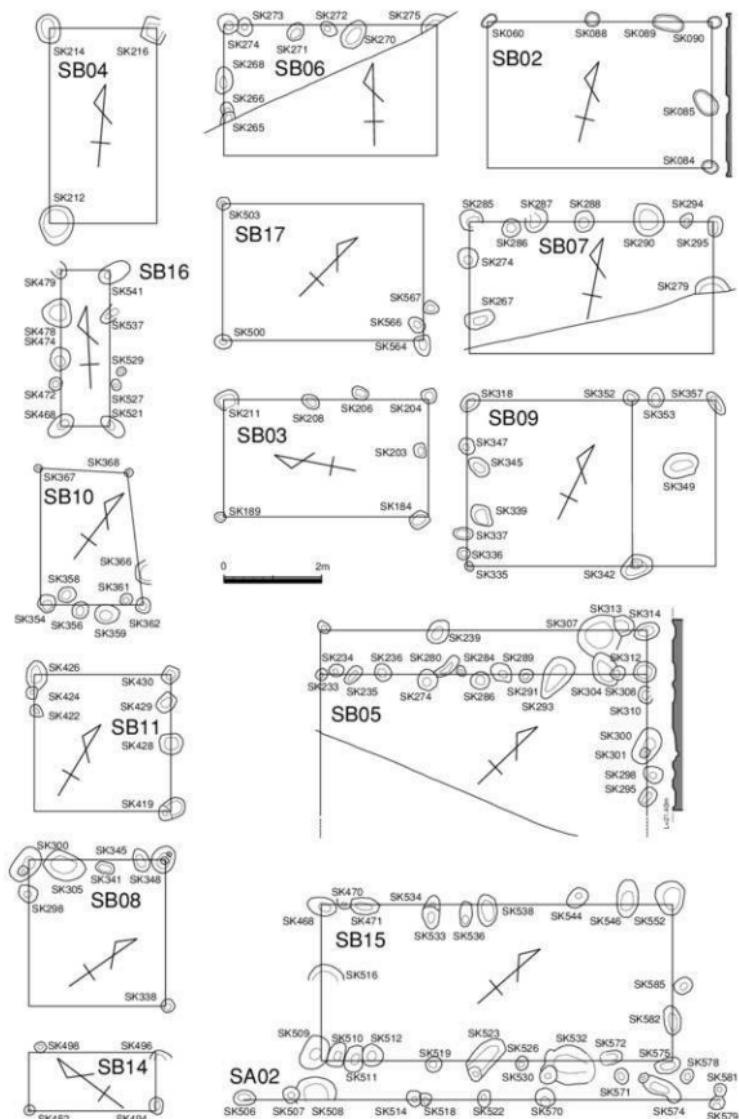
**S B 17**は98 B区北部にあり、規模は約4.1m×約2.8mを測る。桁行1間×梁行1間。

掘立柱柵列も3列が確認された。特にS A 02はS B 15に隣接して平行するもので相互に関連していると思われる。

### (4) 碇石建物（柵列）

**S A 04**は、98 B区の東部で確認された礎石柵列である。礎石の根石部分とみられる石また

天神前遺跡



第14図 据立柱建物平面図

は集石が合計5基並んで検出されたことから柵列とした。時期は中世以前の遺構を被覆する灰褐色シルト層の堆積の上位で検出されたことから近世以降の遺構と思われる。

#### (5) 土坑(第15図)

ここでは上記に属さない土坑(遺構)の中で特徴的なものを抜粋して報告する。

**S K 56**はS B 02内に相当する地点で検出された土坑である。15世紀代か。

**S K 83**はS B 02内に相当する地点で検出された土坑であり、S K 56に切られる。土坑としては浅く形状が余りはっきりしなかったが、埋土から墨書き須恵器杯身が出土した。8世紀に位置付けられる。

**S K 128**は98 A区中央部で確認された平面形が方形の土坑である。中から青磁碗などの遺物が出土した。

**S K 439**は柱根が残存した柱穴である。上端部は腐食して残存しない。

**S K 450**は平面形が不定形となる大形土坑である。中央部がやや深く掘り込まれているがその性格は不明である。15世紀後半の遺物が出土したことからこの時期に属する遺構であろう。

**S K 486**は98 B区のほぼ中央部に所在するいびつな円形の平面形を持つ土坑である。近世陶器が出土した。

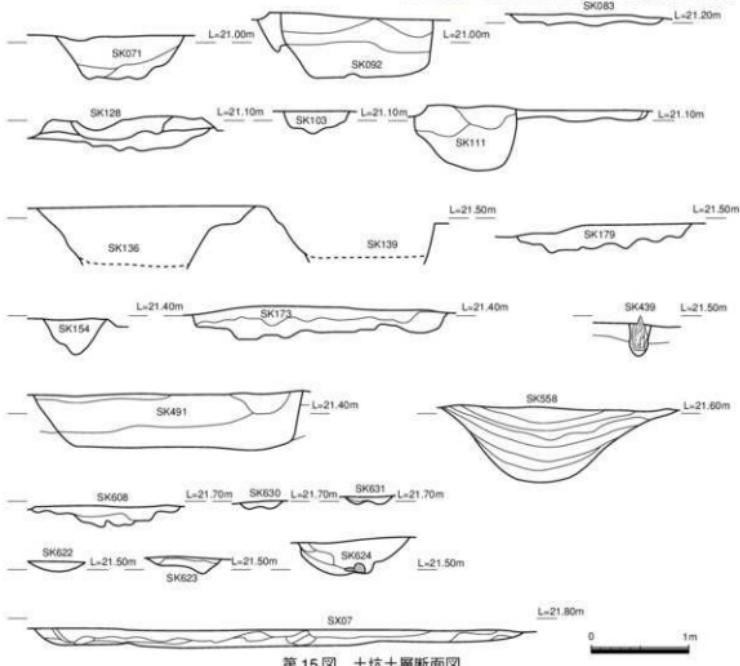
**S K 491**は98 B区中央部にある方形土坑である。S D 55やS D 81を切る形で検出され、掘り方は比較的に急な傾斜で掘り込まれている。埋土はブロック状になって堆積していた。出土遺物には戦国時代のものまで含まれていた。

**S K 558**は大形の円形土坑である。土層堆積はレンズ状に順にシルトや細砂が互層となっている状態が観察された。

**S K 559**は平面形が不定形で掘り方も曖昧な土坑である。山茶碗などの遺物が投棄されており、窓みに廃棄物を処理した廃棄土坑と考えられる。

**S K 590**は大形土坑S K 589を完掘した段階

SK083 L=21.20m



第15図 土坑土層断面図

## 天神前遺跡

で検出されたピット状の遺構である。須恵器碗と常滑窯産陶器鍋と古瀬戸灰釉皿がまとまって出土した。

S K 624 は 98 C 区北部中央で確認された土坑である。S D 129 を切る形で検出され深さは約 50cm を測る。土坑の最下部に根石が 2 個配置されていた。常滑窯産陶器壺と羽釜、湖西渥美型山茶碗が出土しており、12世紀代に位置付けられる。

### (6) 方形土坑群（第 16 図）

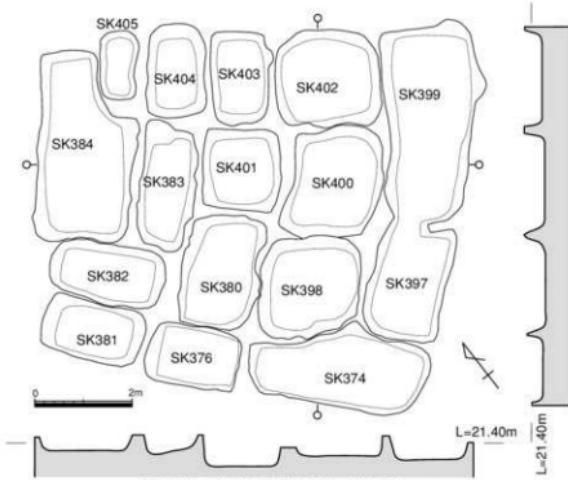
各調査区で「方形土坑群」と呼ぶべき遺構群が確認された。これは掘り方が直立する箱形で平面形が長方形の土坑群が、ほとんど隙間なく規則正しく配置された遺構群である。埋土は非常に粗い砂で円礫を伴う事例も多い。ここでは良好な状態で検出された 98 B 区の事例をもとに報告する。

98 B 区方形土坑群は 98 B 区南西部に所在する遺構で、SK 374、SK 376、SK 380、SK 381、SK 382、SK 383、SK 384、SK 385、SK 397、SK 398、SK 399、SK 400、SK 401、SK 402、SK 403、SK 404、SK 405 で構成される。各土坑の深さは約 50cm で、土坑の平面形は最小で約 1.3m × 約 0.8m、最大で約 4.0m × 約 2.1m を測る長方形である。土坑と土坑の間の壁は非常に薄く 0.1m ~ 0.7m の厚さで壁の内側が

若干抉られた状態のものもあった。埋土は非常に粗い砂で円礫を伴い、おそらく土坑は開口した状態で洪水を受けた際に砂が堆積したものと想定される。土坑の中から出土した遺物は少ないが、著しく磨耗した陶片が多く、近世後半に属する資料が認められることからそれ以降に掘削埋没したものと考えられる。隣接する郷上遺跡、水入遺跡、川原遺跡など豊田市南部の沖積低地に所在するほとんどの遺跡に存在するもので、ある一定の間隔（およそ 100m 前後）で点在していたのではないかと推察される。時期的にみて集落に伴うものとは考えにくく、農業などの生産に関わる遺構群の可能性が考えられるが、これらの方形土坑群の性格付けは現在のところ全く判明していない。

### (7) 落ち込み（S X）

第 1 遺構面は全く平坦ではなく、微細に見ればそれ程深くはないが大きな起伏が認められる。こうした落ち込みには粘質シルト等が堆積しており、遺物も小破片を中心に相当量が出土する。また、落ち込みの床面からは中世以前の遺構が検出されることが多い。こうした状況から見て、おそらく中世末期から近世にかけて第 1 遺構面が削られながら粘質シルト等が堆積していくのではないかと推測される。このような落ち込みを S X と表記した。



第 16 図 方形土坑群平面図・断面図

## 第3章 遺物

### 第1節 出土遺物の概要と分析方法

今回の調査で出土した遺物は全部で、27リットル入りコンテナで30箱、接合前破片数で26718点を数える。その種類は多種多様で、古墳時代中期（5世紀）から江戸時代後期（19世紀初頭）までの約1400年間に及ぶ時期の遺物が、時期的にはおおよそ間断ない状態で出土している。しかしながら、遺構からまとまって出土した良好な資料群については、限られた時期の限定された遺構で確認されるのみであり、大半の遺物は廃棄された後の様々な土地改変などにより破壊されたり移動したりしていると予測される。このような遺物の出土状態からみて、今回は1)比較的に良好な残存状態を持つ遺構出土資料の図化、2)1で取り上げられなかつた種類の遺物の中で比較的に良好な残存状態を持つ包含層出土遺物の図化、3)大分類による遺物の出土量の計測とその出土分布図の作成を行うこと、で遺物の報告としたい。

そこで問題となる点は出土量の計測に関しての分類の方法である。今回は天神前遺跡における各時期の動態を遺物から大きく把握することを目的としているため、非常に大雑把な分類に

止めることとしたい。具体的にはまず以下のように大区分し、必要に応じて細分することとした。

- 1 古墳時代から古代の土師器（この中を大きく壺瓶類と高杯類と不明に分けた）
- 2 古墳時代から古代の須恵器（この中を大きく碗杯類と壺瓶類と不明に分けた）
- 3 古代の灰釉陶器（この中を大きく盤皿類と壺瓶類と不明に分けた）
- 4 中世以降の土師器（この中を皿類と鍋類と不明に分けた）

5 山茶碗（中世無釉陶器）類（この中を大きく碗、皿、鉢、壺瓶類、その他、不明に分けた）

6 潛戸美濃窯施釉陶器（この中を大きく窯製品（古窯戸）、大窯製品、登窯製品に分けた）

7 その他

計測の方法は、接合前の破片数をグリッドごとに数える方法を採用した。グリッドが不明な資料については不明として一括することとした。この結果については第5章にも記載した。

接合前破片数（点）	98A区			98B区			98C区			合計	98A	98B	98C	合計
	98A	98B	98C	98A	98B	98C	98A	98B	98C					
土師器（古墳時代～古代）	1910	1512	1046	4468	(内高杯類)		170	40	24	234				
須恵器（古墳時代～古代）	251	250	251	752	(内杯類)		155	113	117	385				
灰釉陶器（古代）	151	76	91	318	(内盤皿類)		110	56	34	200				
土師器（中世以降）	2777	2726	82	5585	(内皿類)		2045	1721	61	3827				
山茶碗類（中世）	5118	4392	398	9908	(内山茶碗 (内小皿類 (内常滑産)		2867	2541	240	5648 888) 456)				
施釉陶磁器類（中世以降）	386	382	37	805	(内古窯戸 (内大窯 (内中国産)		269	260	11	540 33) 52)				
その他・不明	2781	2008	93	4882	(内瓦		10	21	3	34)				
合計	13374	11346	1998	26718										

第3表 遺物出土量一覧表

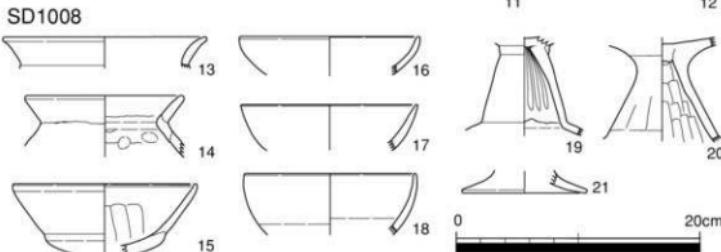
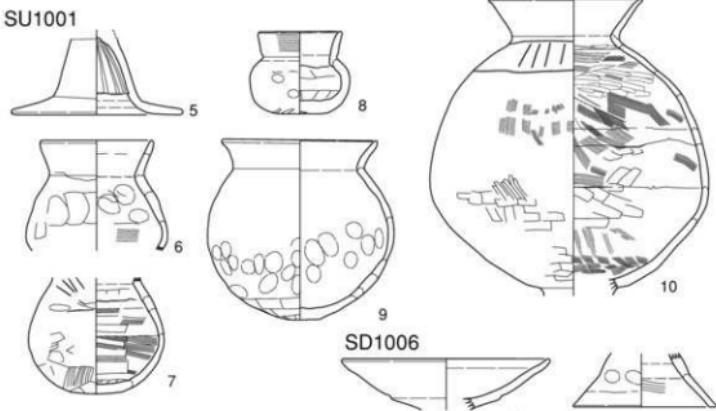
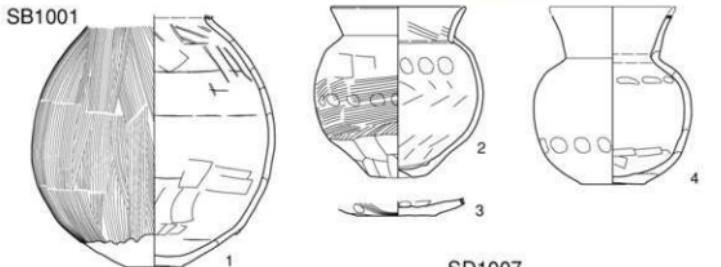
## 第2節 下面の出土遺物

下面の出土遺物は大半が古墳時代中期に属するもので、一部C区で古墳時代後期から古代にかけての遺物が含まれている。大半の遺物は土師器であり、器種としては壺、小型壺、高杯、杯、鉢などがある。この時期の土師器壺と壺は形状からの区分は容易ではなく、ここでは原則

として煮炊に使用されたものを壺と考えて報告する。

まず、遺構から出土した一括遺物の紹介を行い、その後に包含層などから出土した資料を調査区ごとに整理して報告する。

### S B 1001 出土遺物 (第17図1~4) -- SB



第17図 下面の出土遺物実測図(1)

## 遺物

1001からは土師器壺と土師器小型壺が出土した。1は土師器壺で口縁部が欠損する。外面はハケ調整が、内面はナデまたは板状工具によるケズリが施されている。底部はかなり被熱され表面が剥離している。2と4は形状は直口壺と呼ぶべき形状であるが、外面に煤が付着していることから壺として報告する。2は底部に焼成後に穿られた孔が存在する。外面に向けて広く割れている状態から内側から圧力をかけて穿孔されたものと考えられる。4は底径がやや大きい平底の小型壺で口縁部がやや長く伸びる。

**S B 1001付近の出土遺物**（第17図5～9）--S B 1001の付近から出土した遺物には土師器小型壺、高杯などがある。5は屈折脚高杯の脚部である。脚内面は横方向にヘラケズリが施される。6と7は小型壺で两者とも下膨れ状の形状である。

**S D 1007出土遺物**（第17図10）--10は大形の土師器壺である。口縁部は逆八字状に開きそ

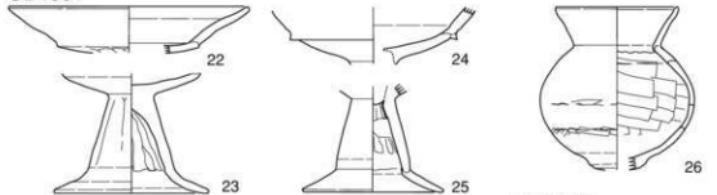
のまま伸びる。口縁部から体部上半は表面が平滑（ミガキ調整か？）で肩部には刻線が描かれている。胴部中央部に煤が付着している。

**S D 1006出土遺物**（第17図11～12）--11は有稜高杯の杯部で外面屈折部に疑似的な浅い沈線が施される。12は台付壺の脚部で底端部に面が存在する。

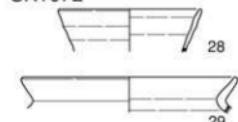
**S D 1008出土遺物**（第17図13～21）--S D 1008からは土師器壺と土師器高杯が出土した。壺は口縁部が外反するものの（13）と直線的に開くもの（14）がある。高杯は杯部が屈曲する有稜高杯（15）と杯部が弯曲して楕円形となるもの（16、17、18）がある。後者のタイプは他の遺構ではあまり見られないもので、遺構の切り合ひ関係からみて有稜高杯よりも後出するものと考えられる。脚部は屈折脚のもの（19、21）である。

**S D 1001出土遺物**（第18図22～26）--S D 1001出土遺物には土師器高杯と土師器小型

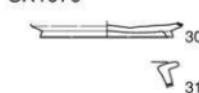
SD1001



SK1072



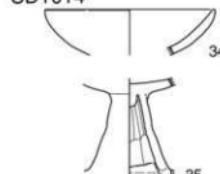
SK1070



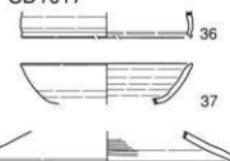
SD1003



SD1014



SD1017

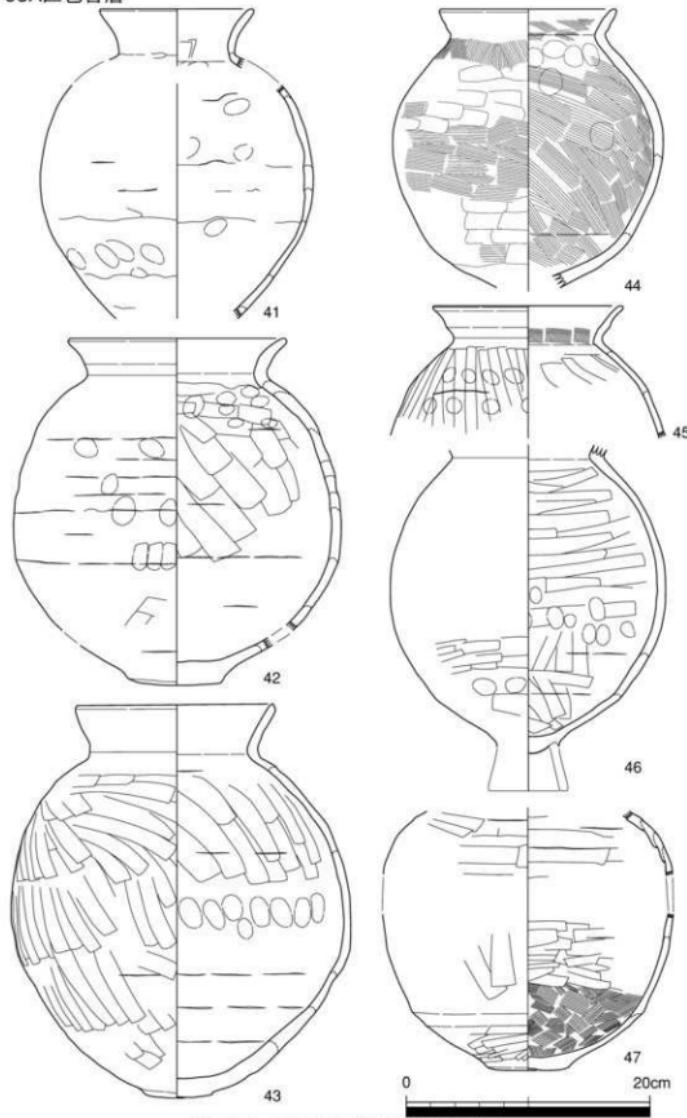


SD1013



第18図 下面の出土遺物実測図（2）

98A区包含層



第19図 下面の出土遺物実測図（3）

遺物

壺がある。22は杯部がやや浅い有稜高杯、24は稜部に貼り付け突帯を巡らせた有稜高杯である。26は小型の壺で下半部が被熱され赤色化している。

S D 1003出土遺物（第18図27）--土師器杯が1点存在する。口縁部は彎曲しながら内傾し、穿孔が施されている。

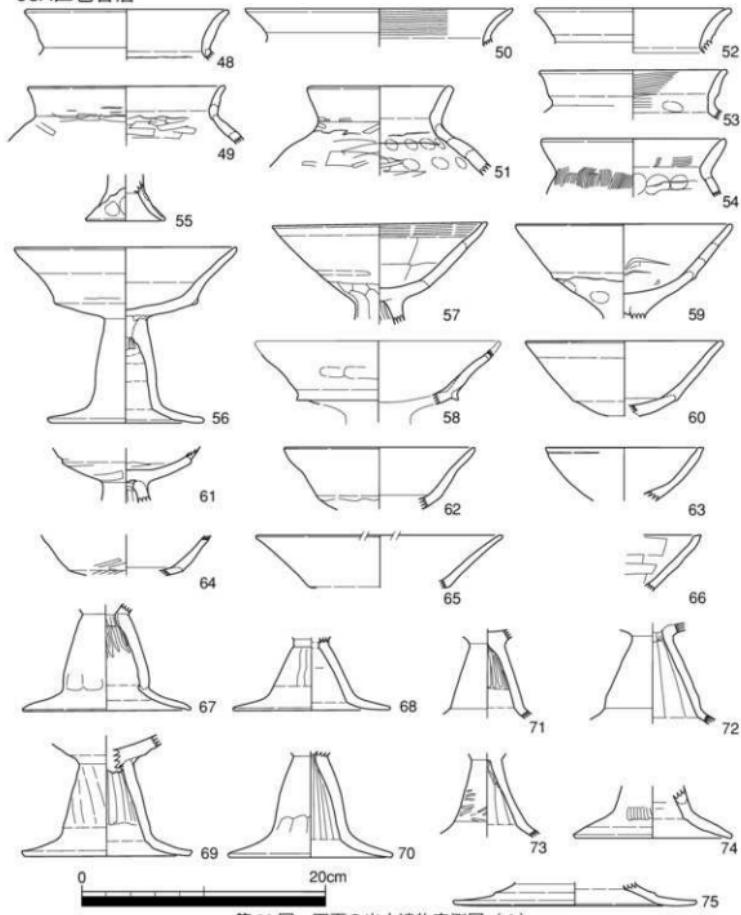
S K 1072出土遺物（第18図28・29）--須恵器杯身（28）と土師器壺（29）が出土した。土

師器壺は口縁部が短く逆ハ字状に開き口縁端部がやや摘み上げられている。古墳時代後期に属するか。

S D 1014出土遺物（第18図34・35）--土師器高杯が出土している。34は楕形の杯部である。

S D 1017出土遺物（第18図36～38）--須恵器杯身、杯蓋、土師器高杯等が出土した。それぞれの所属時期が異なるため良好な一括資料

98A区包含層



第20図 下面の出土遺物実測図（4）

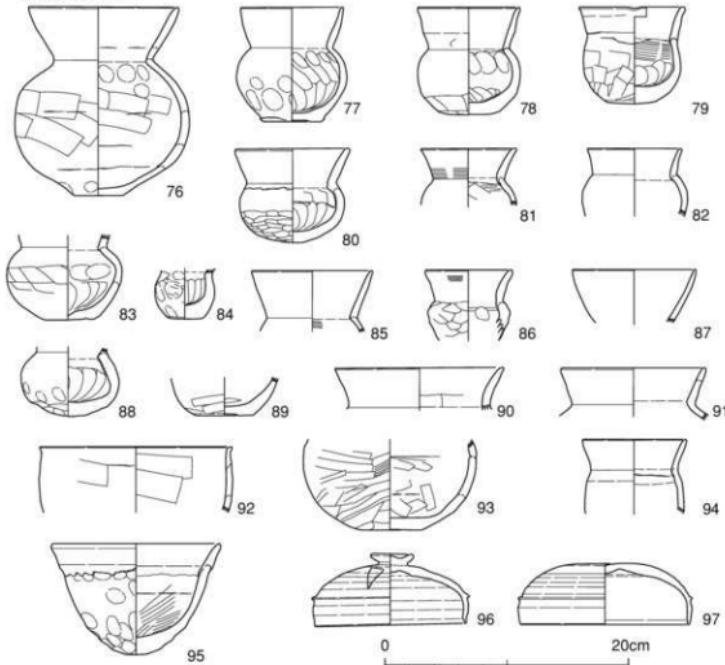
とは言えない。

98 A区包含層出土遺物（第19～21図41～97）--98 A区の遺構以外から出土した下面の遺物は多くはSD 1001よりも南から出土したものである。土師器壺、高杯、小型壺、鉢、須恵器杯蓋などの器種が存在する。土師器壺は全くく字形口縁壺に属するもので、平底壺と台付壺（46・55）がある。宇田型壺は全く存在しない。体部の内面調整はハケ調整のもの（44・47）も存在するが、多くは指オサエの後にケズリ調整を施すものである。体部外側も同様の傾向が認められる。45は口縁部に棱を持つものである。土師器高杯はほとんどが屈折脚有稜高杯である。杯部は、棱部に貼り付け突帶を持つもの（56・58）や口縁部がやや内彎して端部に面を持つもの（63・66）があるが、多くは屈曲した後に外反するものである。脚部は内面にケズリ調整が顕著に残存するが、外側は丁寧に縱方向

に板ナデまたはミガキ調整されたためか調整痕が不明であるものが多い。75は脚据部分に稜を持つものである。小型壺は平底のものと丸底のものがある。口縁部はほぼ直線的に開く直口壺が多いが、やや内彎するもの（77・87）も認められる。被熱痕が認められるもの（85・87）や外側に煤が付着したもの（76・80・82・89）もある。土師器鉢は口縁部が直立するもの（92）と体部から口縁部にかけて開くもの（95）がある。95は口縁部が外折する丸底鉢である。須恵器杯蓋はH-11号窯式期のもの（96）とH-61号窯式期のもの（97）があり、前者は焼成前に外側に三角形紋が施されている。

98 B区包含層出土遺物（第22図98～116）--98 B区の遺構以外から出土した下面の遺物はほぼ調査区全体から出土したが、SD 1007周辺から出土したものが多い。土師器壺、高杯、小型壺、柳ヶ坪型壺、須恵器杯蓋などの器種が存

## 98A区包含層



第21図 下面の出土遺物実測図（5）

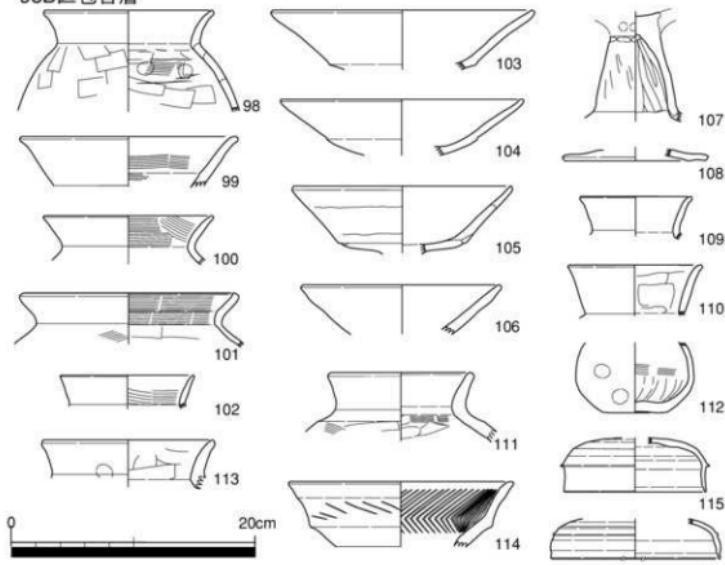
遺物

在する。土師器壺は全く字形口縁壺に属する。土師器高杯は有稜高杯のみであり、杯口縁端部がまっすぐ伸びるもの（103）とやや上方に摘み上げるもの（104・105）がある。高杯脚は屈折脚となる。114は口縁部が直立ぎみに開

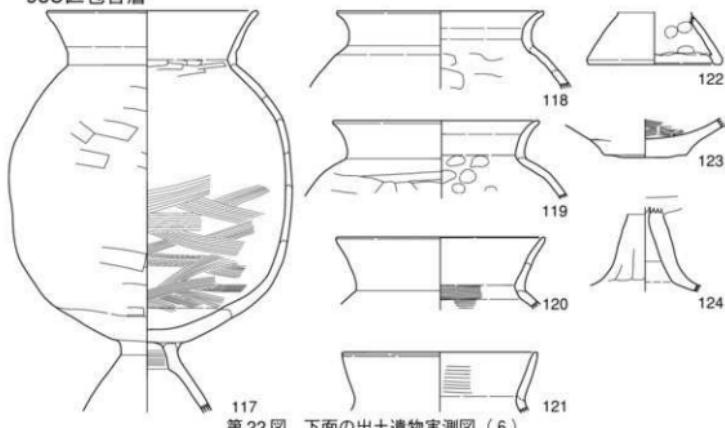
く柳ヶ坪型壺で、内面に工具による羽状刺突文が、外面上にはわずかに斜位の刺突文が施されている。須恵器杯蓋はH-11号窯式期のもの（115）とH-61号窯式期のもの（116）がある。

98C区包含層出土遺物（第22図117～124）。

98B区包含層



98C区包含層



第22図 下面の出土遺物実測図（6）

-98 C 区の遺構以外から出土した下面の遺物は他の調査区に比べそれほど多くは存在しない。土師器壺、高杯などが存在する程度である。土師器壺は全てく字形口縁壺に属し、平底壺と台付壺がある。117は口縁部が長く立ち上がる台付壺で脚の端部が欠損するものの脚の高さが高いと推定されるものである。内面体部下半はハ

ケ調整が施されている。122は台付壺の脚部である。底端部の粘土を内側に折り曲げてナデ調整を加えている。この調整手法は宇田型台付壺の脚部と類似しており、その影響が認められる土器である。土師器高杯（124）は屈折脚高杯である。

### 第3節 上面の出土遺物

上面の出土遺物は古墳時代後期から江戸時代までという幅広い時期に属するものである。ここでは遺構から出土した一括遺物の紹介を行い、その後に包含層などから出土した資料を調査区ごとに整理して報告する。

**S E 01 出土遺物** (第23図125～157) -- S E 01からは尾張型山茶碗、尾張型小碗、尾張型鉢、常滑窯産陶器鍋、土師器皿と土師器壺が出土した。遺物は中層から上層にかけて出土したものばかりである。尾張型山茶碗は藤澤良祐編年（藤澤1994）の第3型式から第5型式に属する資料である。143はあるいは東濃型に属するかもしれない。大半の山茶碗は内面（見込み部）がよく磨滅されており極めて平滑な状態となっている。尾張型小碗（皿）は高台が残存するもの（149・150）で第3型式に属するものである。151は片口を有する尾張型鉢で口縁部にハケ塗の薄い灰釉が施されていた。152は鉢部が欠損する常滑窯産陶器羽釜、153と157は常滑窯産陶器鍋であり、胎土はやや大きな礫を噛み込むような粗いものである。153は口縁部が受け口状に、157は口縁部がく字状に折れ曲がるタイプである。土師器鍋はいわゆる南伊勢系鍋に属する形状で、北村分類（北村1996）のA 2類に属する。土師器皿は底部に回転糸切痕が残存するロクロ調整のもので、155は胎土が黒色を呈して厚手のもの、156は黄灰色の胎土で口縁が外反するものである。以上の所見から、およそ12世紀後葉の一括資料と認めることができるよう。

**S E 02 出土遺物** (第23図158・159) -- S E 02からは第6型式に属する尾張型山茶碗と須恵器と思われる小型壺が出土した。

**S D 35 出土遺物** (第24図168～170) -- S D 35から灰釉陶器碗と尾張型山茶碗が出土した。

168はK -90号窯式期の碗で三日月高台となっている。169は大原2号窯式期に属する深碗、170は第4型式に属する尾張型山茶碗の口縁部である。170を混入資料と考えると10世紀前半の資料とみなすことができる。

**S D 55 出土遺物** (第24図178～183) -- S D 55から須恵器と尾張型山茶碗類などが出土した。98 B 区では山茶碗類が、98 C 区で須恵器が多く出土する傾向が認められる。須恵器は7世紀後半から8世紀代のもの、山茶碗類は第5型式から第6型式にかけてのものが認められる。

**S D 57 出土遺物** (第24図184～188) -- S D 57からは多様な時期の遺物が出土した。186は土師器台付壺の下半部である。外面にハケ調整がよく残存する。184と185は古代末から中世にかけての瓦類である。184の平瓦は凸面に格子状叩きと離れ砂の付着が認められ、凹面には布目痕と板状工具圧痕が残存する。188は瀬戸美濃窯産陶器鍋で古瀬戸後期に属するものである。

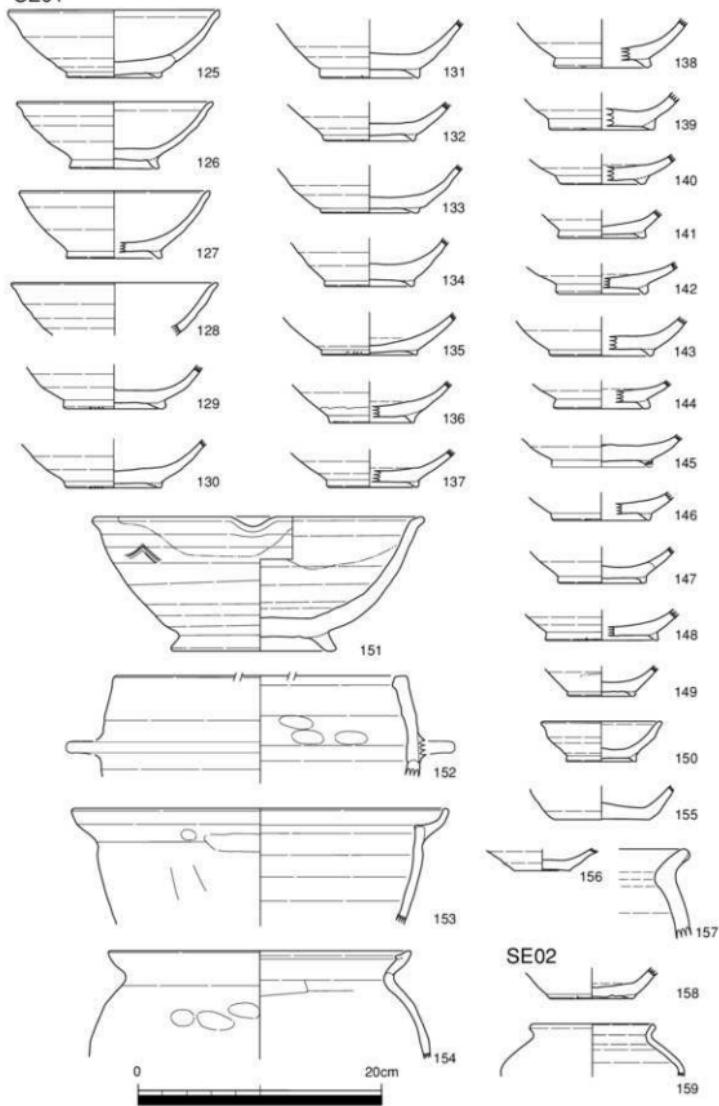
**S D 71 出土遺物** (第24図191～193) -- S D 71からは尾張型山茶碗と土師器南伊勢系鍋が出土した。山茶碗は第6型式に、鍋は北村分類 A 2類に各々属する。

**S D 81 出土遺物** (第24図195～199) -- S D 81からは瀬戸美濃窯産陶器や土師器内耳鍋などが出土した。陶器は古瀬戸後III期に属する灰釉平碗（195）や古瀬戸中期に属する灰釉卸皿（196）がある。196は卸目の部分にも灰釉がかかっている。199は東三河や遠江で多く出土するくの字形内耳鍋の口縁部でおそらく15世紀後半に位置付けられる資料である。

**S D 84 出土遺物** (第25図200～204) -- S D 84から出土した遺物には土師器内耳鍋と瓦などがある。瓦（204）は古代末から中世前半に

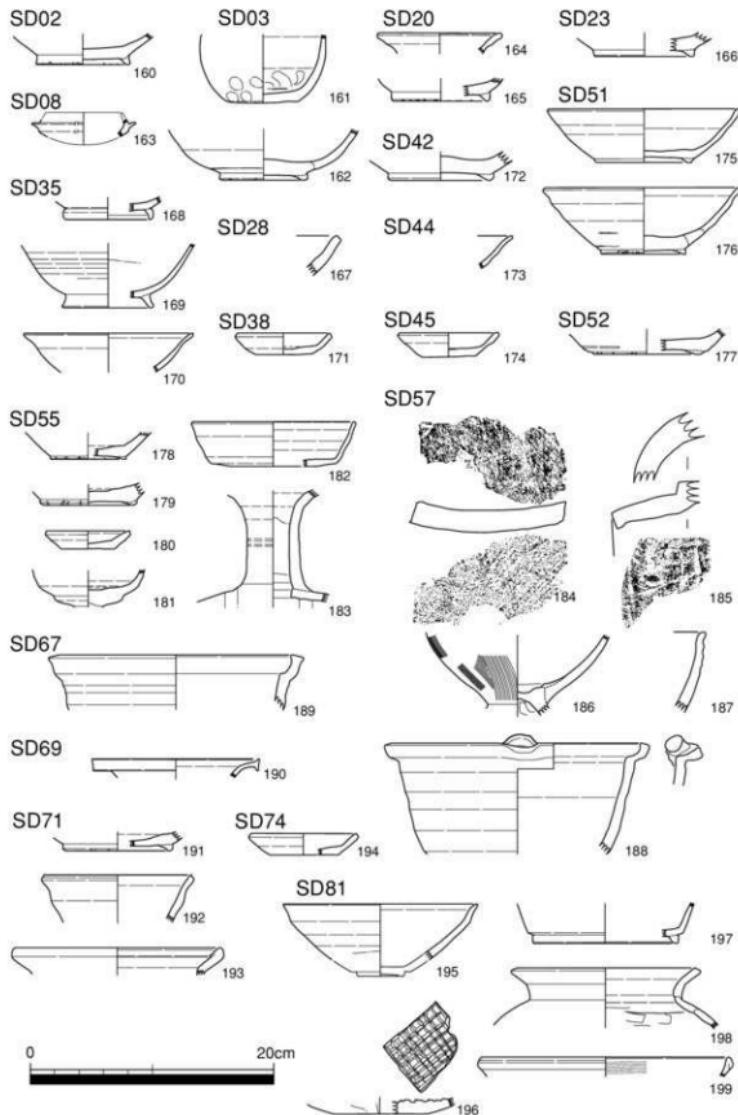
遺物

SE01



第23図 上面の出土遺物実測図（1）

天神前遺跡

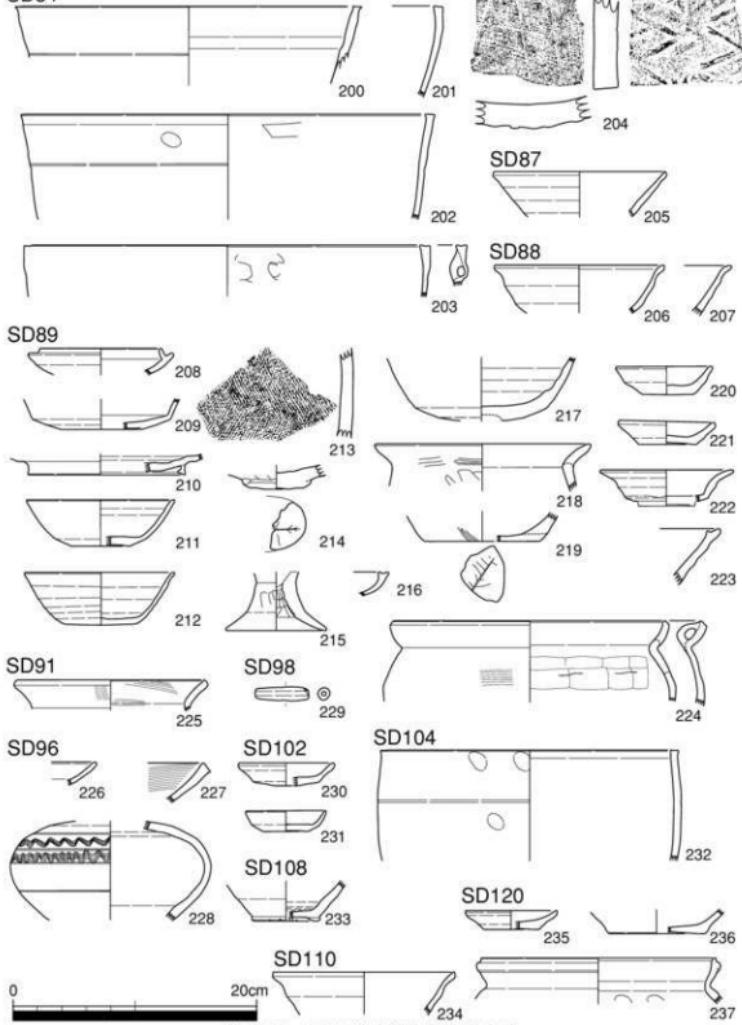


第24図 上面の出土遺物実測図（2）

属するもので他の遺物とは時期が合わないと考えられる。土師器内耳鍋は内凹形内耳鍋（200）と半球形内耳鍋（201～203）がある。後者は体部から口縁部にかけて直線的に直立し外面に浅い沈線を持つ西三河D1類（鈴木1996）で15世紀後葉に位置付けられる資料である。

S D 89出土遺物（第25図208～224）—S D 89からは多様な時期の遺物が出土する。比較的規模が大きく何度も掘り直されたため、下層の

## SD84



第25図 上面の出土遺物実測図（3）

## 天神前遺跡

遺物が多量に混入したものと理解される。古墳時代中期の土師器には壺（218・219）などがあり、214と219は底部に木葉痕が残存する。古墳時代後期から奈良時代にかけては須恵器の杯類（208～212）が多く出土した。208はH-50号窯式期に属する他はO-10号窯式期に属するものである。213は須恵器の壺類で外面に繩席文が施される韓式系須恵器である。5～6世紀に属すると思われる。中世では尾張型小皿や古瀬戸に属する瀬戸美濃窯産陶器、土師器くる字形内耳鍋等が存在する。近世に属する資料には土師器焙烙（216）があり、これが最新資料となっている。おそらく18世紀代のものと考えられる。

**S D 91 出土遺物**（第25図225）-- S D 91からは古墳時代後期と思われる土師器壺が出土した。

**S D 96 出土遺物**（第25図226～228）-- S D 96からは体部が逆ハ字状に開く土師器焙烙（227）が出土しており、焙烙としては古手のものと思われる。

**S D 120 出土遺物**（第25図235～237）-- S D 120から出土した土師器皿（236）には内面にタールが付着していた。

**S D 129 出土遺物**（第26図238～240）-- S D 129から出土した遺物にはK-90号窯式期に

属する灰釉陶器碗（239）が完形で存在する。

**S D 132 出土遺物**（第26図241・242）--241は常滑窯産陶器鶴口壺か。

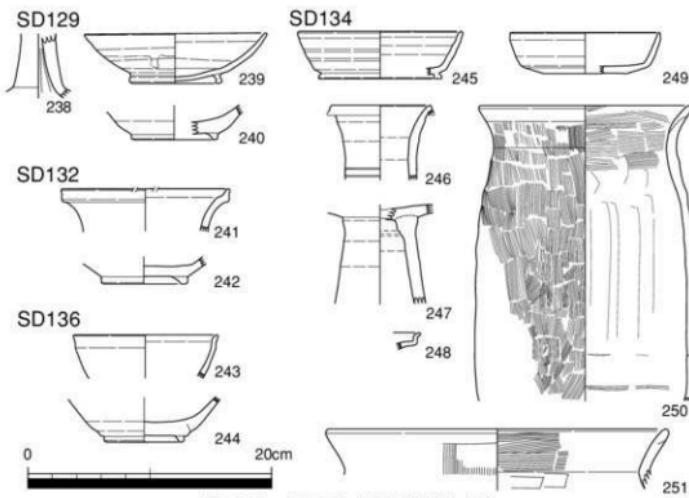
**S D 134 出土遺物**（第26図245～251）-- S D 134からは須恵器杯身、須恵器長頸瓶、須恵器高盤、土師器壺などが出土した。須恵器杯身（245・249）はO-10号窯式期、須恵器長頸瓶（246）はN N-32号窯式期、須恵器高盤（247）と盤（248）はO-10号窯式期に属し、8世紀後半に位置付けられる。250は外面にハケ調整が、内面下半にヘラケズリ調整が施された土師器長胴壺である。251も同様の製品と考えられ、8世紀代のものと位置付けてよいだろう。

**S K 83 出土遺物**（第27図253）--253は須恵器杯身で底部に「牛糞」と墨書きされている。N N-32号窯式期に属する資料である。

**S K 176 出土遺物**（第27図270）--270はほぼ完形で出土した尾張型山茶碗で第7型式に属する資料である。

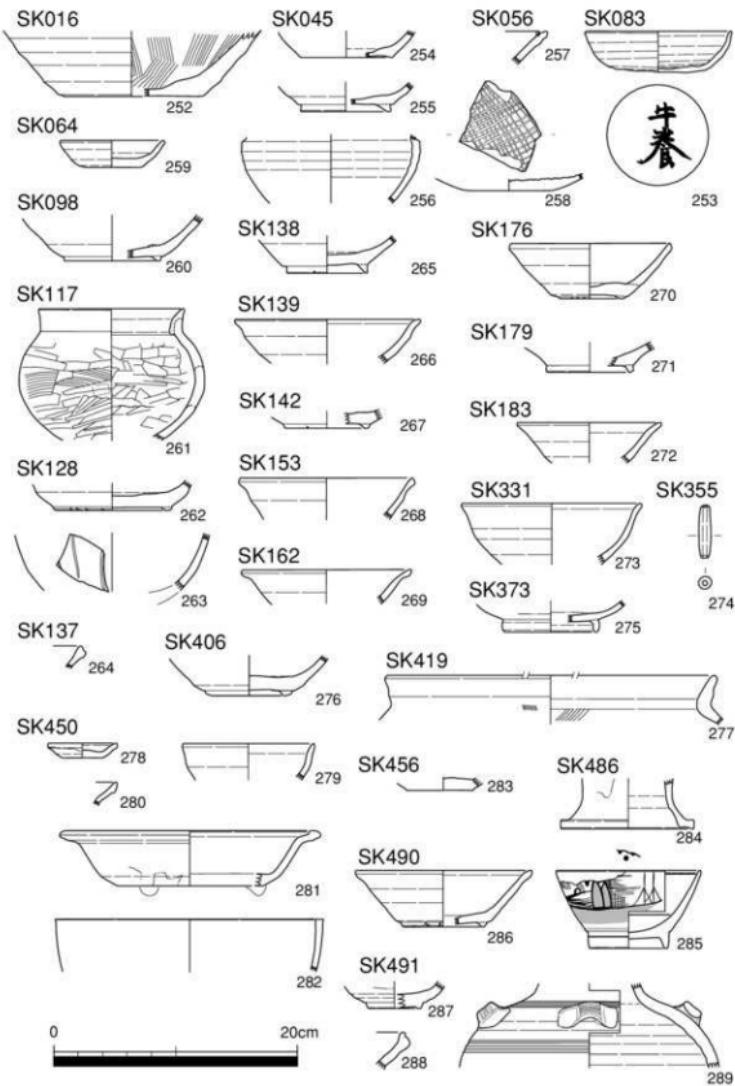
**S K 128 出土遺物**（第27図262・263）--263は中国泉州窯産青磁片切彫蓮弁碗でB 2類に属する

**S K 486 出土遺物**（第27図284・285）--284は瀬戸美濃窯産陶器瓶子III類の脚部で古瀬戸後ⅢかIV期に属する。285は瀬戸美濃窯産陶器広東茶碗で連房式登窯第10小期に属する。



第26図 上面の出土遺物実測図（4）

遺物



第27図 上面の出土遺物実測図（5）

天神前遺跡

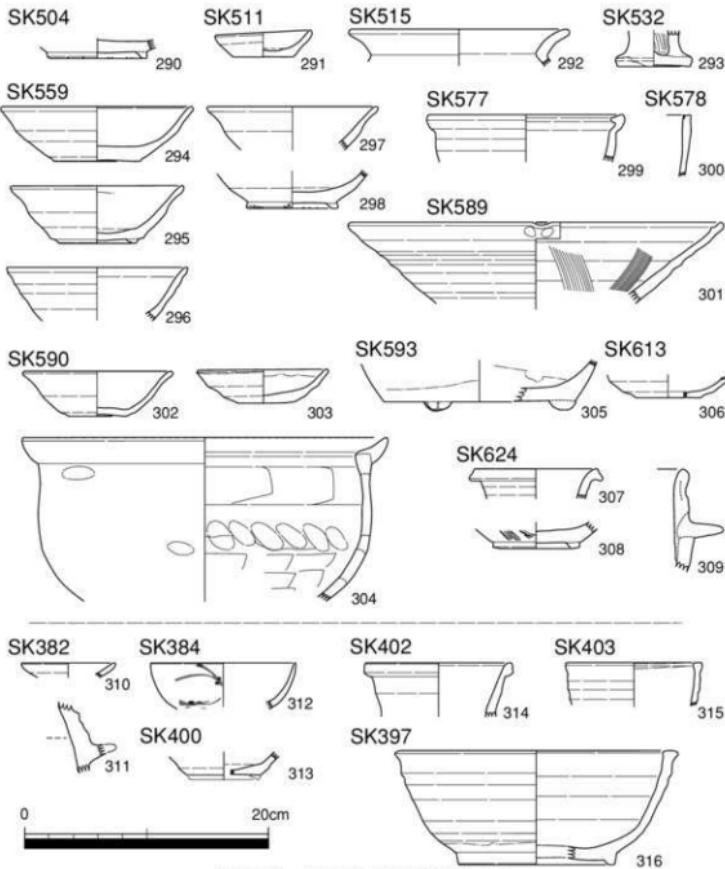
S K 559 出土遺物（第28図 294～298）--尾張型山茶碗がまとまって出土しており、第5型式から第6型式に属する資料である。

S K 590 出土遺物（第28図 302～304）-- I G 78号窯式期に属する須恵器碗A（302）と常滑窯産陶器鍋（304）と古瀬戸後IV期に属する瀬戸美濃窯産灰釉縁釉皿（303）がある。

S K 624 出土遺物（第28図 307～309）--308は湖西渥美型山茶碗の底部で第5型式に属する。体部外面に砥石として転用されたと思われる溝が数条設けられ、よく磨滅していた。

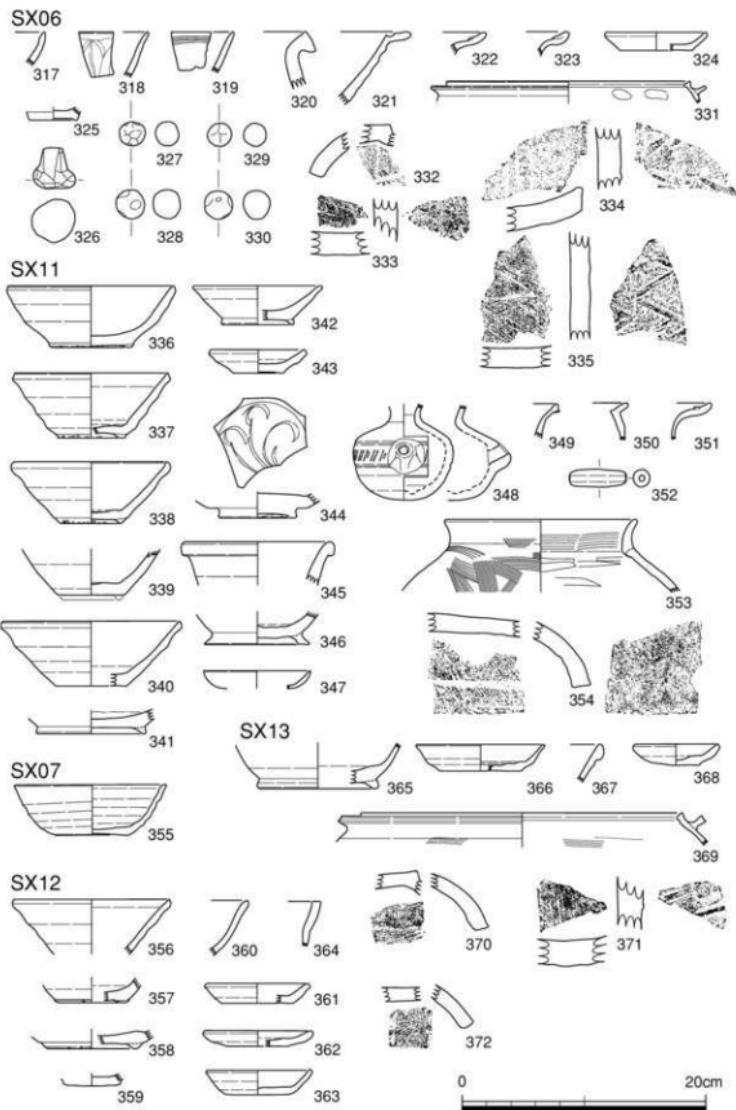
98 B 区方形土坑群出土遺物（第28図 310～316）--312は肥前窯産磁器の丸碗で18世紀後半に位置付けられる。波佐見窯のものか。315は瀬戸美濃窯産陶器香炉で連房式登窯第5か6小期に、316は瀬戸美濃窯産陶器こね鉢で連房式登窯第8小期にそれぞれ位置付けられる。

98 B 区落ち込み出土遺物（第28図 317～372）--浅い窪地に堆積した包含層中から出土した遺物をここでは一括して取り扱う。後述する上面包含層遺物と性格付けは基本的に変わらない資料群である。318と319は中国竜泉窯産青磁碗、



第28図 上面の出土遺物実測図（6）

遺物



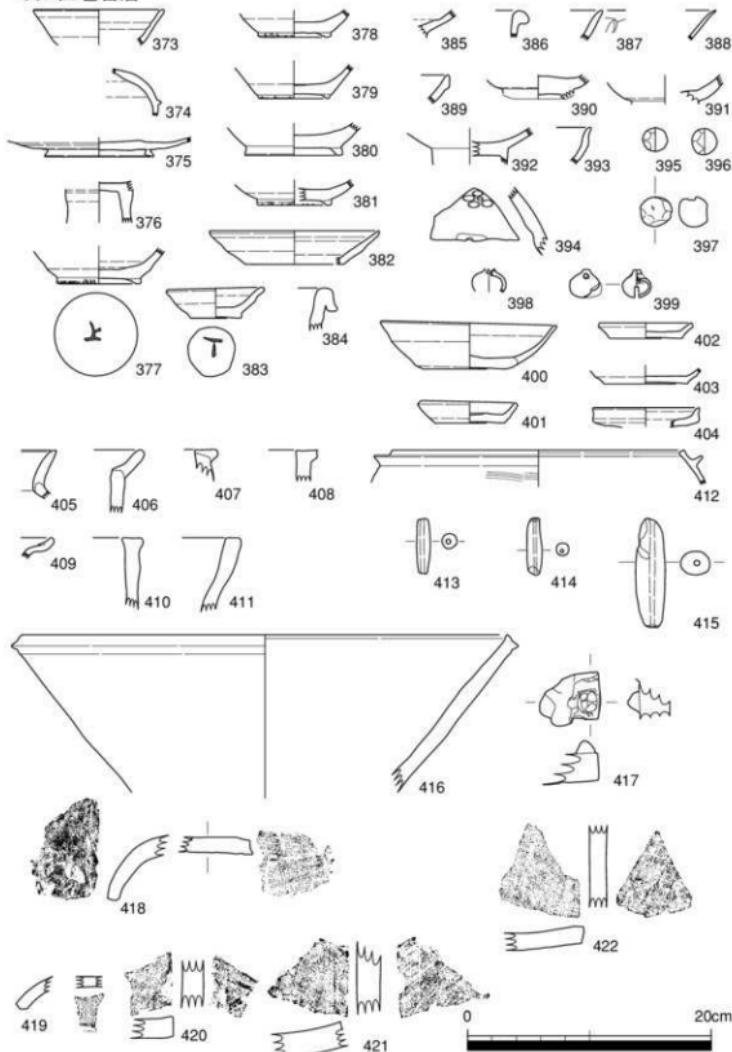
第29図 上面の出土遺物実測図（7）

天神前遺跡

322 と 323 は土師器南伊勢系鍋で北村分類の A 4 類に属する。331 は土師器銅付鍋（羽釜）で北村分類の A 4 類に属するが、口縁部に施され

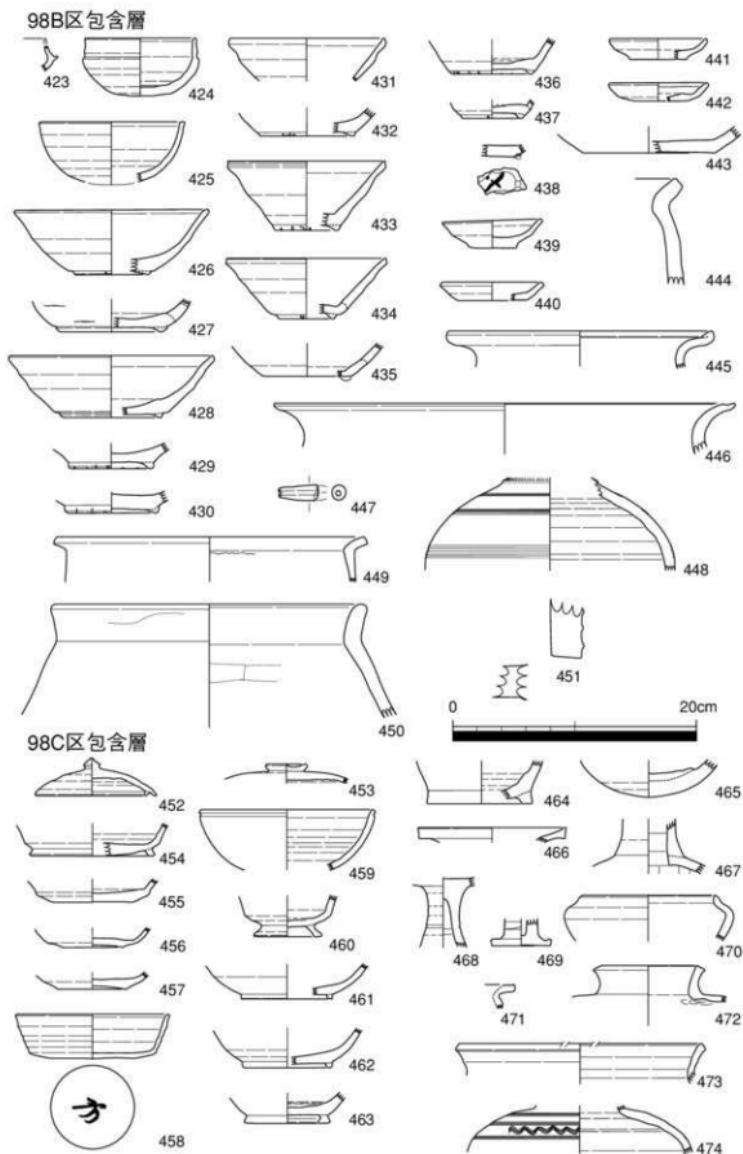
る穿孔はこの部分では認められない。326 は性格不明の土師器脚部である。332～335、354 および 370～372 は古代末から中世前期の瓦であ

98A区包含層



第 30 図 上面の出土遺物実測図 (8)

遺物



第31図 上面の出土遺物実測図（9）

## 天神前遺跡

る。尾張型山茶碗は第3型式から第8型式までの資料が揃っており336～339は第7型式、340は第8型式に属するものである。

98 A区上面包含層出土遺物（第30図373～422）～382は尾張型山茶碗の第9型式に属するもので藤岡窯の製品の可能性が高い。377と383には底部に墨書きが施され、前者は「上」、後者はT字状に記されている。398と399は土鉢、413～415は土鍤である。405～408は古代に属する土師器甕である。406はやや受け口状のくの字状口縁となっており永井分類のB類（永井1996）に近い。407と408は口縁端部が直角に外折し上部に端面がしっかりと残るものである。

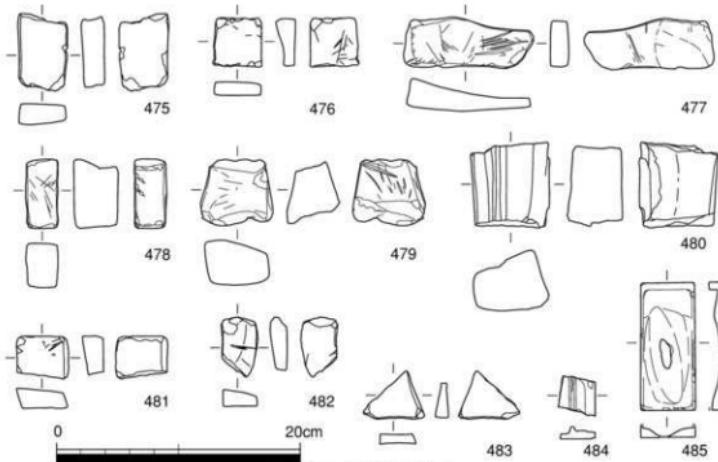
98 B区上面包含層出土遺物（第31図423～451）～438は底部に墨書きが残存するが判読できない。446は渥美窯産陶器甕の口縁部で12世紀後半に位置付けられる。

98 C区上面包含層出土遺物（第31図452～475）～全体に中世よりも古代に属する遺物が多い。452は湖西窯産の須恵器杯蓋である。時期はH-50号窯式期併行と考えられる。458はO-10号窯式期に属する須恵器杯身で底部に墨書きで「方」と記されている。470は尾張型中世無釉陶器の製品で形状は短頸壺となるものである。第4か5型式に属する資料である。

石製品（第32図475～485）～石製品には砥石と硯が存在する。砥石は全部で9点出土しており、全体の形状が扁平な直方体で下面（上面）を研ぎ面とするもの（475～477・481）と、全体の形状が方柱状で各側面を研ぎ面とするもの（479・480）、そして平面形が不定多角形となるもの（482・483）にわけることができる。側面などに鋸による切断痕が残存するものが多い。480が結晶片岩系の石材の他は凝灰岩系の石材である。485は比較的小振りの石硯で、中央が磨り減って孔が開いている。484は全形を推定し得ない小破片であるが、石硯の一部と推測される。これらの製品の時期は特定できないが出土地点から見て中世以降と思われる。

金属製品（第33図486～498）～金属製品には銅製品と鉄製品があり、銅製品には錢貨（486～493）、小柄の柄部（494）、煙管の吸口部（496）などがある。錢貨には渡来銭と国内銭があるが、渡来銭は98 B区の落ち込みS X 06などから多く出土した。国内銭は全て寛永通寶でいわゆる新寛永に属する。496は波状の沈線が巡らされている。鉄製品には刀子の破片（497・498）である。

金属関連遺物～金属関連遺物には、98 B区の落ち込みから出土した炉壁が1点と流动溝が1点存在する。この他に金属関連遺物と思われる



第32図 石製品実測図

資料がないことから、これらが金属製品生産に関わるものではない可能性が高い。

木製品（第34図499～504）--木製品には櫛と井戸水溜側の曲物筒がある。499は半分以上が欠損する横櫛で表面に漆膜が残存していた。花紋状の施紋が認められる。井戸の水溜に使用された曲物筒は各井戸で出土した。S E 02出土曲物筒は上下にタガを巻いたもので、各タガの中央付近で數カ所穿孔されていた。内面には約1.5cm間隔でケビキ（傷）が施されている。S E 01出土曲物筒は現状で4点存在したと判断したが、いずれも欠損しており相互に接合される可能性も残されている。タガを巻いたものが2点、タガの存在を確認できないものが2点ある。両者とも内面には約1.5cm間隔で垂直にケビキが施されているが、504は垂直方向のケビキに加えて斜方向にもケビキが認められる。

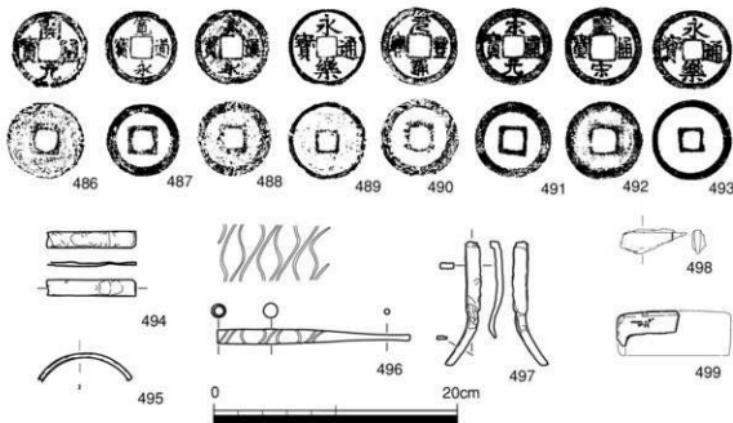
## 文献

藤澤良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」「研究紀要3」三重県埋蔵文化財センター

北村和宏1996「尾張平野における鎌倉・室町時代の煮沸具の編年」「年報平成7年度」（財）愛知県埋蔵文化財センター

鈴木正貴1996「東海地方の内耳鍋・羽付鍋・釜」「鍋と壺そのデザイン」東海考古学フォーラム

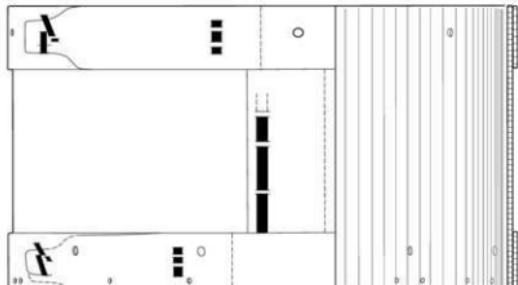
永井宏幸1996「清郷型鍋再考」「年報平成7年度」（財）愛知県埋蔵文化財センター



第33図 金属製品実測図

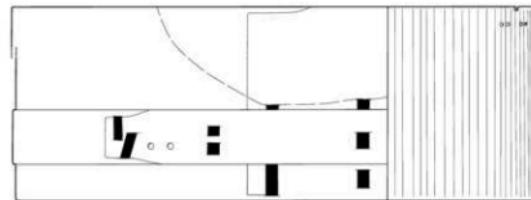
天神前遺跡

SE02

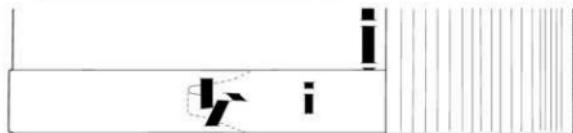


500

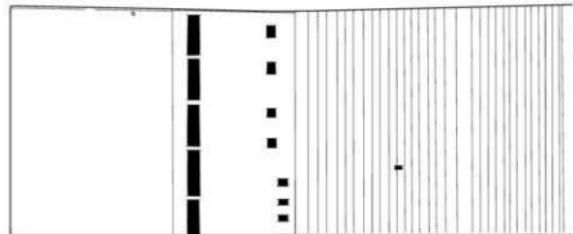
SE01



501

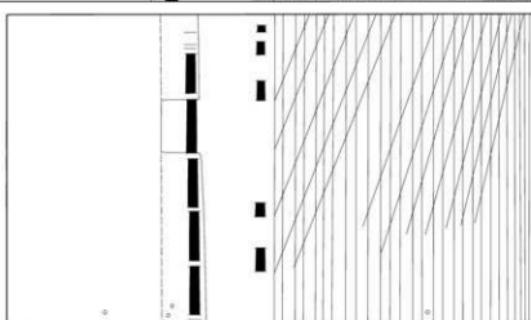


502



503

0  
20cm



504

第34図 木製品実測図

# 第4章 自然科学的分析

## 第1節 矢作川沖積低地、天神前遺跡地域の層序と古環境

### (1) はじめに

矢作川沖積低地の地下浅部に伏在する上部更新統最上部～完新統の地層は、主に矢作川下流域において層序が確立された。それらは下位より基底砂礫層・下部泥層・下部砂層・上部泥層・上部砂層・頂部泥層・頂部砂（礫）層に区分されている（松沢ほか、1965；森山・小沢、1972；森山・浅井、1980）。しかし、矢作川沖積低地の地下層序に関しては、低地の成立過程をも含めた地理学的・堆積学的手法に基づく検討はあまり行なわれてこなかった。今回、矢作川沖積低地の考古遺跡である天神前遺跡において、深掘トレンチ調査および微化石分析・放射性炭素年代測定を行ない、矢作川沖積低地完新統最上部層の層序・堆積シーケンスと古地理環境について考察を試みた。また、98B区において水田跡が確認されており、その検証のために植物珪酸体分析を、古環境解析のために花粉・珪藻分析を行なった。

### (2) 矢作川沖積低地の地理・地質概説

矢作川沖積低地は愛知県の中央部に位置する。西側を更新統碧海層に、東側を領家帯に囲まれる（第35図）。沖積低地は南北に細長く、明瞭な扇状地を欠く反面、顕著な自然堤防が発達する。とくに豊田市水源町付近の狭く部からその南方の西尾市にかけての地域には、小砾を含む粗粒砂からなる比較的規模の大きな自然堤防や堆積植物が発達する。

地下層序について、基底礫層は層厚0～15m、おもに砂礫からなる層で、豊田盆地から海岸部にいたる矢作川埋没谷を埋めている。下部泥層・下部砂礫層はそれぞれ層厚0～15mで粗粒砂～シルトからなり、海岸部ほど厚く堆積する。中部泥層は層厚0～15mで貝殻の破片を多く含む砂混じりのシルト～粘土層からなる。本層は繩文海進時に形成された海成層で、その分布範囲は東海道新幹線付近にまで及んでいる。上部砂層は層厚0～15mで粗粒砂～シルト混じ



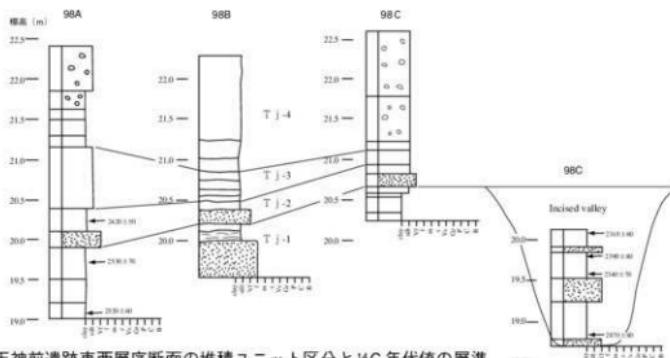
第35図 矢作川沖積低地周辺地域の地質図  
牧野内（1998）を基に作成、●は天神前遺跡の位置を示す。

りの砂層からなり、三角州の前置層として堆積したものと考えられる。頂部泥層は層厚0～5mで後背湿地部分に堆積しており、頂部砂（礫）層は層厚2～10mの現河床および旧流路の砂（礫）層である。

## 天神前遺跡

West

East



第36図 天神前遺跡東西層序断面の堆積ユニット区分と<sup>14</sup>C年代値の層準  
<sup>14</sup>C年代試料は有機物を含む粘土試料を用いた。

### (3) 試料および研究方法

深掘トレンチ調査を各調査区で行ない東西層序断面図を作成した。また、考古学的に水田跡と推定されている98B区において、その検証と古環境情報を抽出するため、水田平面の4地点(4筆)から採取した試料について花粉・珪藻・植物珪酸体の各微化石分析を行なった。粘土層の堆積年代を求めるため98A区の層序断面において下位層より暗褐色粘土層(標高19.1m)、植物茎の混じる暗褐色粘土層(標高19.7m)、暗褐色粘土層(標高20.3m)の3試料、98C区で確認された埋積谷を埋める堆積物を、下位層より黒灰色砂混じり粘土層(標高18.8m)、黒灰色砂混じり粘土層の下部(標高19.6m)と上部(標高19.8m)、黒褐色砂混じり粘土層(標高20.2m)の4試料の放射性炭素年代測定を行なった。なお、98A区の標高20.2~20.4mの暗褐色粘土層および他の調査区の相当層が古墳時代初頭の水田層にあたる。微化石分析および放射性炭素年代測定はパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。各分析方法を以下に記す。

#### 1. 放射性炭素年代測定

分析はパリノ・サーヴェイ株式会社を通じて学習院大学放射性炭素年代測定室が行なった。なお、放射性炭素の半減期としてLIBBYの半減期5,570年を使用した。年代値は同位体効果による測定誤差を補正した値である。

#### 2. 珪藻分析

乾燥重量1~10gの試料をトールビーカーにとり、過酸化水素水(35%)を加えて煮沸し、有機物の分解と粒子の分散を行なった。岩片除去の後、水洗を4~5回繰り返しながら同時に比重選別を行なった。分離した試料を希釈し、マウントメディア(和光純薬製)にて封入した。検鏡は600倍または1000倍の光学顕微鏡を使用し、各試料とも200個体を同定した。同定にはK. Krammer and Lange-Bertalot(1986·1988·1991a·1991b)、K. Krammer(1992)に従い、堆積環境の解析にあたって小杉(1988)、安藤(1990)、伊藤・堀内(1991)、Asai and Watanabe(1995)の環境指標種を参考とした。

#### 3. 花粉分析

試料を湿重で約10g秤量し、水酸化カリウム処理、篩別(250μm)、重液分離(臭化亜鉛、比重2.2)、フッ化水素酸処理、アセトリシス処理の順に物理・化学的な処理により花粉・胞子化石を分離・濃集した。処理後の残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製した後、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類(taxa)について同定・計数を行なった。

#### 4. 植物珪酸体分析

各試料の植物珪酸体含量を調べるために、秤量時に乾燥重量を測定する。これを過酸化水素

水・塩酸処理、超音波処理(70W, 250KHz, 1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理し、植物珪酸体を分離・濃集する。濃集した部分を沈殿管で3.0mlに定容し、よく攪拌して一定量(20μml)を採取し、ブリュウラックスで封入してプレラートを作製した。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数した。

#### (4) 分析結果

##### 1. 深掘トレンチの層序と層相

発掘調査区全体の最も西側に位置する98A区から東側の98C区で、それぞれ深掘トレンチ調査を行ない層序断面を作成した。天神前遺跡地点では、その層相により下位からTj-1～Tj-4の4つのユニットに区分される(第36図)。

Tj-1:Tj-1は標高18.7～20.5mで見られる粘土層を主体とする堆積物である。特に98A区・98C区において顕著である。98B区でのみ標高20.0mを境として上位でシルト層、下位で層厚約50cmの細粒砂が堆積する。粘土層は灰色～暗褐色を呈する塊状・均質な粘土から構成され、まれにヨシの茎部を主体とする植物遺体を含む。本ユニットからは考古遺物は確認されない。また、98C区では全体に南方向へ数度の傾斜角をもったシルト層と極細粒砂層との互層が見られ、その互層を削剥して粘土層を主体とする埋積谷が確認される。粘土は灰色～暗褐色を呈する塊状・均質な粘土からなり、間に層厚10～20cm程の極細粒砂層を挟む。

Tj-2:Tj-2は標高19.9～20.9mで見られる。Tj-2の基底は明瞭な侵食面をもつ層厚約20cmの極細粒砂層から構成される。砂層中にはフォアセット葉理が確認され、北西・南東ないし西・東の古流向を示す。砂層の上位は極細粒砂を混じるシルト層からなる。本シルト層の上部で古墳時代初頭と推定される水田跡が確認される。Tj-3:Tj-3は標高20.4～21.2mに見られる灰色～暗褐色を呈する砂質シルト層からなる。明瞭な堆積構造は確認できなかった。本層からは考古遺物が確認される。

Tj-4:Tj-4は標高20.9～22.6mで見られる塊状・均質なシルト層や、基質にシルト質粘土層を混じえる細～中疊サイズの疊層からなる。固結度が高いことが特徴である。本層からは考古遺物が確認される。

##### 2. $^{14}\text{C}$ 年代測定と出土考古遺物の結果

Tj-1:98A区の粘土層および98C区の埋積谷中の粘土層の7試料の $^{14}\text{C}$  年代測定を行なった。98A区では標高19.1mで2520 yrs BP、標高19.7mで2530 yrs BP、標高20.3mで2420 yrs BPの年代値がそれぞれ得られた。98C区では標高18.8mで2870 yrs BP、標高19.6mで2340 yrs BP、標高19.8mで2390 yrs BP、標高20.1mで2310 yrs BPであった。よってTj-1は縄文時代晩期の堆積物と判断される。

Tj-2:Tj-2からは古墳時代初頭の年代を示す考古遺物が出土しており、古墳時代初頭もしくはそれより若干古い時代の堆積物と判断される。Tj-3:Tj-3からは古代後半～中世に至る考古遺物が確認されており、その間に堆積したものと判断される。

Tj-4:Tj-4では現代の遺物が確認されるとともに、地表面は発掘調査前まで水田として使われていた。よって、近・現代の堆積物である。

##### 3. 花粉分析

98B区の水田跡と推定される堆積物の上部から試料を採取した。その花粉分析結果を第4表に示す。花粉・シダ類胞子の保存状態は極めて悪く、表面に風化の痕跡がみられるものがほとんどである。シダ類胞子がほとんどであり、花粉化石は針葉樹花粉を中心にわずかに認められる程度である。

##### 4. 植物珪酸体分析

98B区の水田跡堆積物より試料を採取した。結果を第37図に示す。水田平面試料の全ての植物珪酸体含量は約2万個/gであり、概して短細胞珪酸体の含量が多い。イネ属は試料番号1で機動細胞珪酸体がわずかに含まれるにすぎず、他の試料からは全く認められない。いずれの試料もタケアキ科の含量が著しく多く、ヨシ属・ウシクサ族・イチゴツナギ亞科などが認められる。

##### 5. 硅藻分析

98B区の水田跡堆積物から試料を採取した。結果を第38図に示す。硅藻化石は、いずれの試

種類	試料番号	1	2	3	4
木本花粉	-	-	-	-	-
セミ花粉	-	2	4	2	1
マツ花粉	-	2	4	1	1
コウモリモドキ	-	-	1	-	-
クインディ属、アヤダ属	-	-	1	-	-
ブナ花粉	-	-	-	-	-
コナラ属二ナラ属	-	-	2	-	-
シロカシ属アカガシ属	-	-	1	-	-
ニホンケヤハ属	-	1	-	-	-
日本松	-	-	-	-	-
イチジク	-	-	-	1	-
エリザベス	-	1	-	-	-
イモ芋属	-	-	2	-	-
タケモ属	-	-	1	-	-
メダカ属	14	112	197	143	-
合計	-	120	214	185	-

第4表 98 B区水田平面の花粉分析結果

料でも100個体以上産出したものの、統計的に有為な200個体以上を産出するものはなかった。産出分類群数は18属58種で、完形殻の出現率は20~30%である。珪藻化石群集の特徴はいずれの試料でも類似している。群集組成は、全体的に貧塩不定性種が約90%、真・好アルカリ性種が約60%、流水不定性種が40~50%を占める。また、真・好流水性種が25~40%、乾燥に耐性のある陸生珪藻が30~35%と比較的多く産出する。その他は、様々な生態性の種が低率で産出する。大きく優占する種はなく、比較的多く産出する種として陸生珪藻の中でも特に乾燥に耐性のある陸生珪藻A群(伊藤・堀内、1991)・好汚濁性種の *Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻A群・好汚濁性種の *Navicula mutica*、真流水性種・上流性河川指標種(安藤、1990)の *Gomphonema sumatrense*などが10%前後の割合で産出する程度である。

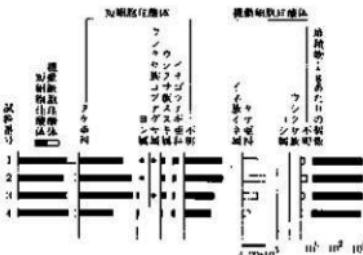
### (5) 考察

#### 1. 堆積環境と堆積システム

今回得られた天神前遺跡地点での層序断面および分析データに基づき堆積システムの解釈を試みる。なお、層序断面には出土する考古遺物から相対年代軸を刻むことができる。なお、時間軸の境界は、考古遺跡の遺構検出面として捉えることのできる同時間面である。

天神前遺跡地点は今回Tj-1~Tj-4に区分された。このうちTj-1が縄文時代晚期、Tj-2が古墳時代初頭ないしは若干古い堆積物、Tj-3が古代後半~中世、Tj-4が近・現代と判断される。

Tj-1は<sup>14</sup>C年代測定から2870~2310 yrs BPの年代値を示す粘土層である。98C区ではシルト

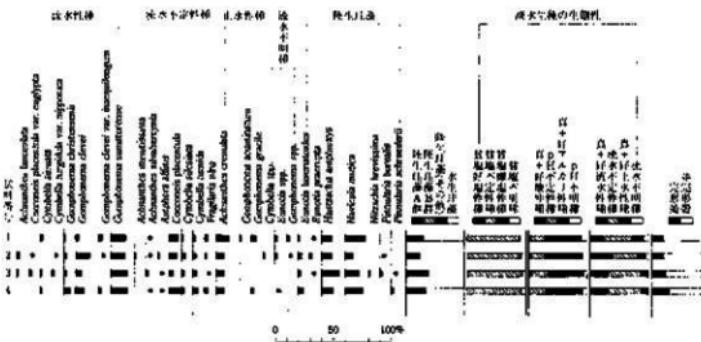


第37図 98 B区水田平面の植物珪酸体含量

と極細粒砂との互層を明瞭に削削して埋積谷内に粘土層が堆積していた。98C区で見られた互層全体が一方向に数度の傾斜をもつて傾斜する構造は、Miall(1985)の河川堆積物構造要素のLAにあたる。本構造が下位で見られることから、天神前遺跡地点では河川環境の卓越した環境であったことがわかる。また、互層を削削する埋積谷底基の粘土層が2870±80 yrs BPを示すことから、その頃に堆積システムが変化したものと判断される。

矢作川沖積低地では、縄文時代晚期頃の年代値を示す粘土やシルトなどの細粒碎屑物が分布するという報告がある(森ほか、1990；森・前田、1993；川瀬、1998)。森ほか(1990)は、天神前遺跡より約20km南の愛知県西尾市の岡島遺跡地点においてボーリングコア資料の層序記載と珪藻分析を行なっている。そこでは標高約1.0~2.0mに砂を混じえる腐植質シルト層の堆積が確認されており、2840±80 yrs BP頃に海生珪藻種群から淡水生種群が卓越する環境へと変化したことがわかっている。また、矢作川沖積低地だけではなく濃尾平野においても同様な傾向が報告されている。鬼頭(2000)は濃尾平野中央部、愛知県稲沢市の一色青海遺跡において層序解析と珪藻分析を行なった。一色青海遺跡地点では標高-0.6mを境として上部デルタ平原から河川卓越環境へと堆積システムが変化し、それは2870±70 yrs BPであった。

岡島遺跡および一色青海遺跡ともに、縄文時代晚期を示す細粒堆積物の堆積環境はデルタロープの海側への前進に伴い、その頂部に出現したデルタ平原堆積物と判断される。デルタ平



第38図 98B区水田平面の珪藻化石群集組成

原上の堆積物が上部デルタ平原から河川卓越環境へと変化する年代が 2870 yrs BP 頃を示すことがわかる。天神前遺跡の調査地点は矢作川沖積低地の陸側にあたり、粘土層の堆積年代が 2870 yrs BP を示したことから、海側のみならず陸側においても細粒碎屑物を堆積させる環境であったことがわかる。

以上のような繩文時代晚期頃に見られる細粒碎屑物の成因について、川瀬(1998)は静穩な気候を反映したものとした。一方で、デルタ堆積物頂部に有機物に富む堆積物が見られることが、Home et al.(1978)、Elliott(1975)、Woodrow and Sevon(1985)により地質時代の例が報告されている。その成因については、気候のほか海水準変動、テクトニックな影響などの要素が複雑に関係するものと思われる。Tj-1の成因については、今後どの要素の影響が大きかったのかを明らかにするためにも、矢作川沖積低地を広範囲に調査する必要があろう。

Tj-2基底にはフォアセット葉理の見られる極細粒砂層が見られた。フォアセット葉理は突然的に生じる洪流水により生じたものと思われる。砂層の上位に見られるシルト層もフォアセット葉理を形成したような洪流水により堆積したものと判断される。洪水流の到達するような自然堤防護辺部分と推定でき、そのような緑辺部に古墳時代初頭の水田が構築されたものと思われる。

Tj-3およびTj-4では堆積構造が全く確認されず、詳細な堆積環境の判断は難しい。しかし、

シルト層から構成される堆積物の卓越と、考古遺物の多産によりTj-2以降に堆積物の累積が進んだ自然堤防堆積物と推定される。Tj-2～Tj-4までは基本的に自然堤防堆積物である。

## 2. 水田跡の検証と古環境

98B区では考古学的に水田跡と推定される遺構が確認された。水田を構成する堆積物の花粉・珪藻・植物珪酸体の各微化石を行なったが、微化石の保存状態は概して悪く、統計的に有為な200個体を計数することはできなかった。以下は定性的な組成からの議論であることをお断りしておく。

花粉化石の保存状態は極めて悪かった。花粉化石は好気的環境下において風化されやすい。田畠の土壌は耕作により好気的状況になりやすいことから、花粉化石が分解してしまった可能性がある。

珪藻分析では優占する種群は見られなかつたものの、陸生珪藻が30~35%と比較的多く産出した。中でも特に乾燥に耐性のある陸生珪藻A群（伊藤・堀内、1991）・好汚濁性種の*Hantzschia amphioxys*、陸生珪藻A群・好汚濁性種の*Navicula mutica*が確認され、好気的な環境にあったことを示す。

植物珪酸体を用いた水田の検証に関しては、全機動細胞珪酸体中のイネ属の比率を基にする例や(近藤, 1988)、1gあたりの個数を基にする例(杉山, 1989; 古環境研究所, 1994; 1996など)などいくつかの手法がある。現水田の調査による水田土壤中の植物珪酸体の調査によれば

ば、機動細胞珪酸体中のイネ属の割合は9%であるが、稻藁を堆肥として与えている水田では16%に上がるという結果が得られている（近藤, 1988）。また、1g中のイネ属機動細胞珪酸体の量が5000個を越えると、その土壤で水田が行われていたとする考えもある（杉山, 1989；古環境研究所, 1994など）。しかし、今回の結果をみると、イネ属珪酸体はほとんど検出されていない。なお、静岡平野では、水田遺構から検出されるイネ属機動細胞珪酸体の量が1gあたり3000個以下と少ない層位も存在する（古環境研究所, 1996）。今回の場合は耕作の期間が短い、栽培規模が小さい、耕土へ還元される稻藁が少ないので、洪水による作土の流失などの影響によって、イネ属機動細胞珪酸体が耕土中に蓄積しなかったことが考えられる。一方、タケア科の産出は多いが、タケア科の植物珪酸体は生産量が多く、風化にも強いため沖積低地などでは多産することが多い。従って、タケア科は他に検出されるヨシ属やウクサ族などとともに周辺に生育していた可能性はあるが、植物珪酸体組成でみられるほど多く生育してはいなかったと思われる。（鬼頭 剛・小野映介・尾崎和美）

## 謝辞

本論をまとめるにあたり、パリノ・サーヴェイ株式会社の辻本祐也氏には花粉および植物珪酸体化石の分析結果について貴重な意見をいただいた。図面の作成では愛知県埋蔵文化財センター調査研究補助員の岩本佳子氏、同整理補助員の服部恵子氏・宇佐美美幸氏、後藤恵里氏にお世話をになった。以上の方々に記して厚くお礼申し上げます。

## 文献

- Asai K. and Watanabe T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saproxylic and saproxenous taxa, Diatom, 10, 35-47.
- 安藤一男, 1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用, 東北地理, 42, 73-88.
- Elliot, T., 1975, The sedimentary history of a delta lobe from a Yonedeal (Carboniferous) cyclothem : Yorkshire Geological Society, Proceedings, 40, 505-536.
- Horne J. C., Ferm, J. C., Caruccio, F. T. and Baganz, B. P., 1978, Depositional models in coal exploration and marine planning in Appalachian region : American Association of Petroleum Geologists, Bulletin, 62, 2379-2411.
- 伊藤良水・堀内誠示, 1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用, 硅藻学会誌, 6, 23-45.
- 川瀬久美子, 1998, 矢作川下流低地における完新世後半の地形環境の変遷, 地理評, 71A-6, 411-435.
- 鬼頭 剛・森 勇一・堀木真美子・尾崎和美, 2000, 弥生時代中期の乾燥環境を示す生物相：濃尾平野一色青海遺跡を例として, 日本文化財科学会第17回大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会, 82-83.
- 古環境研究所, 1994, 塚田遺跡付近のプラント・オーバール分析, 「塚田遺跡-長野県北佐久郡御代町塚田遺跡発掘調査報告書-」, 長野県御代町教育委員会, 356-358.
- 古環境研究所, 1996, 静岡県、岳美遺跡におけるプラント・オーバール分析, 「静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第75集岳美遺跡(遺物編) 平成4・5年度静清バイパス(岳美地区)埋蔵文化財発掘調査報告書」, 財團法人静岡県埋蔵文化財調査研究所, 57-67.
- 近藤練三・佐瀬 隆, 1986, 植物珪酸体分析, その特性と応用, 第四紀研究, 25, 31-64.
- 近藤練三, 1988, 十二遺跡土壤の植物珪酸体分析, 「十二遺跡-長野県北佐久郡御代町十二遺跡発掘調査報告書」, 御代町教育委員会, 377-383.
- 小杉正人, 1988, 硅藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用, 第四紀研究, 27, 1-20.
- Krammer K., 1992, PINNULARIA, eine Monographie der europäischen Taxa, BIBLIOTHECA DIATOMOLOGICA BAND 26, BERLIN · STUTTGART, 1-353.
- Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1986, Bacillariophyceae, Teil 1, Naviculaceae, Band 2/I von : Die Süßwasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 876p.
- Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1988, Bacillariophyceae, Teil 2, Epithemiaceae, Bacillariaceae, Surirellaceae, Band 2/2 von : Die Süßwasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 536p.
- Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1991a, Bacillariophyceae, Teil 3, Centrales, Fragilariaeae, Eunotiaceae, Band 2/3 von : Die Süßwasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 230p.
- Krammer K. and Lange-Bertalot H., 1991b, Bacillariophyceae, Teil 4, Achmanthaceae, Kritische Ergänzungen zu Navicula (Lineolatae) und

- Gomphonema, Band 2/4 von : Die Suesswasserflora von Mitteleuropa, Gustav Fischer Verlag, 248p.
- 牧野内 猛, 1988, 岡崎平野地域, 日本の地質 5 「中部地方 II」, 共立出版, 169-171.
- 松沢 熊・嘉藤良次郎・北崎梅香・進藤義武, 1965, 衣浦地区的地質構造および地盤地質, 都市地盤調査報告書, 9, 建設省計画局・愛知県, 16-31.
- Miall, A. D., 1985, Architectural element analysis : a new method of facies analysis applied to fluvial deposits, Earth. Sci. Rev., 22, 261-308.
- 森 勇一・永草康次・伊藤隆彦, 1990, 4章 自然科学分析, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第14集「岡島遺跡」, 愛知県埋蔵文化財センター, 36-50.
- 森 勇一・前田弘子, 1993, 珪藻および昆蟲化石群集から得られた岡島遺跡の古環境変遷, 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第43集「岡島遺跡 II・不馬入遺跡」, 愛知県埋蔵文化財センター, 87-132.
- 森山昭雄・小沢 恵, 1972, 矢作川流域の沖積平野の地形と沖積層について, 第四紀研究, 11, 193-207.
- 森山昭雄・浅井道広, 1980, 矢作川河床堆積物と供給岩石の造岩鉱物との粒度組成関係, 地理学評論, 53, 557-573.
- 杉山真二, 1989, ブラント・オパール, 練馬区弁天池低湿地遺跡の調査, 練馬区教育委員会・練馬区遺跡調査会, 133-143.
- Woodrow, D. L. and Sevon, W. D., eds., 1985, The Catskill Delta : Geological Society of America, Special Paper 201, 246p.

## 第5章 考察とまとめ

### 第1節 古墳時代中期の土器について

天神前遺跡下面からは比較的にまとまった状態で古墳時代中期に属する土器群が出土した。良好な遺構一括出土資料には恵まれたとはいがたいが、いくつかの段階区分を設定することが可能であったことから、これらの土器群の年代的な問題について若干の検討を加えよう。

出土した土器群は大半は土師器ではんのわずかに須恵器が混じる程度である。土師器の組成は、く字形口縁台付壺、く字形口縁（無台）壺、屈折脚有稜高杯、（屈折脚）楕円高杯、柳ヶ坪型壺、小型壺、鉢などがある。こうした屈折脚の高杯を伴う時期については、これまでに「上条・荒新切式」（大參 1968）、「青山式」（久永・斎藤 1969）、「神明式」（川崎 1988・加納 1991）や尾張においては「松河戸様式」（赤坂 1994）などが設定されてきた。最近では豊田市神明遺跡出土資料を中心に分析を加えた森泰通（森 1996・森 2001）や川崎みどり（川崎 1996）などの考察があり、神明遺跡に地理的に近い天神前遺跡の土器様相を語る上で大いに参考になるものである。

森は、まず森 1996 論文で、土師器における古い傾向と新しい傾向を整理し、これらの組み合わせと須恵器の出土状況や遺構などから 5 段階に区分した。具体的には、高杯部が浅い方が古いこと、高杯部の口縁部が斜めに立ち上がる方が古く上方に立ち上がる方が新しいこと、高杯部の口縁部の内縁志向がない方が古いことなどを指摘している。次いで、森 2001 論文では、4 期 1 0 段階区分の神明編年案を提示した。この編年ではⅢ期が須恵器が出現する段階に設定されており、次に述べる川崎編年のⅤ世紀前半古相などを 4 世紀代に当てている。

一方、川崎は、高杯を基軸に据えて 5 世紀代の土器編年を考察している（川崎 1996）。そこでは、5 世紀前半では屈折脚の高杯が出現し、他に壺、小形壺を中心に少量の壺を伴い、元屋敷式に由来する器種はほとんど見られないと言ふ。5 世紀後半（神明式）では浅い半球形の杯

類が出現し、台付壺、平底壺、鍋形・瓶形土器や直口壺などがあるという。5 世紀前半は高杯の形状から古相と新相に分けている。

さて、こうした成果を踏まえて天神前遺跡の土器を段階区分して検討を進めたい。

土師器高杯は、杯稜部に粘土貼付突部を持たないもの（高杯 A）と持つもの（高杯 B）に分けられる。高杯 A は、杯底の屈折が弱く結果として楕円状になる高杯 A 1（川崎 B 1 類）、杯底に稜を持ち口縁がわずかに外反する高杯 A 2（川崎 A 1 類）、杯底に稜を持ち杯部が浅く開く高杯 A 3（川崎 A 2 類）、口縁部が内縁する高杯 A 4（川崎 B 2 類）に分けられる。98 A 区包含層出土資料の多くは高杯 A 1 と高杯 A 2 で、SD 1001 出土資料は高杯 A 3 で、SD 1008 出土資料は高杯 A 4 で各々占められている。高杯 B についても、SD 1008 出土資料では杯口縁部が内縁しており、高杯 A と同様の傾向を読み取ることができる。以上の高杯の形態変化と遺構の切り合い関係からみて、天神前遺跡の古墳時代中期の土器は次の 3 段階に区分することが可能である。

1 段階は高杯 A 1・2 が主体となる時期で、98 A 区包含層出土資料や S B 1001 出土資料などがあげられる。川崎編年の 5 世紀前半代古相、森編年の I—2 期に相当する。元屋敷式に由来するとされる柳ヶ坪型壺（114）は、口縁部が比較的の直立し刺突文もやや省略された比較的新しい様相を持っており、この 1 段階に位置付けてもよいと思われる。

2 段階は高杯 A 3 が主体となる時期で、SD 1001・SD 1006 出土資料などがあげられる。川崎編年の 5 世紀前半代新相、森編年の II 期に相当する。

3 段階は高杯 A 4 が主体となる時期で、SD 1003・SD 1008 出土資料などがあげられる。川崎編年の神明式、森編年の III 期に相当する。98 C 区から宇田型壺の影響を受けたと考えられる台付壺の脚（122）が出土しており、これはこ

の段階に位置付けられる可能性が高い。

以上の結果、天神前遺跡の古墳時代中期の土器は3段階に分けられる。SD 1006やSD 1008は水田状遺構を切ることから、天神前遺跡で確認された水田状遺構や堅穴状遺構の所属時期は1段階(5世紀前半吉相前後)に位置付けられ、少なくとも3段階(神明式:5世紀後半)には廃絶されたと考えられよう。

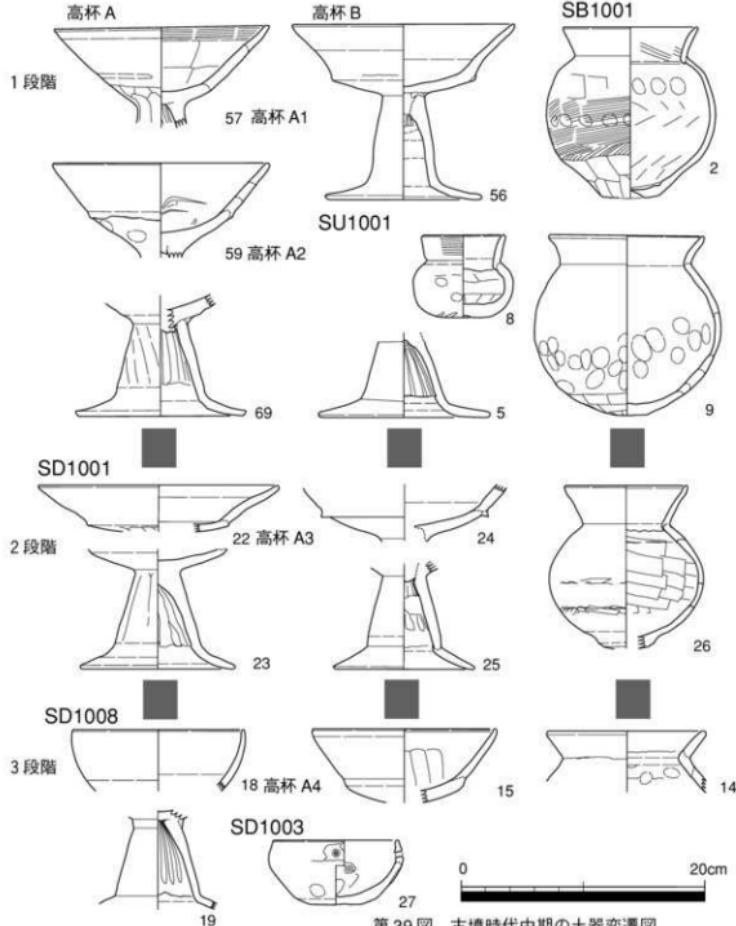
赤塚次郎 1994「松河戸様式の設定」「松河戸遺跡」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書

大參義一 1968「弥生式土器から土師器へ-東海地方西部の場合-」『名古屋大学文学部研究論集 史学16』

加納俊介 1991「東海」「古墳時代の研究6」雄山閣出版

川崎みどり 1988「元屋敷式と神明式の間」「古代第86号」早稲田大学考古学会

川崎みどり 1996「神明遺跡再報告」「神明遺跡」農



第39図 古墳時代中期の土器変遷図

## 天神前遺跡

豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集

久永春男・斎藤嘉彦 1969「高橋遺跡出土の弥生式土器と土師器の編年」『高橋遺跡発掘調査報告書』豊田市教育委員会

森泰通 1996「古墳時代中期の土器」「神明遺跡」豊

田市埋蔵文化財発掘調査報告書第6集

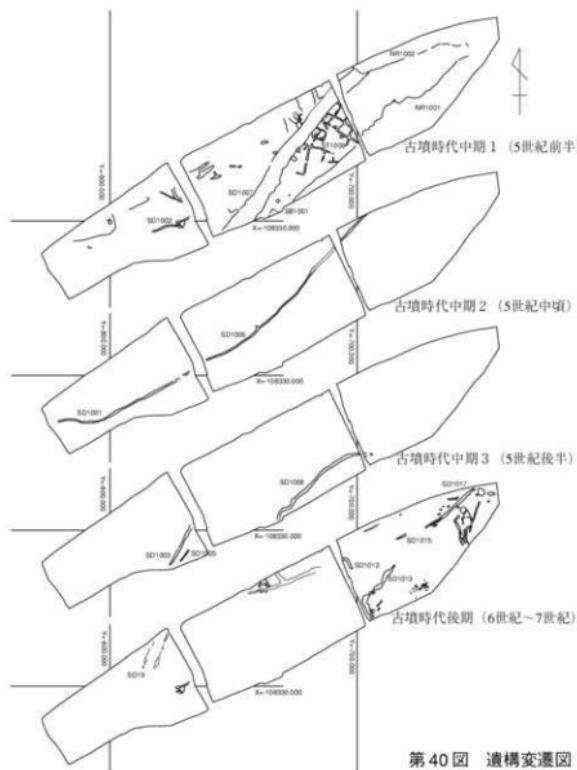
森泰通 2001「古墳時代中・後期土器の編年試案」「神明遺跡II」豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

## 第2節 遺物出土分布からみた天神前遺跡の動向

天神前遺跡の各遺構から出土した遺物(特に最新遺物の時期)をもとに遺構の変遷をまとめたのが第40図と第41図である。また、遺物をグリッドごとに出土点数を数え、遺物の種類別で分布図を作成したのが第42図~第43図である。これらをもとに天神前遺跡の動向をまとめておく。

1) 古墳時代中期(5世紀) -- この時期は遺

構の切り合い関係や土器の段階区分から3段階に区分される。初めに水田状遺構とそれに関連すると思われる自然流路や溝、堅穴状遺構などが展開した。水田状遺構は早い段階で機能しなくなつたと思われ、次の段階では溝のみが確認されている状態であり、6世紀代に至ってもこうした遺構が希薄な状況は変わらないようである。この段階の遺物は98A区南半から98B区

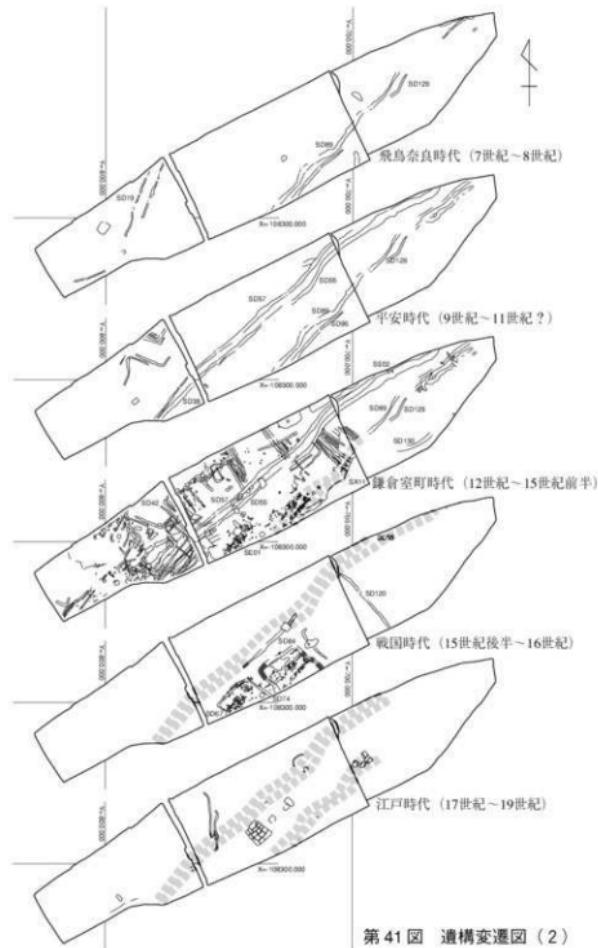


第40図 遺構変遷図(1)

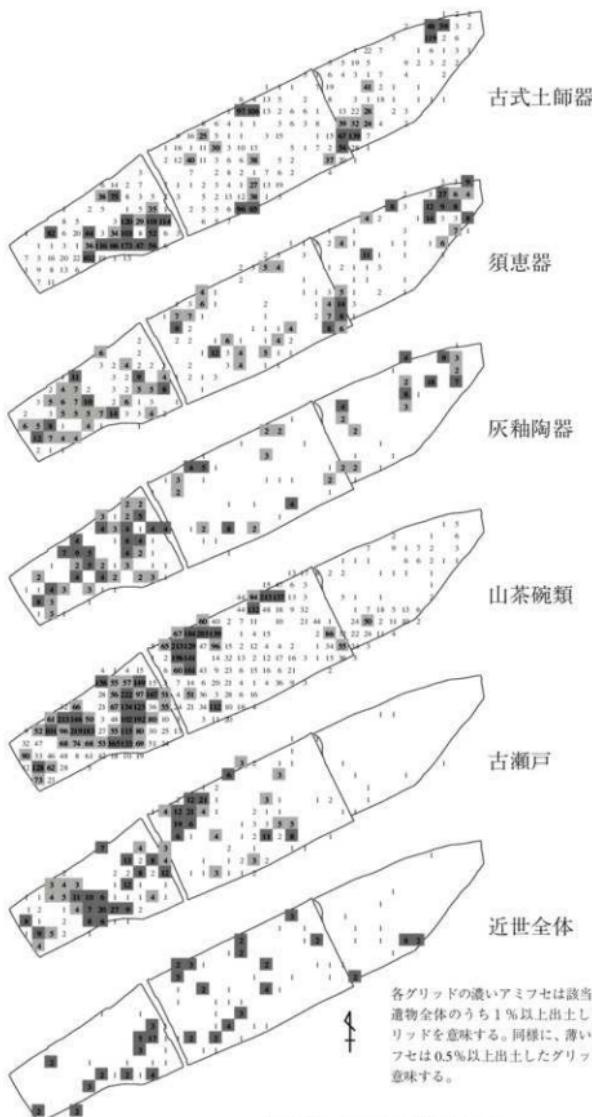
全体にかけて分布する。特に S D 1007周辺での土器の出土量が多い。水田状遺構の周辺では土器の出土は基本的に認められないことから、S B 1001の南部があるいは調査区外の他の地点で居住域が展開していたと考えられよう。

2) 古墳時代後期～奈良時代(6～8世紀) -この段階でも遺構はあまり多くはなく、溝と土坑などが存在する程度である。「牛糞」墨書き

須恵器が土坑から出土するなどの事例があるものの、確実な建物遺構などを確認することはできなかった。ただし、7世紀以降には S D 89 と S D 129などの道路状遺構と思われる溝が掘削されはじめられたと思われ、この地割(方位)が後世の遺構配置に大きな影響を与えている。遺物は全調査区で認められるものの絶対量は少なくなっている。しかし、その中でも北東部の



第41図 遺構変遷図(2)

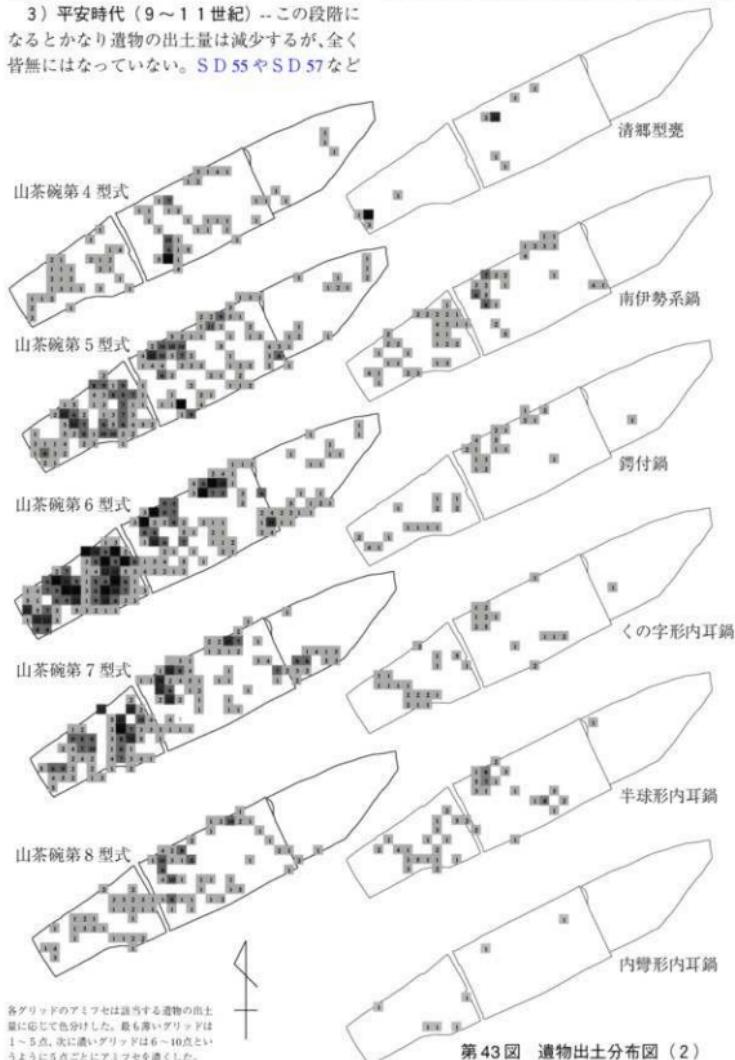


第42図 遺物出土分布図（1）

98C区で遺物が集中する地点が存在しており、98C区に居住域が存在したかあるいは近接する水入跡に関連して遺物が伴ったものと思われる。

3) 平安時代(9~11世紀) -- この段階になるとかなり遺物の出土量は減少するが、全く皆無にはなっていない。SD55やSD57など

の道路状造構やSD35などの空間を区画するような溝が検出されていることから、土地が区画され近隣に人々がいて活動していたことは確かであろう。遺物量が少ないとどのように



第43図 遺物出土分布図(2)

## 天神前遺跡

評価するかによって性格付けが変わってくると思われるが、居住域であったとは考えにくい状況である。

4) 鎌倉時代から室町時代（12世紀～15世紀前半）--この時代では、SD 57の南東を中心としたに掘立柱建物跡が展開するエリアと、畝状に溝が集中する畠推定地のエリアなどが展開している。該当する遺構が多く複雑に切り合うために、この時期をさらに細分することは非常に難しい。この時期の遺物は広範囲かつ濃密に分布するようになる。ただし、他の近隣の遺跡に比べると、遺物は小破片が多く出土量もそれほど多くないと推察される。遺物は98 A区全体から98 B区中央部までに多く認められ、98 C区に行くに従い遺物量は減少する。特に落ち込みとなっているSD 55の北西側に遺物が集中している傾向があり、掘立柱建物跡が展開するエリアではかえって出土遺物は少ない。

また、こうした遺物が多く出土する時期は尾張型山茶碗類の生産が活発な第7型式段階（13世紀後半）までのことであり、これ以降遺物は激減する。この状況を読み取れば14世紀以降は遺跡の機能は低下したと理解されよう。しかし翻って土師器鍋類が検討すると、12～13世紀代におおよそ位置付けられる鍋（多くは南伊勢系鍋）は数量が少ないと分布は点在している。一方、14～15世紀前半におおよそ位置付けられる鍋（多くは鍔付鍋）も出土量は少ないが、

南伊勢系鍋と同様に点在して分布することがわかる。つまり、土師器鍋で遺跡の動態を検討すると鎌倉時代から室町時代を通じて均質な土師器鍋類の消費が認められることとなる。土師器鍋類の消費量からみれば、天神前遺跡の人々の活動は中世を通じて同様に行われていたと推測され、従って居住域は長く継続していたことが予想される。

5) 戦国時代（15世紀後半～16世紀）--この段階になると、SD 57の南に建物跡群が展開するエリアに区画溝SD 67やSD 84が設定されるようになる。しかし、この部分の該当する時期の遺物は14～15世紀前半の段階とあまり変わらない状況である。従って、少なくとも鎌倉時代には始まったSD 57の南に建物跡群が展開する居住域は戦国時代まで連続し、15世紀後半に屋敷を囲む溝を設定するようになったと理解される。ただし、この段階では98 B区の北部から98 C区にかけては遺物の分布が非常に減少する。

6) 江戸時代（17世紀～19世紀）--この段階になると、方形土坑群から出土する遺物以外は、ほとんど遺物が存在しない状態となる。おそらくこの段階では天神前遺跡では居住域としての役割を終えたのではないかと推察される。現在までの水田であった状態はこの段階まで遡ると思定される。

## 第3節 まとめ

天神前遺跡を理解するためには、周辺の遺跡の成果と合わせて考えなければならない。南に隣接する郷上遺跡も、天神前遺跡と同様の時間幅を持つ遺跡であり、特にその動向を把握しなければ正確な理解にはたどり着けないと考える。郷上遺跡の調査成果が公刊されるのを待つて改めて考えていきたいと思う。

しかしながら、古墳時代中期の生産跡やそれ以降の居住域を確認し得たことは重要な成果である。遺構の時期を特定し得なかつたものが多い点は、大きな問題点として残されるが、一方遺跡としての理解と言ふ意味においてはある程度の成果がでたのではないかと考える。大方のご叱正とご指導を賜りたく思う次第である。

# 付表・図版

## 付表

1 遺構一覧表.....	56 ~ 69
2 遺物一覧表.....	70 ~ 80

## 図版

遺構図版 1 .....	上面遺構全体図 (縮尺 1:800)
遺構図版 2 ~ 7 .....	上面遺構図 (縮尺 1:200)
遺構図版 8 ~ 9 .....	上面遺構拡大図 (縮尺 1:100)
遺構図版 1 0 .....	下面遺構全体図 (縮尺 1:800)
遺構図版 1 1 ~ 1 6 .....	下面遺構図 (縮尺 1:200)
写真図版 1 ~ 8 .....	遺構写真
写真図版 9 ~ 1 6 .....	遺物写真

### 遺構一覧表の凡例

1、新遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。遺構記号は以下の通りである。

N R—自然流路、S A—柵列、S B—建物、S D—溝、S E—井戸、S K—土坑、  
S T—水田状遺構、S X—その他

2、区と旧遺構番号は、発掘調査当時（年報記載）の番号である。写真・記録類や遺物ラベルなどは全てこの番号で記録されている。なお、欠番は出土遺物がない等の理由から調査時点では遺構番号を付けなかったものである。

3、長軸、短軸、深さは検出された遺構の規模をcm単位で計測したものである。したがって、この数値は本来の遺構の規模ではない。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。

4、遺物の項目には、図化した遺物の図版番号と、それ以外の遺構から出土した遺物の種別と破片数を示した。

### 本文掲載遺物一覧表の凡例

1、遺物番号は、本文掲載の実測図などの番号である。

2、遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。

3、法量についてはcm単位で計測した。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。また、数値の前に記された「推」は復元推定値を示している。

4、調整痕や使用痕については「内面」と「外面」に分けて表記した。

5、遺物の登録は、本書掲載の遺物番号で整理されている。

新造番号	区	旧遺構番号	長	幅	厚	高さ	字面形	断面形	地	土	埴	物	備考
NR1091	B	NR501	残280	残258	28				不明				
NR1101	C	NR02	残755	残1474					不明				
NR1102	C	NR04	残6168	残846					不明				
SA0001	B		400										
SA0002	B		1230										
SA0003	B		780										
SA0004	B	SA01	820										
SB0001	A	?	420	残300									
SB0002	A	?	430	200									
SB0003	B	?	410	240									
SB0004	B	?	400	240									
SB0005	B	?	660	残480									
SB0006	B	?	残130	残200									
SB0007	B	?	500	残260									
SB0008	B	?	300	280									
SB0009	B	?	360	510									
SB0010	B	?	270	200									
SB0011	B	?	280	280									
SB0012	B	?	70~20	埋480									
SB0013	B	?	470	390									
SB0014	B	?	260	120									
SB0015	B	?	720	420									
SB0016	B	?	320	100									
SB0017	B	?	410	280									
SH1001	B	SB501	残98	残84	長方形		不明		1~4土	壁24			
SD0001	A	SD40	残62	43	7		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土					
SD0002	A	SD41a	残74	53	12		U字形	暗灰褐色質シルト+灰色シルト質砂礫土に炭化	160				
SD0003	A	SD42	残148	63	40		U字形	黒褐色シルト+暗灰褐色質シルト質砂礫土	161~162土加2中世2中世3				
SD0004	A	SD44	485	59	17		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土					
SD0005	A	SD19	残1335	44	16		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土	土加3臥室2				
SD0006	A	SD39a	697	69	12		U字形	不明					
SD0007	A	SD43	残490	残68	5		U字形	不明					
SD0008	A	SD16	残72	46	13		圓形	黒褐色シルト質砂+灰色シルト質砂	163土加2中世2				
SD0009	A	SD18	残28	34	17		U字形	灰色シルト+暗オリーブ色シルト質砂	SD18を切る				
SD0010	A	SD17	309	24	4		U字形	黒褐色シルトシルト	中世1不明6				
SD0011	A	SD22	残429	73	17		U字形	黒褐色シルト	土加2				
SD0012	A	SD23	残267	18	5		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土	灰瓶1				
SD0013	A	SD27b	残492	62	7		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土					
SD0014	A	SD25	281	39	5		U字形	黒褐色シルト+灰色質シルト質砂					
SD0015	A	SD20	残119	29	6		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土					
SD0016	A	SK09	486	77	19	細円形	U字形	黒褐色シルト+灰色質シルト	中世1				
SD0017	A	SD36b	残58	56	13		U字形	不明					
SD0018	A	SD12	残227	61	14		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂礫土	中世1				
SD0019	A	SD56	残2164	63	3		U字形	不明					
SD0020	A	SD15	残497	69	12		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂	164~165				
SD0021	A	SD58	494	52	9		U字形	不明					
SD0022	A	SD29	残1487	58	11		U字形	黒褐色シルト+灰色質シルト質砂					
SD0023	A	SD27a	残1172	72	25		U字形	不明	166				
SD0024	A	SD37	残378	33	5		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂	灰瓶1				
SD0025	A	SD11					U字形	暗灰褐色シルト質+黒褐色シルト質砂					
SD0026	A	SD10					U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂					
SD0027	A	SD52	残267	37	10		U字形	不明					
SD0028	A	SD31	残2809	68	12		U字形	黒褐色シルト+灰色質シルト質砂	167	SD22, SD29, SD39, 421, 切られる			
SD0029	A	SD30	1627	89	13		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂	土加4灰瓶1				
SD0030	A	SD55	残232	54	14		U字形	不明					
SD0031													
SD0032	A	SD04	残1810	117	27		U字形	不明					
SD0033	A	SD14	残1694	残88	15		不定形	本文参照					
SD0034													
SD0035	A	SD32	残908	84	4		U字形	黒褐色シルト	168~170				
SD0036	A	SD33	残734	73	13		圓形	黒褐色シルト+灰色質シルト質砂					
SD0037	A	SD06	残1345	84	15		U字形	不明	土加1灰瓶1中世1				
SD0038	A	SD05	残11036	154	30		U字形	不明	171土加11中世24				
SD0039	A	SD02	残1671	89	14		U字形	本文参照		土加3中世4			
SD0040	A	SD34	残394	49	9		U字形	黒褐色シルト+灰色シルト質砂					
SD0041	A	SK148	残416	84	11	不定形	圓形	不明					
SD0042	A	SD35	残39	74	13		U字形	本文参照	172灰瓶1灰瓶1中世1				
SD0043	A	SD40b	656	71	6		U字形	本文参照					
SD0044	A	SD41b	残604	91	9		U字形	本文参照	173中世4				
SD0045	A	SD08	残1057	163	13		U字形	不明	174土加1中世1				
SD0046	A	S003	1158	48	3		圓形	不明	土加1				
SD0047	A	SD51	残739	32	6		U字形	本文参照					

## 構造一覧表(2)

付表

新造機番号	C	旧造機番号	鉄	錫	銅	深さ	半面形	無面形	塵	土	造物	備考
SD0048	A	SD36a	968	67	16		U字形	黒褐色シルト				
SD0049	A	SK149	残318	49	8	長円形	U字形	灰色シルト質砂+黒褐色シルト質土				SK177, SK178, SK181に切られる
SD0050	B	SD53	残1116	71	9			黒褐色シルト+オリーブ色中粒砂質土				
SD0051	A	SD07	残1286	143	12		皿形	不明			175~176土盤3中粒1中世2	
SD0052	A	SD09	残951	残53	15		U字形	不明			177中世5	
SD0053	B	SD92	残587	93	9			黒褐色砂質シルト+灰色シルト質砂質土			土盤9个中世2	
SD0053	B	SD96	残434	118	16			黒褐色シルト			中世8	
SD0054	B	SD58	801	25	6			灰オリーブ色砂				
SD0055	B	SD05	残11269	154	30		U字形	灰褐色砂質シルト+黒褐色シルト質土			178~183土盤3中世2近世1	
SD0055	B	SD83									土盤3中世8近世7	
SD0055	C	SD09									土盤44個4中世4	
SD0056	B	SD90	残398	84	8			灰オリーブ色+黒褐色砂質シルト質土				
SD0057	B	SD03	残804	94	14		U字形	黒褐色砂質シルト+黑色シルト質土			194~195土盤5中世1中世3近世1	
SD0057	B	SD91	残840	94	14			黒褐色砂質シルト+黑色シルト質土				
SD0057	C	SD14	残840	94	14			不明				
SD0058	B	SD94	残493	54	17			黑色シルト+灰オリーブ色砂質土				
SD0059	B	SD49	残1090	62	7			黒褐色砂質シルト			中世3	
SD0059	B	SD50	残1200	31	11			黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト質土			中世4不明2	
SD0060	B	SD47	残 512	66	16			灰色砂粒+黒褐色シルト質土				
SD0061	B	SD48a	残308	71	10	U字形		黄褐色砂粒+質砂+灰オリーブ色細粒砂質土			中世1中世1明1	
SD0062	B	SD52a	残1957	67	11			黒褐色シルト			土盤1中世1不明2	
SD0063	B	SD97	残466	169	34			黒褐色砂質シルト			土盤1原生1中世1	
SD0064	B	SD105	残1600	69	24			不明			土盤8	
SD0065	B	SD93	残181	76	11			黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト質土			宿2	
SD0066	B	SD51	残1048	89	15			黒褐色シルト+灰褐色中粒砂質土			灰褐色1中世1不明1	
SD0066	B	SD59	405	79	16			暗灰褐色砂質シルト			中世1	
SD0067	B	SD76	残2994	93	12		U字形	黒褐色シルト+中粒砂質土			189中世37その25	
SD0068	B	SD86	残657	60	7			黒褐色砂質シルト				
SD0069	B	SD88	残374	残46	9			黒褐色砂質シルト			190	
SD0070	B	SD95	残398	67	6			黒褐色シルト+暗灰褐色砂質シルト質土				
SD0071	B	SD102	残1244	76	13		皿形	黒褐色シルト+灰色砂質シルト質土			191~193土盤5中世5	
SD0072	B	SD108	残1006	54	7			オリーブ色黒褐色シルト質土				SD77,78の下部
SD0073	B	SD101	残281	42	12			黑色シルト+オリーブ色砂質シルト質土			土盤1原生3	
SD0074	B	SD81	781	108	10		皿形	灰オリーブ色+細粒砂+黒褐色シルト質土			194中世1不明5	
SD0075	B	SD98	残264	46	11			黒褐色砂質シルト			土盤1	
SD0076	B	SD102						不明				
SD0077	B	SD107	残891	残81	8		皿形	黑色シルト+灰色シルト質土			中世3不明2	
SD0078	B	SD104	残634	68	19			黑色シルト+暗灰褐色細粒砂質土			中世4不明1	
SD0079	B	SD103	残1278	56	8			黒褐色砂質シルト+シルト質土上に細粒砂混			中世2	
SD0080	B	SD38	398	56	20			黒褐色+灰褐色シルト+暗灰褐色砂質土				
SD0081	B	SD37	3042	129	30			不明			195~199土盤20中粒1中世23	別セクション図SD82と同じ
SD0081	B	SD82	3042	129	30			黒褐色砂質シルト			中世19その他の12	
SD0082	B	SD106	424	47	11			暗灰褐色シルト+暗褐色鐵+中粒砂質土			200~204中世6その他3	別セクション図
SD0083	B	SD22	残2905	125	34			灰色シルト+黑色シルト質土			中世6中世1不明2	
SD0084	B	SD72	残999	94	21		V字形	黒褐色砂質土上に灰褐色細粒砂混			200~204中世6その他3	別セクション図
SD0084	B	SD74	残1894	119	29			黒褐色砂質シルト+粗粒砂質土			中世104個(同)の他の22	
SD0084	B	SD77	残794	89	12			黒褐色シルト			中世22その他の21	
SD0085	B	SD13	残1588	82	24		皿形	黄褐色シルト+黑色シルト質土			土盤2世紀3不明8	
SD0086	B	SD39	236	51	2		皿形	灰オリーブ色砂質シルト			中世3不明2	
SD0087	B	SD26	残1519	107	14		皿形	灰オリーブ色+黑色砂質シルト質土			205~206中世1中世7	
SD0088	B	SD25	残1468	108	8		皿形	黑色+灰リーブ色砂質シルト質土			206~207土盤1中粒4中世2	
SD0089	B	SD42	残7666	152	18		皿形	黒褐色シルト+黑色シルト質土			208~226中世6中粒1その他の10	別セクション図C[SD28]と同一
SD0089	C	SD16	残2272	136	14			不明			土盤5原生11灰褐色	SD134を切り、SK0266335SD135に切られる
SD0090	B	SD100	残362	57	17			黒褐色砂質シルト				
SD0091	B	SD27	残480	残144	30			黒褐色シルトと灰オリーブ色砂質シルト質土			225土盤8中世2	
SD0092	B	SD117	残1089	94	13			不明				
SD0093	B	SD21	残1093	62	13			黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト質土				
SD0094	B	SD113	残462	41	9			黒褐色砂質シルト				
SD0095	B	SD112	残271	44	5		U字形	黒褐色砂質シルト				
SD0096	B	SD45	残2817	53	31		U字形	暗灰褐色砂質シルト質土			226~228土盤8原生1中世1	別セクション図
SD0097	B	SD20	残908	126	22	椭円形	箱形	褐色砂粒+砂			229中世2不明10	
SD0098	B	SD20	1964	68	15			黒褐色シルト+砂			中世4不明2	
SD0099	B	SD68	1964	68	15		U字形	灰褐色砂質シルト上に粗粒砂混			中世3~4不明2	
SD0100	B	SD67	残566	104	21		U字形	オリーブ色+灰褐色砂質シルト上に砂混			中世2~3中世6不明7	
SD0101	B	SD35	827	33	7			黒褐色砂質シルト				
SD0102	B	SD178	残560	175	2			不明			中世6不明1	
SD0103	B	SD71	692	47	13			黒褐色シルト+砂混			230~231中世2近世1不明2	
SD0104	B	SD70	残673	72	13		V字形	黒褐色+灰褐色砂質シルト質土				別セクション図
SD0104	B	SD70	残673	79	22		V字形	灰褐色砂質シルト			232土盤8中世7不明3	別セクション図

新遺物番号	区	田邊構造番号	長	幅	厚	深さ	字面形	裏面形	地	土	埴	物	備考
SD00105	B	SD28	西1268	33	7				黒褐色シルト				
SD00106	B	SD069	西189	68			U字形		黒褐色砂質シルト+灰オリーブ色シルト斑土				
SD00107	B	SD46	西690	74	25		圓形		黄褐色砂質シルト				
SD00108	B	SD30	西03	76	15		圓形		黄褐色砂質シルト		233	中世2世紀5	
SD00109	B	SD33	西156	38	6				不明				
SD00110	B	SD14	西045	97	11				黒褐色砂質シルト		234	中世1不明1	
SD00110	B	SD32	西441	42	5		圓形		黒褐色砂質シルト				
SD00110	B	SD43	西578	102	11				黒褐色砂質シルト				
SD00111	B	SD12	665	64	13		圓形		黒褐色+灰褐色砂質シルト+灰色シルト斑土				
SD00111	B	SD65	西130	47	8		U字形		黒褐色砂質シルト+灰オリーブ色シルト斑土				頭泡1不明2
SD00112	B	SD31	西401	41	9		圓形		黒褐色砂質シルト				
SD00113	B	SD11	813	61	10		U字形		黒褐色+黄褐色砂質シルト+灰褐色シルト斑土				
SD00114	B	SD10	西1103	64	10		U字形		黒褐色+黄褐色砂質シルト+灰褐色シルト斑土				
SD00115	B	SX12							黄褐色中粒の小塊+褐色+黒褐色シルト斑土				
SD00116	B	SD63	448	50	6				灰色シルト質跡+黄褐色シルト斑土				
SD00117	B	SD66	西335	34	16		U字形		黒褐色砂質シルト				
SD00118	B	SD08					圓形		黒褐色オリーブ色砂質シルト				
SD00119	B	SD07	西820	101	7				暗褐色+黄褐色シルト+細粒砂質				
SD00119	C	SD25	西820	101	7				不明				
SD00120	C	SD22	西2916	129	17				不明		235~237	土加7頭泡2个付43	SD89を切る
SD00121	C	SD07	西1873	217	18				不明				SK609, SD57, 128を切る
SD00122	C	SD08	西122	38	14				不明				
SD00123	C	SD24	西885	75	9				不明				SD89に切られる
SD00124	C	SD23	西36	77	7				不明				SD89に切られる
SD00125	B	SD63	西556	178	26		圓形		黄褐色シルト+黄褐色中粗粒砂斑土				
SD00126	B	SD64	西706	101	19		V字形		黄褐色シルト+オリーブ色中粗粒砂斑土				
SD00127	C	SD26	613	92	11				不明				SD89を切る
SD00128	C	SD15	西651	63	33				不明				SD55, 121に切られる
SD00129	C	SD06	西4518	99	15				不明		238~240	土加7灰褐色7付44	SK62, 63, SD312, 135に切られる
SD00130	C	SD27	西132	163	9				不明				
SD00131	C	SD11	西292	186	24				不明				SD55に切られる
SD00132	C	SD13	884	174	17				不明		241~242	土加7灰褐色15付43	SD129を切る
SD00133	C	SD17	647	59	13				不明				
SD00134	C	SD19	西1307	76	16				不明		245~251	土加26頭泡14灰8付9	SK626, 63, SD135, 136に切られる
SD00135	C	SD05	西678	147	36				不明				SD89, 129, 134を切る
SD00136	C	SD18	西1129	58	8				不明		243~244	土加1頭泡)	SD134を切り、SK626, 63, SD55に切られる
SD00137	C	SD02	西1058	276	11				不明				SK632を切る
SD00106	B	SD501	西8728	119	15				不明		11~12	土加6	
SD00106	B	SD503	西8728	119	15				不明				
SD00106	B	SD513	西8728	119	15				不明				
SD00107	B	SD500	西8896	696	34				不明				
SD00107	C	SD514	西8896	696	34				不明				
SD00108	B	SD502	西4701	132	17				不明		13~21	土加1	
SD00108	C	SD508	西4701	132	17				不明				
SD00109	C	SD509	西532	111	13				不明				SD1008を切る
SD00109	C	SD503	2654	216	8				不明		32~33	土加150頭泡7	SD1008を切り、SK1022に切られる
SD00109	C	SD504	366	304	31				不明		34~35	土加130頭泡1	SK1022を切り、SK1023に切られる
SD10105	C	SD505	西402	77	21				不明				
SD10106	C	SD506	西278	62	8				不明				SD1017に切られる
SD10107	C	SD507	西2223	128	21				不明		36~38	土加2	SD1016を切る
SD10108	C	SX301d	1369	97					不明				
SD10109	C	SD512	西332	53	2				不明				
SD10109	C	SD501f	587	38					不明				
SD10120	C	SX301c	西1116	76					不明				
SD10121	C	SX301a	335	228	10				不明				
SD10122	C	SX301a	335	228	10				不明				
SD10123	C	SD506	西440	382	39				不明				SD1022を切る
SD10124	C	SD510b	248	44					不明				
SD10125	C	SD501n	西489	63	5				不明				
SD10001	B	SK171	354	286	93		橢円形		黒褐色砂質シルト				125~157
SD10002	C	SK16	122	105	30		橢円形		不明				
SK00001	A	SK88	西433	125	5		橢円形		黒褐色シルト斑土				158~159頭泡2中世2不明2
SK00002	A	SK170	102	87	11		橢円形		圓形				土加1頭泡1
SK00003	A	SK89	18	17	5		圓形		V字形				
SK00004	A	SK82	24	18	8		橢円形		V字形				
SK00005	A	SK81	22	19	4		圓形		圓形				
SK00006	A	SK80	19	18	4		圓形		圓形				土加1

## 透構一覧表(4)

付表

透造機番号	C	旧透造番号	孔	幅	縦	幅	深さ	平面形	無面形	地	土	造物	備考	
SK0007	A	SK73		38	33	7	梅円形	圓形	不明					
SK0008	A	SK72		28	19	5	梅円形	V字形	不明					
SK0009	A	SK120	247	129	16	梅円形	圓形	黒褐色シルト+灰灰オーリーブ色砂質シルト	土師1中世I			SK010を切る		
SK0010	A	SK121	残245	66	9	梅円形	圓形	黒褐色シルト+灰灰シルト	土師1中世I			SK038、SK011、SK09に切られる		
SK0011	A	SK118		303	46	7	梅円形	圓形	黒褐色シルト+灰灰シルト	土師1		SK011とSK010を切り、SK002に切られる		
SK0012	A	SK119		97	43	12	梅円形	圓形	灰灰シルト+灰灰砂質シルト	土師1		SK011を切る		
SK0013	A	SK117		202	73	4	梅円形	圓形	灰灰砂質シルト+黒褐色シルト	土師1		SK011に切られる		
SK0014	A	SK87		43	39	15	梅円形	U字形	不明					
SK0015	A	SK86	残91	残17	3	梅円形	圓形	黒褐色シルト	土師1					
SK0016	A	SK85		29	18	2	梅円形	圓形	不明			252	SK016に切られる	
SK0017	A	SK83		16	15	2	円形	圓形	不明					
SK0018	A	SK84		14	13	2	円形	圓形	不明					
SK0019	A	SK157					梅円形	U字形	黒褐色シルト	土師1				
SK0020	A	SK76		54	29	5	円形	圓形	不明					
SK0021	A	SK75		28	26	6	円形	圓形	不明					
SK0022	A	SK79		24	23		円形	圓形	不明					
SK0023	A	SK74		29	25	7	梅円形	V字形	不明					
SK0024	A	SK68		106	104	3	台形	圓形	黒褐色シルト					
SK0025	A	SK70		54	32	8	梅円形	圓形	不明					
SK0026	A	SK114	残137	残66	8	長方形	圓形	灰灰シルト+灰灰砂質シルト	土師1灰灰1中世I			SK029に切られる		
SK0027	A	SK112	残106	残33	20	梅円形	圓形	灰灰砂質シルト	土師1			SD47に切られる		
SK0028	A	SK113	残57	残42	13	梅円形	圓形	黒褐色シルト+灰灰砂質シルト	土師1					
SK0029	A	SK109		97	83	9	梅円形	圓形	黒褐色シルト+灰灰砂質シルト	土師1		SK002、SD11を切る		
SK0030	A	SK108		41	36	13	円形	U字形	黒褐色シルト	土師1		SK026、SD12を切る		
SK0031	A	SK111	残79	残35	11	長方形	圓形	黒褐色シルト	灰灰			SD11に切られる		
SK0032	A	SK110	残247	残33	7	梅円形	U字形	黒褐色シルト+灰灰色シルト	土師1			SD12に切られる		
SK0033	A	SK99	残67	残45	3	梅円形	圓形	灰灰砂質シルト+黒褐色シルト	土師1			SK034に切られ、SK064を守る		
SK0034	A	SK97	残302	残85	6	梅円形	圓形	灰灰砂質シルト+黒褐色シルト	土師1			SK033とSK035に切られる		
SK0035	A	SK96		146	81	11	梅円形	圓形	灰灰砂質シルト	土師1		SK034を切る		
SK0036	A	SK106		37	36	21	円形	U字形	灰灰シルト+黒褐色シルト	土師1				
SK0037	A	SK100					正方形	圓形	灰灰砂質シルト+黒褐色シルト	土師1	粗思5			
SK0038	A	SK105	残226	111	11	梅円形	圓形	灰灰砂質シルト+黒褐色シルト	土師1			SK010を切り。SK017に切られる		
SK0039	A	SK102	残55	46	8	梅円形	U字形	黒褐色砂質シルト	土師1			SK037を切り。SK040に切られる		
SK0040	A	SK104		318	75	11	梅円形	U字形	黒褐色シルト	土師1		SK037、SK039を切り		
SK0041	A	SK116	288	152	12	長方形	圓形	灰灰砂質シルト+黒褐色シルト	土師1					
SK0042	A	SK103	161	149	8	長方形	圓形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト	土師1			SK037に切られる		
SK0043	A	SK188	58	43	15	梅円形	圓形	不明						
SK0044	A	SK104	103	84	8	梅円形	圓形	黒褐色砂質シルト	土師1					
SK0045	A	SK115					梅円形	圓形	黒褐色シルト+灰灰砂質シルト	土師1	254~256中世4	SD46に切る		
SK0046	A	SD26	残67	42	8		圓形	圓形	黒褐色シルト	土師1				
SK0047	A	SK166b	残372	残82	20	梅円形								
SK0048	A	SK92	56	26	7	梅円形	U字形	不明						
SK0049	A	SK91	174	123	13	梅円形	圓形	黒褐色シルト	土師1					
SK0050	A	SK167b	残71	残29	16	梅円形	圓形	不明						
SK0051	A	SK152	残689	残98	17	長方形	U字形	黒褐色シルト	土師1中世6近世1					
SK0052	A	SK221	214	189	4	梅円形	圓形	不明						
SK0053	A	SK66	48	36	6	梅円形	圓形	不明						
SK0054	A	SK67	37	25	8	梅円形	圓形	不明						
SK0055	A	SK65	54	46	19	梅円形	U字形	不明						
SK0056	A	SK07	295	120	26	長方形	圓形	不明				257~258近世1		
SK0057	A	SK62	24	23	9	円形	圓形	不明						
SK0058	A	SK63	30	19	5	梅円形	圓形	不明				不明1		
SK0059	A	SK171	33	31	6	梅円形	圓形	不明						
SK0060	A	SK64	37	23	4	梅円形	圓形	不明						
SK0061	A	SK60	53	25	4	梅円形	圓形	不明					SK062に切られる	
SK0062	A	SK61	27	23	7	円形	圓形	不明						
SK0063	A	SK59	56	48	7	梅円形	圓形	不明						
SK0064	A	SK162	133	82	37	梅円形	U字形	黒褐色シルト+灰灰シルト	土師1	259		SK034を切り。SK035に切られる		
SK0065	A	SK95	254	107	12	長方形	圓形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト	土師1					
SK0066	A	SK94	109	101	4	長方形	圓形	黒褐色砂質シルト+黒褐色シルト	土師1					
SK0067	A	SK187	残159	残146	15	不定形	圓形	黒褐色シルト+オーリーブ色砂質シルト	土師1			SK037下部		

## 構造一覧表(5)

天神前遺跡

記述番号	区	田道横番号	長	幅	面	深さ	字面形	断面形	地	土	堆	物	備考
SK0068	A	SK93	236	90	7	長方形	圓形	黑褐色砂質シルト質土					
SK0069	A	SK90	142	73	8	長方形	圓形	灰褐色砂質シルト+黒褐色シルト斑土					
SK0070	A	SK191	66	42	4	橢円形	圓形	不明					
SK0071	A	SK204	167	133	30	橢円形	U字形	本文参照					
SK0072	A	SK190	123	88	10	橢円形	圓形	灰褐色砂質シルト質土+黒褐色シルト					
SK0073	A	SK195	81	58	21	橢円形	V字形	灰色シルト質土+黒褐色シルト斑土					
SK0074	A	SK189	59	52	6	長方形	圓形	不明					
SK0075	A	SK194	116	47	10	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土			SK076下部		
SK0076	A	SK198	100	50	10	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土			SK075		
SK0077	A	SK197	98	72	6	橢円形	圓形	オーリーブ色シルト質土+灰褐色シルト					
SK0078	A	SK196	94	17	72	長方形	圓形	不明					
SK0079	A	SK169	465	49	10	橢円形	圓形	不明					
SK0080	A	SK193	161	79	4	橢円形	圓形	不明					
SK0081	A	SK192	134	58	13	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色シルト斑土					
SK0082	A	SK06	179	162	27	橢円形	圓形	黑褐色砂質シルト					
SK0083	A	SK158	143	405	8	長方形	圓形	本文参照		253	SK056に切られる		
SK0084	A	SK40	35	27	7	橢円形	圓形	不明					
SK0085	A	SK39	62	40	9	橢円形	圓形	不明					
SK0086	A	SK41a	24	23	4	円形	圓形	不明					
SK0087	A	SK36	389	79	12	橢円形	U字形	黑褐色砂質シルト					
SK0088	A	SK42	31	30	5	橢円形	圓形	不明					
SK0089	A	SK43	65	33	10	橢円形	U字形	不明			SK091を切る		
SK0090	A	SK44	30	27	7	円形	V字形	不明					
SK0091	A	SK45	100	39	11	橢円形	圓形	黑褐色シルト					
SK0092	A	SK08	195	160	38	橢円形	U字形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土					
SK0093	A	SK46	43	35	17	橢円形	V字形	不明					
SK0094	A	SK47	92	53	6	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色砂質シルト斑土					
SK0095	A	SK48	92	64	11	橢円形	U字形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土					
SK0096	A	SK49	186	101	7	長方形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土					
SK0097	A	SK50	242	59	11	橢円形	圓形	黑褐色シルト					
SK0098	A	SK163	228	38	6	橢円形	U字形	黑褐色シルト+灰褐色シルト質斑土		260	SD20を切る		
SK0099	A	SK205	39	36	15	橢円形	圓形	不明					
SK0100	A	SK207	147	74	7	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色細粒斑土					
SK0101	A	SK203	166	56	17	不定形	U字形	黑褐色シルト					
SK0102	A	SK201	28	23	16	橢円形	箱形	不明					
SK0103	A	SK202	95	64	20	橢円形	U字形	本文参照					
SK0104	A	SK200	23	18	15	橢円形	圓形	不明					
SK0105	A	SK146a	183	63	15	不定形	U字形	不明					
SK0106	A	SK41b	94	58	6	長方形	圓形	不明					
SK0107	A	SK05	223	66	9	長方形	圓形	黑褐色シルト、一部磁紅色					
SK0108	A	SK13	残324	229	16	不定形	圓形	黑褐色シルトに炭化物若干			土脚S中世k	SK111に切られ、下段にSK138がある	
SK0109	A	SK37	残108	39	8	橢円形	U字形	灰褐色質シルト					
SK0110	A	SK156	389	残491	11	長方形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土に砂混				SK113, SK108に切られる	
SK0111	A	SK20	残124	残103	86	円形	箱形	本文参照					
SK0112	A	SK35	36	34	6	円形	圓形	不明					
SK0113	A	SK19	11	10	6	橢円形	圓形	灰褐色シルト+黑褐色シルト斑土					
SK0114	A	SK32	152	124	7	橢円形	圓形	灰褐色質シルトに火化物品					
SK0115	A	SK34	1	1	6	橢円形	V字形	黑褐色シルト					
SK0116	A	SK181	残155	88	7	橢円形	U字形	黑褐色シルト+灰褐色シルト質斑土					
SK0117	A	SK33	1	1	6	橢円形	U字形	黑褐色シルト		261土脚1中世5			
SK0118	A	SK22	1	1	6	長方形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土				SK111に切られる	
SK0119	A	SK21	271	167	6	長方形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土			土脚1灰輪1		
SK0120	A	SK23	131	33	4	橢円形	箱形	灰褐色シルト+黑褐色シルト斑土			土脚2		
SK0121	A	SK31	1	1	6	橢円形	箱形	不明					
SK0122	A	SK26	208	111	3	長方形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土				SK144に切られ、SK145を切る	
SK0123	A	SK209	243	残64	15	不定形	圓形	黑褐色砂質シルト+灰褐色質シルト斑土				SK125に切られる	
SK0124	A	SK30	201	66	11	橢円形	圓形	黑褐色シルト				SD20を切る	
SK0125	A	SK208	302	45	8	長方形	U字形	黑褐色シルト質斑土+灰褐色砂質斑土				SK124を切る	
SK0126	A	SK186	33	32	23	円形	箱形	不明				SK124下部	
SK0127	A	SK126	残224	125	14	長方形	圓形	黑褐色砂質シルト				SD13, SD20下部に切られる	
SK0128	A	SK125	162	105	13	長方形	圓形	本文参照		262~263中世I			
SK0129	A	SK124	残134	113	8	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土					
SK0130	A	SK123	323	128	10	不定形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土					
SK0131	A	SK122	1	1	6	橢円形	圓形	不明					
SK0132	A	SK209	1	1	6	橢円形	圓形	黑褐色シルト					
SK0133	A	SK132	残127	残105	11	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土					
SK0134	A	SK153	残127	残238	2	不定形	圓形	灰褐色質シルト+黑褐色シルト斑土に泥炭					
SK0135	A	SK16	166	172	15	橢円形	U字形	灰褐色質シルト			中世4	SK136を切る	
SK0136	A	SK17	残127	残135	15	橢円形	圓形	黑褐色シルト+灰褐色質シルト斑土			中世2	SK135に切られる	

透構一覧表(6)

付表

新透構番号	IC	旧透構番号	孔	幅	高	深さ	平面形	無鉛形	塵	土	遺物	備考
SK0137	A	SK151		313	38	12	円内形	U字形	灰褐色質シルト+黒褐色シルト	土	264±301中世5	
SK0138	A	SK155					円形	V字形	黒褐色シルト		265±306中世13	
SK0139	A	SK10		163	143	34	円内形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色シルト	土	266±302中世2	
SK0140	A	SK11		残217	115	8	長方形	圓形	黒褐色シルト		SD33に切られる	
SK0141	A	SK12		251	197	10	半円形	圓形	黒褐色シルト		土加1中世1中世3	下位にSK142がある
SK0142	A	SK172							不明		267	
SK0143	A	SK24		残136	105	6	長方形	圓形	黒褐色シルト+沙質シルト	土	SK144とSD26に 重なる	
SK0144	A	SK25		189	84	7	長方形	圓形	黒褐色シルト+沙質シルト	土		
SK0145	A	SK28		残192	108	7	長方形	圓形	黒褐色シルト+オリーブ褐色シルト	土加1中世7	SK122に切られ、 SK146を切る	
SK0146	A	SK29		343	173	10	長方形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0147	A	SK163a		残71	119	13	長方形	圓形	黒褐色沙質シルト+灰褐色粘粒土	土加1中世2	SD33に切られる	
SK0148	A	SK147		437	132	12	不規形	圓形	黒褐色シルト		中世2	
SK0149	A	SK166a		392	59	13	円内形	U字形	不明			
SK0150	A	SK128		残212	42	12	不定形	U字形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土	SD28を切り、 SK149に切れる	
SK0151	A	SK129		104	92	16	円内形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0152	A	SK130		26	17	9	円形	V字形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0153	A	SK131		残254	残136	15	円内形	圓形	黒褐色シルト+質砂に炭化物混入		268	
SK0154	A	SK133					円形	圓形	黒褐色シルト+オリーブ色粘粒土		土加1不明2	
SK0155	A	SK154		59	41	9	円内形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色シルト	土		
SK0156	A	SK15		124	82	11	円形	圓形	黒褐色シルト		土加1	
SK0157	A	SK14		246	87	7	円形	圓形	灰褐色質シルト+オリーブ褐色シルト	土		
SK0158	A	SK55		25	24	6	円内形	V字形	不明			
SK0159	A	SK51		残255	92	21	長方形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土	SD33に切られる	
SK0160	A	SK142		52	33	11	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰褐色シルト	土	SD40に切られる	
SK0161	A	SK141		43	37	12	円形	圓形	不明			
SK0162	A	SK167a		残147	残109	41	円内形	U字形	黒褐色シルト+黄褐色沙質シルト	土	269±301	
SK0163	A	SK213		残136	残27	8	円形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色沙質シルト	土	SD29に切られる	
SK0164	A	SK136		35	31	11	円形	円柱形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0165	A	SK212		137	52	28	円形	U字形	黒褐色シルト+灰褐色粘粒土			
SK0166	A	SK161b		105	79	41	円形	圓形	不明			
SK0167	A	SK211		残87	48	5	円形	圓形	不明			
SK0168	A	SK160		残113	残100	9	長方形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土加1中世3	SK169に切られる	
SK0169	A	SK159		165	94	24	円形	圓形	不明			
SK0170	A	SK54		24	17	3	円内形	圓形	不明			
SK0171	A	SK52		22	19	4	円形	V字形	不明			
SK0172	A	SK53		31	24	7	円形	圓形	不明			
SK0173	A	SK199					台形	圓形	本文参照			SD44に切られる
SK0174	A	SK143		86	31	9	円内形	U字形	灰褐色質シルト+黒褐色シルト	土		
SK0175	A	SK140		69	61	14	円形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0176	A	SK139		180	47	7	長方形	U字形	黒褐色シルト+灰褐色シルト		270	
SK0177	A	SK138		92	67	6	長方形	圓形	灰褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0178	A	SK137					円形	V字形	不明			SD49を切る
SK0179	A	SK144		残289	165	21	長方形	不規形	不明			271±302中世4
SK0180	A	SK135		23	22	3	円形	圓形	不明			
SK0181	A	SK134		69	34	10	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰褐色質シルト	土		
SK0182	A	SK56		59	43	8	円内形	圓形	不明			
SK0183	B	SK347		残280	残180	12			灰褐色シルト+黄褐色小礫		272±1中世3	
SK0184	B	SK85		40	33	13	円内形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色沙質シルト	土		
SK0185	B	SK415		52	28	7	円内形	圓形	灰褐色+黒褐色シルト	土	SD49を切る	
SK0186	B	SD57		245	59	10			オリーブ色シルト+尾オリーブ色沙質土			
SK0187	B	SK86		41	39	15	円形	圓形	黒褐色シルト+質砂+灰褐色粘粒土	土		
SK0188	B	SD56		163	67	7			灰褐色シルト			
SK0189	B	SK79		22	18	12	円内形	圓形	黒褐色沙質シルト+灰褐色シルト	土		
SK0190	B	SK78		159	78	13	円内形	U字形	黒褐色沙質シルト+灰褐色シルト	土		
SK0191	B	SK410		45	43	9	円内形	U字形	黒褐色シルト	土		
SK0192	B	SK74		20	14	17	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰褐色沙質シルト	土		
SK0193	B	SD55		残110	52	8			灰褐色沙質シルト+黒褐色沙質シルト			
SK0194	B	SK73		135	67	12	円内形	U字形	灰オリーブ色中粒砂+黒褐色シルト	土		
SK0195	B	SD54		149	47	12			灰褐色中粒砂+黒褐色シルト			
SK0196	B	SD85		176	49	19			黒褐色沙質シルト		土加1灰褐色	
SK0197	B	SK226		35	30	7	円内形	圓形	黒褐色沙質シルト+オリーブ色沙質シルト	土		
SK0198	B	SK342		残84	残52	16	長方形	圓形	黒褐色沙質シルト	土		
SK0199	B	SK341		78	40	10	円内形	U字形	黒褐色シルト	土		
SK200	B	SK411		51	34	8	円形	圓形	黒褐色シルト+黄褐色沙質シルト	土		
SK201	B	SK413		145	50	9	不定形	圓形	灰褐色シルト質砂+黒褐色沙質シルト	土		
SK202	B	SK414		125	26	5	円形	圓形	灰褐色シルト質砂+黒褐色沙質シルト	土		
SK203	B	SK84		29	24	17	円内形	圓形	黒褐色シルト+綠色中粒砂	土		
SK204	B	SK83		31	31	5	円形	圓形	黒褐色沙質シルト+黃褐色粘粒土	土		
SK205	B	SK412		126	26	7	円形	圓形	黒褐色シルト+灰褐色シルト	土	砂混	
SK206	B	SK346		34	25	14	円内形	圓形	オリーブ色シルト+黒褐色シルト	土		

## 構造一覧表(7)

天神前遺跡

新遺跡番号	旧遺跡番号	長	幅	厚	深さ	平面形	断面形	地	土	堆	物	備考
SK0207	B SK001	545	400	10	不定形	矩形		黒褐色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0208	B SK345	37	26	25	梅円形	矩形		黒褐色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0209	B SK82	36	32	9	梅円形	矩形		黒褐色シルト+灰褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0210	B SK408	190	残150	13	不明	矩形		黒褐色シルト				
SK0211	B SK427	47	38	12	梅円形	矩形		黄褐色中粒砂+黒褐色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0212	B SK301	80	66	34	梅円形	U字形		灰褐色砂質シルト+黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト土			
SK0213	B SK70	35	20	4	梅円形	U字形		灰オリーブ色シルト質砂	灰褐色シルト土			
SK0214	B SK71	60	46	4	梅円形	U字形		灰褐色シルト+灰褐色シルト質砂	灰褐色シルト土			
SK0215	B SK69	34	21	4	梅円形	U字形		灰褐色シルト質砂	灰褐色シルト土			
SK0216	B SK72	51	44	2	梅円形	U字形		灰褐色シルト質砂	灰褐色シルト土			
SK0217	B SK68	31	29	3	円形	U字形		灰褐色シルト質砂+灰褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0218	B SK66	33	18	3	長方形	矩形		灰褐色シルト質砂+灰褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0219	B SK67	41	36	3	梅円形	矩形		灰褐色シルト質砂+灰褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0220	B SK65	31	27	4	?	梅円形		灰褐色シルト質砂+灰褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0221	B SK66	170	143	19	長方形	U字形		灰褐色シルト+灰褐色中粒砂质	灰褐色シルト土			
SK0222	B SK227	32	30	8	梅円形	U字形		黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0223	B SK225	50	32	14	梅円形	矩形		黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0224	B SK224	75	51	15	梅円形	矩形		黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0225	B SK337	248	232	15	梅円形	矩形		黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0226	B SK158	236	残104	9	不定形	矩形		にぶい黄褐色中粒砂	灰褐色シルト土			
SK0227	B SK336	116	112	8	梅円形	矩形		黒褐色砂質シルト+黑色シルト	灰褐色砂質シルト土			
SK0228	B SK87	残340	195	13	長方形	矩形		黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色砂質シルト土			
SK0229	B SD52b	残221	104					不明				
SK0230	B SK35	80	62	8	梅円形	矩形		黒褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0231	B SK34	74	70	6	円形	矩形		黑色シルト+暗オリーブ色細粒砂質	灰褐色シルト土			
SK0232	B SK223	31	26	6	梅円形	矩形		灰褐色シルト+黑褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0232	B SK219	30	25	11	梅円形	U字形		黒褐色シルト+灰オリーブ色シルト質砂	灰褐色シルト土			
SK0233	B SK222	24	24	14	円形	矩形		灰褐色シルト+黒褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0234	B SK221	28	23	8	梅円形	U字形		灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0235	B SK220	42	23	13	梅円形	U字形		黒褐色シルト+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色シルト土			
SK0236	B SK214	35	30	9	梅円形	U字形		不明				
SK0237												
SK0238	B SK213	38	38	13	円形	矩形		不明				
SK0239	B SK212	49	41	10	梅円形	U字形		黒褐色シルト+灰オリーブ色シルト質砂	灰褐色シルト土			
SK0240	B SK311	60	24	12	梅円形	U字形		黒褐色シルト+灰オリーブ色細粒砂質	灰褐色シルト土			
SK0241	B SK492	161	66	9	梅円形	U字形		不明				
SK0242	B SK348	26	25	4	円形	U字形		黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0243	B SK349	28	27	6	円形	U字形		黒褐色+灰オリーブ色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0244	B SK350	42	42	8	梅円形	U字形		黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0245	B SK129	残550	155	12	長方形	矩形		黄褐色粗粒砂+小砾	灰褐色砂質シルト			
SK0246	B SK447	165	96	13	梅円形	U字形		暗灰黄色砂質シルト+黒褐色シルト	灰褐色シルト土			
SK0247	B SK446	138	91	9	梅円形	U字形		黑色シルト+灰色シルト	灰褐色シルト土			
SK0248	B SK444	91	56	4	梅円形	矩形		灰色シルト+黑色シルト	灰褐色シルト土			
SK0249	B SK443	89	59	5	梅円形	矩形		黑色シルト	灰褐色シルト			
SK0250	B SK449	88	46	7	梅円形	U字形		黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0251	B SK442	29	28	4	円形	矩形		黑色シルト+黑褐色シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0252	B SK417	179	100	15	半円形	矩形		オリーブ色+黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0253	B SK415	165	103	50	半円形	矩形		オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0254	B SK440	21	21	7	円形	矩形		黒褐色シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0255	B SK439	23	21	5	梅円形	U字形		黒褐色シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0256	B SK438	26	23	7	梅円形	U字形		黒褐色シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0257	B SK437	31	23	9	梅円形	U字形		黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0258	B SK436	43	26	3	梅円形	矩形		黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0259	B SK435	30	25	11	梅円形	U字形		黒褐色+オリーブ色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0260	B SK432	残45	45	24	梅円形	U字形		青灰褐色シルト+黑色シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0261	B SK434	25	22	19	梅円形	V字形		オリーブ色黑色シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0262	B SK433	28	27	5	円形	矩形		暗灰褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0263	B SK431	28	残25	20	梅円形	矩形		黑色シルト+黑褐色シルト	灰褐色砂質シルト			SK260を切る
SK0264	B SK448	38	22	6	梅円形	矩形		黒褐色シルト+暗オリーブ灰褐色シルト	灰褐色砂質シルト			SK260を切る
SK0265	B SK218	28	残13	7	梅円形	矩形		黒褐色シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			SK260を切る
SK0266	B SK217	23	22	8	円形	矩形		黒褐色シルト+暗オリーブ色細粒砂質	灰褐色砂質シルト			SK265に切られる
SK0267	B SK216	59	32	17	梅円形	矩形		黒褐色シルト+暗オリーブ色細粒砂質	灰褐色砂質シルト			SK274に切られる
SK0268	B SK215	52	33	22	梅円形	V字形		黒褐色シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0269	B SK209	30	20	13	梅円形	V字形		黒褐色+灰シルト	灰褐色砂質シルト			SK260に切る
SK0270	B SK403	63	41	7	梅円形	U字形		灰オリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0271	B SK209	36	26	9	梅円形	U字形		黒褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0272	B SK207	36	26	15	梅円形	U字形		黒褐色+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0273	B SK402	35	30	19	梅円形	矩形		黒褐色砂質シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0274	B SK332	40	36	23	梅円形	矩形		黒褐色砂質シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0275	B SK401	60	残27	16	円形	半矩形		灰褐色砂質シルト+灰褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0276	B SK330	41	29	21	梅円形	矩形		黒褐色砂質シルト+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0277	B SK208	35	25	8	梅円形	U字形		黒褐色+灰シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0278	B SK404	37	24	7	梅円形	矩形		灰オリーブ色砂質シルト+黑褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			
SK0279	B SK406	68	残34	7	半円形	矩形		灰褐色砂質シルト+黑褐色砂質シルト	灰褐色砂質シルト			

## 透構一覧表(8)

付表

新透構番号	旧透構番号	瓦	縦	横	深さ	平面形	無面形	塊	土	造物	備考
SK0280	B SK334	51	20	9	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0281	B SK200	31	30	9	円内形	箱形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0282	B SK201	31	28	18	円内形	箱形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0283	B SK407	21	18	5	円内形	U字形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0284	B SK333	21	17	18	円内形	箱形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0285	B SK211	46	残36	10	円内形	U字形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				SK281に切られる
SK0286	B SK205	36	35	10	円内形	箱形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				SK280に切られる
SK0287	B SK204	50	残35	12	円内形	箱形	黒褐色紗質シルトに炭化物混				SK289に切られる
SK0288	B SK202	41	40	15	円内形	箱形	黒褐色紗質シルトに炭化物混				
SK0289	B SK203	46	39	19	長方形	箱形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				SK287を切る
SK0290	B SK199	67	50	10	円内形	箱形	黒褐色シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0291	B SK401	28	26	22	円内形	U字形	灰褐色シルト+黒褐色シルト透土				
SK0292	B SK185	33	31	13	円内形	箱形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0293	B SK399	90	53	10	三角形	U字形	黒褐色紗質シルト+オーブ色紗質シルト透土				
SK0294	B SK186	22	21	26	円内形	箱形	明灰黄色紗質シルトに虫食化混				
SK0295	B SK396	40	25	10	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト+オーブ色紗質シルト透土				SK292を切る
SK0296	B SK400	29	19	8	円内形	箱形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0297	B SK189	44	34	11	円内形	箱形	黒褐色紗質シルト+明灰黄色紗質シルト透土				
SK0298	B SK335	残53	残53	13	三角形	U字形	黒褐色紗質シルト				SK294,295,298に 切られる
SK0299	B SK197	21	5	9	円内形	U字形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0300	B SK188	74	46	23	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト+灰オーブ色織粒紗透土				
SK0301	B SK187	20	20	40	円内形	箱形	黒褐色紗質シルト				中耕1
SK0302	B SK198	25	残17	4	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				SK303に切られる
SK0303	B SK196	143	62	11	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0304	B SK397	残60	35	15	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト+灰オーブ色織粒紗透土				
SK0305	B SK395	46	39	9	円内形	U字形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0306	B SK192	38	29	7	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト				
SK0307	B SK398	87	82	36	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト+オーブ色紗質シルト透土				SK317,304に切 られる
SK0308	B SK334	34	26	22	円内形	V字形	黒褐色シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0309	B SK172	242	77	15	円内形	U字形	灰オーブ色+黒褐色紗質シルト透土				
SK0310	B SK191	34	27	7	円内形	箱形	黒褐色紗質シルト				
SK0311	B SK190	36	31	23	円内形	箱形	黒褐色紗質シルト				SK311に切られる
SK0312	B SK193	41	41	5	円内形	U字形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0313	B SK195	42	残33	7	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				SK307に切られる
SK0314	B SK194	90	33	5	円内形	U字形	黒褐色シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0315	B SK176	26	43	18	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト				
SK0316	B SK300	55	32	14	円内形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色紗質シルト透土				
SK0317	B SK394	49	29	10	円内形	U字形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0318	B SK174	41	28	8	円内形	U字形	灰オーブ色紗質シルト				
SK0319	B SK242	56	42	11	円内形	U字形	黒褐色+灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0320	B SK228	46	30	15	円内形	箱形	黒褐色シルト+暗灰黄色紗質シルト透土				
SK0321	B SK386	残38	38	8	円内形	U字形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				SK355に切られる
SK0322	B SK229	残81	45	1	円内形	箱形	オーブ色黒シルト				
SK0323	B SK424	102	78	40	円内形	箱形	黒褐色シルト+暗灰黄色紗質シルト透土				
SK0324	B SK237	298	106	4	長方形	組形	貴灰紗質シルト				
SK0325	B SK236	173	82	10	円内形	組形	暗灰シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				土師1
SK0326	B SK429	232	188	51	円内形	箱形	オーブ色黒シルト				
SK0327	B SK428	170	残124	15	円内形	組形	貴灰シルト+灰オーブ色紗質シルト透土				
SK0328	B SK33	440	190	41	箱形	組形	暗灰シルト+贵灰シルト				
SK0329	B SK425	274	85	6?	不定形	組形	暗灰シルト+暗灰黑色シルト				噴漆
SK0330	B SK426						黒褐色+暗灰黑色シルト				
SK0331	B SK450	306	138	6	長方形	組形	黒色シルト+灰褐色紗質シルト透土				273中耕12
SK0332	B SK465	20	21	15	円内形	組形	黒色シルト+黑褐色シルト				山茶系
SK0333	B SK451	37	29	5	円内形	組形	黒色シルト				SK334に切る
SK0334	B SK452	残104	60	5	長方形	組形	黒色シルト+灰褐色紗質シルト透土				
SK0335	B SK393	19	19	12	円内形	組形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0336	B SK184	26	25	9	円内形	組形	黒褐色シルト+暗灰黄色紗質シルト透土				
SK0337	B SK183	40	25	11	円内形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色紗質シルト透土				
SK0338	B SK314	28	25	12	円内形	組形	灰オーブ色紗質シルト+灰褐色紗質混				
SK0339	B SK181	52	37	13	円内形	U字形	黒褐色+オーブ色黑色紗質シルト透土				SK340,343に切 られる
SK0340	B SK182	36	27	9	円内形	U字形	黒褐色シルト+暗灰黄色紗質シルト透土				SK339を切る
SK0341	B SK392	37	24	13	円内形	組形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色シルト透土				
SK0342	B SK313	62	41	9	円内形	組形	灰オーブ色シルト				
SK0343	B SK180	34	34	14	円内形	U字形	黒褐色+オーブ色黑色紗質シルト透土				SK339を切る
SK0344	B SK179	32	30	6	円内形	U字形	黒褐色+オーブ色黑色紗質シルト透土				
SK0345	B SK391	30	30	4	円内形	組形	灰オーブ色紗質シルト+黒褐色紗質シルト透土				
SK0346	B SK390	87	82	16	円内形	U字形	黒褐色+オーブ色紗質シルト透土				
SK0347	B SK177	33	30	11	円内形	組形	黒褐色紗質シルト				
SK0348	B SK178	55	45	13	円内形	組形	黒褐色+オーブ色紗質シルト透土				
SK0349	B SK240	70	47	22	円内形	組形	暗灰黄色紗質シルト+灰褐色紗質混				
SK0350	B SK175	169	残80	12	円内形	U字形	黒褐色紗質シルト				SK355に切られる

新造番号	田畠番号	長	幅	厚	深さ	字面形	裏面形	地	土	造物	備考
SK0351	B SK231	94	78	26	梅円形	箱形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト土				SK355を切る
SK0352	B SK374	30	25	16	梅円形	箱形	灰オーリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト土				
SK0353	B SK310	36	30	12	梅円形	箱形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト土				
SK0354	B SK373	35	35	13	円形	箱形	灰オーリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト土				不明2
SK0355	B SK230	188	90	22	梅円形	U字形	オーリーブ色砂質シルト+灰砂混				274
SK0356	B SK371	36	33	6	梅円形	箱形	黒褐色砂質シルト+灰灰黄色シルト質土				SK351に切られる
SK0357	B SK375	50	19	9	梅円形	U字形	灰オーリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト土				
SK0358	B SK233	35	33	11	梅円形	箱形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト質土				
SK0359	B SK376	47	37	10	梅円形	U字形	灰オーリーブ色砂質シルト+黒褐色シルト土				
SK0360	B SK232	既13	71	6	梅円形	箱形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト土				
SK0361	B SK234	24	24	8	円形	箱形	黒褐色砂質シルト+灰褐色シルト土				
SK0362	B SK377	28	28	10	円形	U字形	黑褐色砂質シルト+オーリーブ色シルト土				
SK0363	B SK378	75	56	21	梅円形	箱形	灰色砂質シルト+黑褐色砂質シルト土				SK360を切り、SK365に切られる
SK0364	B SK241	275	既24	11	梅円形	箱形	黑褐色砂質シルト+細粒の小粒砂混				上世4
SK0365	B SK379	93	81	11	梅円形	箱形	灰色砂質シルト+黑褐色砂質シルト土				
SK0366	B SK235	45	29	3	梅円形	圓形	黑褐色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト土				
SK0367	B SK389	16	12	10	梅円形	箱形	黑褐色+オーリーブ黑色砂質シルト土				
SK0368	B SK388	16	16	13	円形	箱形	暗赤色灰+オーリーブ色シルト土				
SK0369	B SK387	16	16	17	円形	箱形	暗赤色灰+オーリーブ色シルト土				
SK0370	B SK423	53	52	31	梅円形	箱形	暗赤色灰+シルト+黑褐色シルト土				中世3
SK0371	B SK419	65	57	7	梅円形	U字形	黑褐色砂質シルト				
SK0372	B SK422	44	38	13	梅円形	U字形	灰オーリーブ+黑褐色砂質シルト土に砂混				SD67に切らせる
SK0373	B SK418	65	55	6	梅円形	U字形	黑褐色+灰オーリーブ色砂質シルト土				275
SK0374	B SK11	345	13	30	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0375	B SK421	37	28	6	梅円形	U字形	灰オーリーブ色+黑褐色砂質シルト土				
SK0376	B SK12	180	123	40	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0377	B SK430	50	48	28	梅円形	圓形	黑褐色砂質シルト				不明1
SK0378	B SK420	34	18	4	梅円形	U字形	黑褐色砂質シルト+灰灰黄褐色砂質シルト土				
SK0379	B SK372	166	109	10	梅円形	圓形	褐灰色シルト+オーリーブ黑色細粒砂土				中世1
SK0380	B SK09	229	157	40	瓦方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0381	B SK13	203	112	48	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				領1
SK0382	B SK10	235	113	48	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0383	B SK07	244	111	38	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				310~311中世1
SK0384	B SK04	380	187	32	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				312~313中世1
SK0385	B SK38	282	182	18	長方形	箱形	褐灰色質土に粗粒砂混				中世2
SK0386	B SK37	169	98	13	梅円形	圓形	オーリーブ色砂煙				
SK0387	B SK460	43	42	4	円形	圓形	オーリーブ褐色中粒砂+黑色シルト土				SD67に切られる
SK0388	B SK456	48	26	26	10	円形	U字形	黑褐色シルト質砂+灰灰黄褐色砂質土			
SK0389	B SK455	35	30	9	梅円形	U字形	黑色シルト+灰オーリーブ色細粒砂土				
SK0390	B SK454	38	38	22	円形	箱形	黑褐色シルト質砂+オーリーブ黑色シルト土				
SK0391	B SK453	25	20	10	梅円形	圓形	オーリーブ黑色シルト				
SK0392	B SK491	43	26	4	梅円形	圓形	不明				
SK0393	B SK315	206	187	9	梅円形	圓形	灰オーリーブ色砂質シルト				
SK0394	B SK322	30	30	8	円形	U字形	灰オーリーブ色シルトに云い渡褐色中粒砂混				
SK0395	B SD99	196	57	4			黑褐色砂質シルト土				
SK0396	B SK329	58	37	23	梅円形	箱形	黑褐色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト土				
SK0397	B SK169a	388	167	38	長方形	箱形	オーリーブ色中粒粗砂+灰灰黄褐色シルト				316領1中世5近世1
SK0398	B SK08	200	196	44	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0399	B SK169b	388	167	38	長方形	箱形	オーリーブ色中粒粗砂+灰灰黄褐色シルト				
SK0400	B SK05	229	190	44	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				313土師1中世2
SK0401	B SK06	167	162	75	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				314土師1中世1
SK0402	B SK01	216	194	51	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				315土師1中世1
SK0403	B SK14	186	115	40	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0404	B SK02	168	110	50	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				
SK0405	B SK03	134	64	22	長方形	箱形	オーリーブ色板根+砂の小粒				中世2
SK0406	B SK36	364	219	38			オーリーブ色砂煙				
SK0407	B SK464	60	34	27	梅円形	箱形	灰オーリーブ色+黑褐色砂質シルト土				276
SK0408	B SK467	40	40	10	円形	箱形	黑褐色+灰褐色シルト質砂土				
SK0409	B SK463	285	残156	7	半円形	圓形	黑色+灰黄色シルト土に砂混				
SK0410	B SK461	33	31	17	円形	V字形	オーリーブ色砂質シルト+黑色シルト土				
SK0411	B SK462	36	30	12	梅円形	U字形	黑色シルト+オーリーブ黑色細粒砂土				
SK0412	B SK457	90	25	10	不定形	U字形	黑色シルト+灰オーリーブ色細粒砂土				
SK0413	B SK459	34	19	7	梅円形	V字形	オーリーブ色砂質シルト+黑色シルト土				
SK0414	B SK458	143	残39	7	半円形	圓形	黑褐色砂質シルト+黑褐色シルト土				
SK0415	B SK53	33	32	3	円形	圓形	灰オーリーブ黑褐色砂質シルト土				
SK0416	B SD41	131	22	5	圓形	圓形	黑褐色砂質シルト土				
SK0417	B SD40	24	5	5	圓形	圓形	黑褐色砂質シルト土				
SK0418	B SK48	31	20	6	梅円形	圓形	黑褐色砂質シルト+黑褐色砂質シルト土				
SK0419	B SK54	59	38	24	梅円形	圓形	オーリーブ黑色シルト質砂+シルト土				
SK0420	B SK51	53	38	12	梅円形	圓形	不明				
SK0421	B SK47	26	18	7	梅円形	圓形	褐灰青色砂質シルト+黑色シルト土				
SK0422	B SK52	52	36	9	梅円形	圓形	褐灰青色砂質シルト+黑色シルト土				
SK0423	B SK45	31	20	18	梅円形	V字形	褐灰青色砂質シルト				

## 遺構一覧表(10)

付表

遺構番号	IC	旧遺構番号	氏	種	形	幅	深さ	平面形	輪郭形	施	土	遺物	備考
SK0624	B	SK50	29	24	4	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+糊灰黄色シルト					
SK0625	B	SK44	58	30	5	椭円形	箱形	オーリーブ色シルト+糊灰黄色シルト					
SK0626	B	SK49	残54	41	5	椭円形	箱形	灰褐色シルト+オーリーブ色シルト					
SK0627	B	SK46	40	29	7	椭円形	箱形	U字形	黒褐色シルト	黄褐色砂質シルト			
SK0628	B	SK42	50	48	7	椭円形	箱形	糊灰色砂質シルト+オーリーブ色シルト					
SK0629	B	SK41	41	33	11	長方形	箱形	灰褐色シルト+オーリーブ色シルト					
SK0630	B	SK40	37	34	4	椭円形	箱形	灰褐色砂質シルト+黑褐色砂質シルト					
SK0631	B	SK326	28	26	23	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+糊灰黄色シルト					
SK0632													
SK0633	B	SK323	23	15	3	椭円形	V字形	オーリーブ色シルト					
SK0634	B	SK324	34	30	32	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+糊灰黄色シルト					
SK0635	B	SK325	残17	23	8	椭円形	U字形	箱形	黑褐色シルト+灰褐色シルト				
SK0636	B	SK116	371	112	14	台形	箱形	木明				土師1中世8世紀I	
SK0637	B	SK290	41	31	12	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0638	B	SK291	50	39	8	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0639	B	SK289	22	22	16	円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0640	B	SK286	24	23	2	円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰オーリーブ色細粒砂質土					
SK0641	B	SK292	45	30	29	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+糊灰黄色細粒砂質土				土師1	
SK0642	B	SK293	26	23	20	椭円形	箱形	黑褐色シルト+灰化物混					
SK0643	B	SK328	32	32	26	円形	箱形	糊灰色砂質シルト				中世1不明1	
SK0644	B	SK380	20	19	15	円形	箱形	黑褐色砂質シルト+オーリーブ色細粒砂質土				中世3	
SK0645	B	SK381	60	31	5	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+オーリーブ色細粒砂質土					SK447に切られる
SK0646	B	SK294	42	残29	2	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					SK446を切る
SK0647	B	SK287	69	49	3	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0648	B	SK288	52	48	13	椭円形	箱形	黑褐色シルト+灰オーリーブ色細粒砂質土					
SK0649	B	SK295	41	36	14	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰化物混					
SK0650	B	SK125	859	370	49	不規形	箱形	貴賤な粗粒砂の小堆				279~282世1御?中世16世紀I	
SK0651	B	SK127	310	230	28	長方形	箱形	貴賤な粗粒砂の小堆				中世4	
SK0652	B	SK468	21	21	3	円形	箱形	灰オーバー色+黒褐色砂質シルト					
SK0653	B	SK365	26	残30	19	椭円形	U字形	(赤色)					
SK0654	B	SK115	213	558	9	椭円形	箱形	糊灰黄色砂質シルト+砂質シルト					
SK0655	B	SK297	30	25	12	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0656	B	SK156	64	33	8	椭円形	U字形	糊灰色砂質シルト+灰化物混				283	
SK0657	B	SK155	98	90	10	円形	箱形	糊灰色砂質シルト					
SK0658	B	SK296	38	36	4	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+黑褐色シルト					
SK0659	B	SK298	23	22	23	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰化物混					
SK0660	B	SK299	52	52	15	椭円形	U字形	黑褐色砂質シルト+灰化物混					
SK0661	B	SK152	92	残25	6	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0662	B	SK243	34	30	3	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰化物混					
SK0663	B	SK244	32	27	13	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰化物混					
SK0664	B	SK284	21	20	13	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0665	B	SK283	40	29	25	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰化物混				中世2	
SK0666	B	SK245	67	20	23	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+黑褐色シルト				土師2	
SK0667	B	SK126	168	122	31	長方形	箱形	貴賤色砂質砂の小堆				土師2原形1中世2	
SK0668	B	SK358	62	40	11	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0669	B	SK271	残142	34	15	長方形	U字形	黑褐色砂質シルト+灰オーリーブ色細粒砂質土					
SK0670	B	SK357	30	42	4	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト+灰オーリーブ色細粒砂質土					
SK0671	B	SK382	59	34	12	椭円形	箱形	黑褐色シルト					
SK0672	B	SK270	30	28	13	椭円形	U字形	黑褐色砂質シルト+貴賤色砂質シルト					
SK0673	B	SK272	23	残14	8	椭円形	U字形	灰オーバー色+貴賤色砂質シルト+黑褐色シルト				土師1	
SK0674	B	SK269	45	44	11	椭円形	箱形	灰オーリーブ色+黑褐色砂質シルト					
SK0675	B	SK266	残77	73	8	椭円形	U字形	灰オーリーブ色+黑褐色砂質シルト					
SK0676	B	SK267	17	13	15	椭円形	U字形	灰オーリーブ色+黑褐色砂質シルト					
SK0677	B	SK304	34	29	18	椭円形	U字形	灰オーリーブ色+黒褐色砂質シルト					
SK0678	B	SK384	57	57	8	三角形	箱形	貴賤色砂質シルト+糊灰黄色砂質シルト					
SK0679	B	SK265	70	残30	5	椭円形	箱形	灰オーリーブ色+黑褐色砂質シルト					
SK0680	B	SK279	27	25	4	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0681	B	SK278	35	33	5	円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0682	B	SK303	85	24	8	椭円形	U字形	黑褐色砂質シルト					
SK0683	B	SK277	32	30	9	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0684	B	SK276	24	20	7	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0685	B	SK280	20	19	8	椭円形	箱形	黑褐色砂質シルト					
SK0686	B	SK160	260	残190	30	椭円形	U字形	オーリーブ色粗粒砂の小堆+褐色粗粒砂				284~285中世9	
SK0687	B	SK161	残196	残95	30	長方形	箱形	オーリーブ色粗粒砂の小堆					
SK0688	B	SK159	240	110	20	長方形	箱形	オーリーブ色粗粒砂の小堆				頂1	
SK0689	B	SK122	240	210	68	台形	箱形	灰オーリーブ色粗粒砂の小堆				中世2近世1	
SK0690	B	SK486	126	47	9	不定形	箱形	黑褐色シルト+糊泥				286	
SK0691	B	SK28	312	292	50	長方形	箱形	本文参照				287~289近世2中世9近世2	
SK0692	B	SK488	残189	残47	12	長方形	箱形	不明					
SK0693	B	SK29	残312	残196	6	長方形	箱形	本文参照				SK491, SD55, SDR1に切られる	
SK0694	B	SK471	37	24	10	椭円形	箱形	黑褐色シルト+灰オーリーブ色シルト					
SK0695	B	SK472	34	27	9	椭円形	U字形	黑褐色砂質シルト+糊灰黄色砂質シルト					
SK0696	B	SK473	38	残19	4	椭円形	箱形	黑褐色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト					

新造番号	旧遺構番号	長	幅	厚	深さ	平面形	地	土	造物	備考
SK0497	B SK470	41	残30	3	円形	組形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土			SD87に切られる
SK0498	B SK469	23	18	5	椭円形	組形	黒褐色シルト			
SK0499	B SD109	155	30	2	円形	組形	黒褐色シルト+黄褐色砂質シルト斑土			
SK0500	B SK474	20	12	2	椭円形	U字形	暗オーリーブ色黒褐色砂質シルト斑土			
SK0501	B SK476	18	16	7	椭円形	組形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土			
SK0502	B SD149	残145	37	8	円形	組形	黒褐色砂質シルト		不明2	
SK0503	B SK466	28	27	16	円形	U字形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土	砂面		
SK0504	B SK26	80	55	9	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト		290土脚1	
SK0505	B SK25	残90	90	33	四角形	組形	黒褐色砂質シルト+灰オーリーブ色粘土斑土		中世6	
SK0506	B SK154	44	28	26	椭円形	U字形	黒褐色シルト		中世6不明3	
SK0507	B SK149	31	29	14	椭円形	V字形	黒褐色シルトに炭化物混			
SK0508	B SK150	90	50	10	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト		中世3	
SK0509	B SK151	71	53	19	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト+灰黃色細粒砂斑土		中世2	
SK0510	B SK103	48	残29	28	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混		中世1不明4	
SK0511	B SK102	55	40	17	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト+灰オーリーブ色粘土斑土		290灰脚1	SK510.512を切る山茶園、小屋1
SK0512	B SK101	43	残30	14	椭円形	U字形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土		土脚2	
SK0513	B SK165	23	20	20	円形	U字形	黒褐色砂質シルト		中世2	
SK0514	B SK166	23	22	24	円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0515	B SK110	218	180	9	椭円形	組形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土		292土脚2	
SK0516	B SK303	68	残33	9	椭円形	組形	暗灰青色シルト質物+黒褐色シルト斑土			
SK0517	B SK167	15	10	9	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0518	B SK168	22	21	16	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0519	B SK118	34	29	29	椭円形	組形	黒褐色粘土シルト+中灰斑土に炭化物混		灰脚1中世1	SK515の下段
SK0520	B SK148	46	残30	16	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト	炭化物混		
SK0521	B SK109	58	26	10	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物多量混		中世1	
SK0522	B SK146	40	30	11	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト+灰化物質		中世1	
SK0523	B SK120	33	24	6	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			SK515の下段
SK0524	B SK246	25	20	7	椭円形	組形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト斑土			
SK0525	B SK247	26	18	7	椭円形	組形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト斑土			
SK0526	B SK164	36	36	10	椭円形	U字形	黒褐色シルト		中世1	
SK0527	B SK383	19	16	8	椭円形	組形	黒褐色シルト			
SK0528	B SK283	111	73	20	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト		土脚2	
SK0529	B SK248	23	23	8	円形	組形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト斑土			
SK0530	B SK144	31	29	16	椭円形	U字形	オーリーブ色砂質シルト質物に炭化物混			SK532に切られる
SK0531	B SK249	残32	26	12	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト		土脚3	
SK0532	B SK142	残65	46	29	椭円形	V字形	黒褐色砂質シルト		293中世3	
SK0533	B SK356	45	34	57	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0534	B SK355	30	残21	25	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0535	B SK250	51	22	7	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混			
SK0536	B SK255	38	残35	9	椭円形	U字形	不明		土脚2	
SK0537	B SK256	46	26	23	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト			
SK0538	B SK251	65	37	32	椭円形	組形	灰オーリーブ色黒褐色砂質シルト斑土に泥混			
SK0539	B SK252	52	43	3	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト		土脚4	
SK0540	B SK254	残40	33	26	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0541	B SK257	79	40	12	椭円形	U字形	灰オーリーブ色黒褐色砂質シルト斑土に泥混			
SK0542	B SK385	66	37	6	椭円形	組形	黒褐色砂質シルト			
SK0543	B SK258	66	28	24	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルトに炭化物混		中世2	
SK0544	B SK259	46	35	4	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0545	B SK262	45	38	10	椭円形	U字形	暗灰黃色砂質シルト+黒褐色シルト斑土			
SK0546	B SK307	64	38	11	椭円形	組形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト斑土		不明2	
SK0547	B SK319	15	11	7	椭円形	組形	不明			
SK0548	B SK318	15	9	8	椭円形	U状	不明			
SK0549	B SK317	10	9	12	椭円形	U状	不明			
SK0550	B SK316	11	10	18	椭円形	組形	不明			
SK0551	B SK260	47	28	9	椭円形	V字形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト斑土		中世1	
SK0552	B SK303	75	52	24	椭円形	組形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト斑土		中世2不明1	
SK0553	B SK261	113	残100	14	椭円形	U字形	黒褐色+灰オーリーブ色砂質シルト斑土			
SK0554	B SK275	23	21	20	椭円形	組形	貴灰色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト斑土		中世3	
SK0555	B SK302	残137	60	24	不透明	U字形	黒褐色シルト+灰オーリーブ色砂質シルト斑土		中世1	
SK0556	B SK273	30	27	11	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0557	B SK274	48	37	10	椭円形	U字形	黒褐色砂質シルト			
SK0558	B SK128	240	220	80	円形	組形	本文参照		組合1中世9	
SK0559	B SK113	460	290	4	長方形	組形	黄褐色砂塵		294~298灰脚1不明1	山茶園
SK0560	B SD75	残262	67	6	U字形	組形	黒褐色砂質シルト			
SK0561	B SK98b	194	76	26	不定形		不明			
SK0562	B SK36	残116	残62	27	黑褐色	シルトに細粒砂混		土脚3中世9		
SK0563	B SK20	220	残142	16	四角形	組形	黒褐色砂質シルト+灰オーリーブ色粗粒砂混		SD55に切られる	
SK0564	B SK478	43	27	8	椭円形	V字形	暗灰黃色シルト+灰オーリーブ色砂混			
SK0565	B SK479	33	32	11	椭円形	組形	オーリーブ色砂塵+白			
SK0566	B SK22	33	27	9	椭円形	組形	オーリーブ色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土		中世1	
SK0567	B SK21	33	27	5	椭円形	組形	暗灰黃色砂質シルト+黒褐色シルト斑土			
SK0568	B SK487	43	25	4	椭円形	組形	暗灰黃色シルト+灰オーリーブ色粘土斑土			
SK0569	B SK47a	156	109	16	椭円形	組形	不明			

## 遺構一覧表(12)

付表

遺構番号	C	旧遺番号	長	幅	高	鉢	深さ	平面形	瓶形	塊	土	遺物	備考
SK0570	B	SK143	残40	35	11	円内形	U字形	オーピー色砂質シルトに炭化物混					
SK0571	B	SK140		33	26	7	円内形	箱形	黒褐色+暗灰褐色砂質シルト土壁				
SK0572	B	SK141	残30	23	10	円内形	U字形	黒褐色シルト土質					
SK0573	B	SK162	19	18	9	円内形	箱形	黒褐色シルト				SK574下部	
SK0574	B	SK133	80	30	28	円内形	U字形	黒褐色+暗灰褐色砂質シルト土壁に炭化					
SK0575	B	SK134	58	27	18	円内形	V字形	黒褐色+暗オーピー色砂質シルト土壁				中世5	
SK0576	B	SK163	25	25	33	円内形	U字形	黒褐色シルトに炭化物混				SK577下部	
SK0577	B	SK135	71	32	11	円内形	U字形	暗灰黄色砂質シルト+灰オーピー色シルト				299中世2	
SK0578	B	SK132	40	30	3	円内形	面形	黒褐色砂質シルト				300中世1	
SK0579	B	SK130	31	25	9	円内形	瓶形	黒褐色シルト土質					
SK0580	B	SK137	25	25	5	円内形	U字形	黒褐色砂質シルト				土師1	
SK0581	B	SK131	27	25	16	円内形	V字形	暗灰褐色砂質シルト					
SK0582	B	SK136	58	31	37	円内形	U字形	暗灰褐色砂質シルトに炭化物混					
SK0583	B	SK138	35	26	10	円内形	U字形	灰オーピー色砂質シルト					
SK0584	B	SD79						黒褐色砂質シルト				中世2	
SK0585	B	SK139	33	33	8	円内形	U字形	黒褐色+暗灰褐色砂質シルト土壁					
SK0586	B	SK483	34	33	10	円内形	U字形	黒褐色+暗オーピー色砂質シルト土壁に混					
SK0587	B	SK482	48	31	16	円内形	箱形	黒褐色+暗オーピー色砂質シルト土壁に混					
SK0588	B	SK481	残21	82	9	円内形	面形	黒褐色+暗オーピー色砂質シルト+大の小釋迦					
SK0589	B	SK114	583	313	24	不定形	面形	にぶい貴褐色粗粒砂				301土師2中世2	
SK0590	B	SK121	94	73	51	円内形	面形	不明				302~304中世3不明2	青浦田茶、銀色部
SK0591	B	SK485	304	198	56	円内形	箱形	粗粒砂					
SK0592	B	SK19	52	42	6	円内形	箱形	不明粘土					
SK0593	B	SK18	160	162	3	円内形	瓶形	黒褐色砂質シルト+暗オーピー色粗粒砂土壁				305中世5	SD57に切られる
SK0594	B	SK98a	63	49	10	円内形	箱形	褐色粗粒砂土壁					
SK0595	B	SK97	118	87	25	円内形	U字形	褐色粗粒砂土壁					
SK0596	B	SK489	102	68	10	不定形	面形	暗灰褐色砂質シルト+にぶい貴褐色粗粒砂土壁					
SK0597	B	SK63	330	196	17	長方形	面形	黒褐色+暗オーピー色中粒砂土壁					
SK0598	B	SK100	110	860	37	円内形	箱形	黒褐色砂質シルト+灰オーピー色シルト土壁					
SK0599	B	SK99	残120	106	26	円内形	面形	黒褐色砂質シルト+灰オーピー色シルト土壁				土師1	
SK0600	B	SK92	57	47	5	円内形	面形	灰オーピー色砂質シルト+黒褐色シルト土壁					
SK0601								不明					
SK0602								不明					
SK0603	B	SK96	86	29	6	長方形	U字形	黒褐色粘質シルト					
SK0604								不明					
SK0605	B	SK111	89	87	1%	不定形		不明					
SK0606	B	SK90	78	70	8	円内形	面形	灰オーピー色シルト+黒褐色砂質シルト土壁					
SK0607	B	SK91	68	58	8	円内形	面形	黒褐色砂質シルト+黑色シルト土壁に炭化					
SK0608	C	SK01						不明				留意1	
SK0609	C	SK17a	残52	45	9	円内形	面形	不明				土師1中世2不明2	SD121に切られる
SK0610	B	SK93	残346	残161	12	不定形	面形	黒褐色砂質シルトに炭化物混					
SK0611	C	SK22	267	183	45	円内形	面形	不明				範囲2中世1	
SK0612	C	SK25	229	199	37	不定形	面形	不明					
SK0613	C	SK24	283	78	46	長方形	面形	不明				306土師1	
SK0614	C	SK23	249	137	63	不定形	面形	不明					
SK0615	C	SK26	108	62	14	円内形	面形	不明					SK616に切られ、SD120を切る
SK0616	C	SK27	114	98	23	円内形	面形	不明					SK615、SD120を切る
SK0617	C	SK20	252	142	42	不定形	面形	不明				中世1	
SK0618	C	SK21	268	126	57	不定形	面形	不明					
SK0619	C	SK14	31	22	7	円内形	面形	不明					
SK0620	C	SK13	31	19	3	円内形	面形	不明					
SK0621	C	SK15	20	15	11	円内形	面形	不明					
SK0622	C	SK06	168	53	9	円内形	面形	不明					
SK0623	C	SK05	174	77	13	円内形	面形	不明					SD129を切る
SK0624	C	SK02	135	113	35	長方形	面形	不明				307~309中世1	SD129を切る
SK0625	C	SK07	215	139	6	長方形	面形	不明					
SK0626	C	SK17b	147	45	7	円内形	面形	不明					SD89.134.136を切る
SK0627	C	SK11	25	24	7	円内形	面形	不明					
SK0628	C	SK10	31	24	7	円内形	面形	不明					SD136を切る
SK0629	C	SK08	69	51	11	長方形	面形	不明				土師2頭唐2中世2	
SK0630	C	SK18	137	39	6	円内形	面形	不明					
SK0631	C	SK19	78	残41	32	円内形	面形	不明					SD136に切られる
SK0632	C	SD03	残66	42	8	円内形	面形	不明					SD137に切られる
SK0633	C	SK01	289	残109	27	円内形	面形	不明					SD89.134.136を切る
SK0634	C	SK09	112	101	13	不定形	面形	不明					
SK0635	C	SK507	153	74	1	不定形	面形	不明					
SK0636	C	SK552	66	36	10	円内形	面形	不明					SD1013.1014を切る
SK0637	C	SK510	39	31	10	円内形	面形	不明					SD103
SK0638	C	SK511	113	残94	13	不定形	面形	不明					SD104に切れる
SK0639	C	SK508	130	70	21	円内形	面形	不明					SD108

新遺物番号	区	旧遺物番号	長	幅	高さ	平面形	断面形	地	土	遺物	備考
SK1029	C	SK506	127	54	22	楕円形	不明			土加2頭底1	
SK1030	C	SK551	62	51	20	楕円形	不明				
SK1031	C	SK550	48	27	15	楕円形	不明				
SK1032	C	SK512	112	58	13	不定形	不明			土加26	
SK1033	C	SK525	53	39	9	不定形	不明				
SK1034	C	SK547	22	19		長方形	不明				
SK1035	C	SK548	28	24	3	長方形	不明				
SK1036	C	SK546	32	22	4	楕円形	不明				
SK1037	C	SK549	23	15	9	楕円形	不明				
SK1038	C	SK543	30	24	5	楕円形	不明				
SK1039	C	SK539	23	21	9	楕円形	不明				
SK1040	C	SK544	34	32	7	円形	不明				
SK1041	C	SK545	18	17	8	円形	不明				
SK1042	C	SK541	87	55	19	楕円形	不明				
SK1043	C	SK540	32	22	15	楕円形	不明				
SK1044	C	SK542	22	21	6	円形	不明				
SK1045	C	SK532	56	33	18	楕円形	不明				
SK1046	C	SK504	29	24	10	楕円形	不明			土加1	
SK1047	C	SK533	32	19	12	楕円形	不明				
SK1048	C	SK537	21	19	2	円形	不明				
SK1049	C	SK503	35	23	8	楕円形	不明			土加1	
SK1050	C	SK533	146	64	6	楕円形	不明			SK1054を切る	
SK1051	C	SK531	22	17	3	楕円形	不明				
SK1052	C	SK530	21	16	6	楕円形	不明				
SK1053	C	SK536	25	19	4	楕円形	不明				
SK1054	C	SK534	406	67	7	楕円形	不明			SK1056に切られる	
SK1055	C	SK502	111	46	15	楕円形	不明				
SK1056	C	SK535	31	22	10	楕円形	不明				
SK1057	C	SK529	18	17	7	円形	不明				
SK1058	C	SK528	38	19	4	楕円形	不明				
SK1059	C	SK527	残39	残24	6	楕円形	不明				
SK1060	C	SK526	26	23	2	楕円形	不明				
SK1061	C	SK503	172	49	9	不定形	不明			土加1	
SK1062	C	SK522	97	69		楕円形	不明				
SK1063	C	SK521	84	53		不定形	不明				
SK1064	C	SK520	42	40	8	円形	不明				
SK1065	C	SK519	36	21		楕円形	不明			SK1066に切られる	
SK1066	C	SK518	79	56		楕円形	不明			SK1065を切る	
SK1067	C	SK517	140	66	6	楕円形	不明			SD1019を切る	
SK1068	C	SK501	68	49	4	長方形	不明			土加3頭底1	SD1022を切る
SK1069	C	SK523	245	222	76	楕円形	不明				
SK1070	C	SK515	118	91	17	不定形	不明			30~31	
SK1071	C	SK516	81	48		楕円形	不明			土加2	
SK1072	C	SK514	319	249	31	不定形	不明			28~29	
SK1074	C	SK524	76	63		楕円形	不明				
SK1075	C	SK513	301	144	20	不定形	不明			土加2頭底2火鉢4	
SK1076	C	SD511	残38	172	21		不明			40土加1頭底9	
ST1009	B	ST514	残541	残538	3		不明				
ST1002	B	ST511	766	残273	6		不明				
ST1003	B	ST515	1051	583	16		不明				
ST1004	B	ST517	346	292	9		不明				
ST1005	B	ST512	364	251	1		不明				
ST1006	B	ST510	426	292	9		不明				
ST1007	B	ST516	残534	残262	2		不明				
ST1008	B	ST513	899	892	10		不明				
ST1009	B	ST505	残558	残264			不明				
ST1010	B	ST502	526	残323	10		不明				
ST1012	B	ST507	467	365			不明				
ST1013	B	ST506	447	338	5		不明				
ST1014	B	ST503	残468	413	8		不明				
ST1015	B	ST501	残191	残107	7		不明				
ST1016	B	ST509	残356	残247	4		不明				
ST1017	B	ST505	残401	残294	5		不明				
ST1018	B	ST504	残151	残61			不明				
SX0001											
SX0002	B	SX11				黒色シルト				土加1中世11世不明	
SX0003	B	SX13				黒褐色砂質シルト				中世2049その他の1039	
SX0004	B	SX06				黒褐色シルト					
SX0005	B	SX08				黒色シルト				土加2中世6不明39	SX06の下部に
SX0006	B	SX06				黒褐色シルト				317~335中世1917その他の918	
SX0007	B	SX07				黒色シルト+灰褐色砂質シルト					
SX0008	B	SX02				細粒砂質				355	
SX0009						黒色シルト+細粒砂質					
SX0010	B	SX04				灰褐色粒砂+オーブ黒色シルト斑土					

透構一覧表(14)

剖面標番号	C	旧透構番号	孔 幅	孔 軸	深さ	平面形	無面形	地 土	遺 物	備 考
SX0011	B	SX09	—	—	—	—	—	黒褐色シルト	336~354土+砂204その他40	固密クション回
SX0012	B	SD06	残1727	448	11	—	—	黒褐色砂質シルト	356~364土+砂30弱色5中黄72	
SX0013	B	SD01	残862	残228	30	U字形	—	黒色シルト→黒褐色+褐灰色砂質シルト斑点	365~372土+砂7原岩2中黄41	
SX0013	B	SX01	—	—	—	—	—	黒褐色砂質シルトに細粒砂混	—	
SX0014	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
SX1004	B	大町畔	残819	227	8	不定形	不明	—	—	

## 天神前遺跡

## 遺物一覧表(1)

番号	遺物番号	区	田遺構 番号	產地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片 数
1	SB1001	98B	SB501	土師器	甕		残20.6	4.8	ヘラケズリ、指オサエ。	ヨコナデ、タテハゲ、ヘラケズリ、スス付着。	にぶい褐色	43	
2	SB1001	98B	SB501	土師器	直口壺		11.0	14.0	焦げ付着	ヨコナデ、ハケ、指オサエ。	ヨコナデ、ハケ、ケズリ、燒成後穿孔、スス付着。	にぶい褐色、瓶に転用	2
3	SB1001	98B	SB501	土師器	平底甕		残1.2	6.3	スス付着、ケズリと指オサエ	ハケ状ケズリ、ヘラケズリ	にぶい黄褐色	1	
4	SB1001	98B	SB501	土師器	直口壺		残		焦げ付着、ヨコナデ、ハケ	ヨコナデ、指オサエ、底部ケズリ、スス付着。	にぶい褐色	22	
5	SU1001	98B	SU501	土師器	高杯		残7.1	14.0	シボリ、ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、ヨコナデ	浅黄色	1	
6	SU1001	98B	SU501	土師器	小型盃	残9.2	残9.1		ヨコナデ、指オサエ、ハナデ、ケズリ、底黒	ナデ、ヨコナデ	にぶい褐色	2	
7	SU1001	98B	SU501	土師器	盃		残9.6	4.0	ハケまたはケズリ	ナデまたはハケ状のケズリ、ヘラケズリ、黒底	にぶい褐色	15	
8	SU1001	98B	SU501	土師器	小型盃	残6.6	6.6	3.8	ナデ、指オサエ	ナデ、無黒物、黒底	褐色	8	
9	SU1001	98B	SU501	土師器	甕		12.3	14.8	ナデ、指オサエ、こげ付着	ヨコナデ、指オサエ、ヘラケズリ、スス付着	にぶい褐色	36	
10	SD1007	98B	SD504	土師器	台付甕	残15.7	残30.2		ヨコナデ、ハケまたはヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ミガキリ、黒面、沈殿による斑文、スス付着	灰白色	60	
11	SD1006	98B	SD501	土師器	高杯	残17.0	残4.1		ヨコナデ	ヨコナデ、黒底	褐色	6	
12	SD1006	98B	SD501	土師器	台付甕		残4.4	残12.4	ヘラケズリ、ハケ+ヘラケズリ	指オサエ、ヨコナデ	灰白色	3	
13	SD1008	98B	SD502	土師器	甕	残16.8	残2.6		ヨコナデ	ヨコナデ、スス付着	にぶい黄褐色	1	
14	SD1008	98B	SD502	土師器	甕	残13.0	残5.1		ヨコナデ、指オサエ、ケ	スス付着、ヨコナデ	灰白色	1	
15	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯	残15.2	残6.1		ヨコナデ、タハハケ	ヨコナデ、指オサエ+ナデ、焦げ付着	浅黄色	2	
16	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯	残15.0	残3.2		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄色	1	
17	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯+小杯	残14.6	残3.7		ヨコナデ	ヨコナデ、被熟底あり	灰白色? にぶい褐色	6	
18	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯+小杯	残14.0	残5.0		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄色	1	
19	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯		残8.1		若干のスス、しぶり、ヨコナデ	調整痕不明	灰白色	8	
20	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯		残8.6		ナデ?	ヨコナデ、タテ方向ケズリか?、若干の被熟痕、ヨコナデ	灰白色	12	
21	SD1008	98B	SD502	土師器	高杯		残1.8	残10.4	ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色? 褐色	1	
22	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯	残19.6	残3.8		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい赤褐色	1	
23	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯		残9.9	12.6	ヨコナデ、縦指ナデ	スス少付着。板ナデ?、ヨコナデ	にぶい褐色	7	
24	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯	残4.6			ヨコナデ	ヨコナデ、雨オサエ	にぶい褐色	1	
25	SD1001	98A	SD504	土師器	高杯	残9.7	残11.6		ヘラケズリ	ナデ?か?	灰白色	6	
26	SD1001	98A	SD504	土師器	小型盃	10.0	残13.3		ヨコナデ、ヘラケズリ、ス	ス付着、黒面、被熟痕	にぶい褐色	32	
27	SD1003	98A	SD501	土師器	有孔甕?	残10.2	5.2	残4.0	指ナデとケズリ	孔、指オサエ、ケズリ	淡黄色	2	
28	SK1072	98C	SK514	陶器器	碗A?	残11.8	残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色式	3	
29	SK1072	98C	SK514	土師器	甕	残17.6	残2.9		ナデ、ヘラケズリ	ナデ、少しじス付着	にぶい褐色	1	
30	SK1070	98C	SK515	陶器器	杯身B	残1.0	残10.8		ヨコナデ	回転ヘラケズリ。回転系切痕	青黑色 0-10号窯式	1	
31	SK1070	98C	SK515	土師器	甕	残2.0			ナデ、スス付着	ナデ、あらいいハケ	灰褐色	1	
32	SD1013	98C	SD503	土師器	甕	残3.3			ハケ	ナデ	褐色	2	
33	SD1013	98C	SD503	土師器	高杯?	残13.6	残3.1		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい黄褐色	1	
34	SD1014	98C	SD504	土師器	高杯	残13.8	残3.8		調整痕不明	ヨコナデ	浅黄色	3	
35	SD1014	98B	SD504	土師器	高杯		残8.4		脚+ヘラケズリ	指オサエ、ナデ、黒底、被熟痕	浅黄色	1	
36	SD1017	98C	SD507	陶器器	杯蓋	残14.0	残2.2		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色 H-11号窯式	1	
37	SD1017	98C	SD507	陶器器	碗A	残14.0	残3.4		ヨコナデ	ヨコナデ	褐色 0-10号窯式	3	
38	SD1017	98C	SK507	土師器	高杯		残2.5	残20.8	ハケ	ナデ	にぶい黄褐色	1	
39	SD1012	98C	SD509	陶器器	杯蓋	残17.8	残1.9		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色 0-10号窯式	1	
40	SK1076	98C	SD511	土師器	台付甕		残5.0	8.0	ケズリ、脚+ヘラケズリ、タテ方向ナデ	ヘラケズリ(タタキ?)、黒面、被熟痕	にぶい赤褐色	1	
41	包含層	98A	塗り下げ	土師器	甕	12.6	残24.1		ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、雨オサエ、黒底、スス付着	にぶい黄褐色	111	
42	包含層	98A	塗り下げ	土師器	甕	残17.8	残28.6	T.2	ヘラケズリ(下からねあげる)、焦げ付着	ヨコナデ、一部ヘラケズリ、スス付着、部分的に被熟し赤色化	灰白色? 黄灰色	23	

遺物一覧表(2)

番号	遺構番号	区	遺構番号	遺地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
43	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	16.1	32.3		ヨコナデ、板ナゲ。指オサエ。焦げ付着、板ナ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ス	赤黄色		79
44	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	14.4	残22.9		ハケ、ケズリ	ナゲ、指オサエ、ハケ目、	スス付着		65
45	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	15.8	残10.8		ヨコナデ、ミガキのよう	ヨコナデ、指オサエのちケ	にぶい黄褐色		17
46	包含層	98A	振り下げ	土師器	台付甕		残24.7		なヘラケズリ？	ズリ？、スス付着	ズリ？、スス付着		29
47	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕		残18.2	6.6	ヘラケズリ、ハケ	ヘラケズリ、黒斑	にぶい黄褐色		40
48	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	推16.6	残4.1		ヨコナデ、一部剝離	ヨコナデ、破損後スケeling	にぶい黄褐色		8
49	包含層	98A	トレンチ	土師器	甕	推16.4	残4.7		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、指オサエとケズ	にぶい黄褐色		6
50	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	推22.0	残3.0		ヨコハケ	ヨコナデ、スス付着	にぶい黄褐色		1
51	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	推11.4	残7.3		ヨコナデ、指オサエ、ヘ	ヨコナデ、ヘラケズリ、黒	灰白色？、施		4
52	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	推16.2	残3.7		ラケズリ	ラケズリ	灰白色		1
53	包含層	98A	振り下げ	土師器	甕	推15.4	残4.0		ヨコハケ	ヨコナデ	灰白色		1
54	包含層	98A	トレンチ	土師器	甕	推14.8	残4.9		ヨコナデ、ヨコハケ。指	ヨコナデ、タテハケ。スス	灰白色		1
55	包含層	98A	振り下げ	土師器	台付甕		残3.9	残6.4	ヨコナデ	ヨコナデ、黒斑	西黄色		7
56	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯	推12.3	14.3	18.2	ヨコナデ、脚ヘラケズリ、ヨコナデ、黒斑、ミ	ヨコナデ、タテ方向ナダ	灰白色		21
57	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯	推17.5	残7.6		ハケ、脚ヘラケズリ	ハケ、脚ヘラケズリ	灰白色		9
58	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯		残4.5		ヨコナデ	タテ方向のちヨコナデ	にぶい黄褐色		2
59	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯	推17.6	残7.7		ヨコナデ、工具によるナ	ヨコナデ、指オサエのちタ	にぶい黄褐色		2
60	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯	推16.4	残6.1		ダマネタケズリ	ダマネタケズリ	ナダ、指オサエ、黒斑		18
61	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯		残4.5		ヨコナデ	ヨコナデ、一部ハケ、被熱	淡黃褐色？		2
62	包含層	98A	検?	土師器	高杯	推15.6	残5.1		ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、被熱痕	にぶい橙色		7
63	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯	推13.0	残4.4		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい褐色		1
64	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残3.3		ナダ？	ナダ？	淡黃褐色		1
65	包含層	98A	検?	土師器	高杯		残4.3		ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙色		1
66	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯		残4.5		ヨコナデ、ケズリ	ヨコナデ、黒斑	淡黃褐色		5
67	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯		残8.7	推13.8	しほり、ケズリ？、ヨコナデ	ヨコナデ？、ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、白		3
68	包含層	98A	トレンチ	土師器	高杯		推5.8	推12.8	ヘラケズリ、ヨコナデ	タテ方向ナダ、ヨコナデ	灰褐色		1
69	包含層	98A	検?	土師器	高杯	推10.0	13.5	推11.5	ヨコナデ？、黒斑あり	ヨコナデ、指オサエのちナダ、ヨコナ	黄褐色		10
70	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯	推8.7	推13.4	ヨコナデヘラケズリ、ヨコナ	ヨコナデ	ヨコナデ	白		2
71	包含層	98A	検?	土師器	高杯		推8.3		シボリ、ヘラケズリ	シボリ、ヘラケズリ	白		6
72	包含層	98A	振り下げ	土師器	高杯		推8.3		脚部	脚部、脚部不明、被熱痕	被熱痕、脚部不明、被熱痕	被熱痕	2
73	包含層	98A	検?	土師器	高杯		推6.8		ヨコヘラケズリ、ナダ？	ナダ？工具あり	白		6
74	包含層	98A	検?	土師器	高杯		推4.3	13.0	ヘラケズリ、ナダ？	タテ方向ケズリ、ヨコナデ	にぶい褐色		6
75	包含層	98A	トレンチ	土師器	高脚杯	推2.0	推17.0	推16.8	ヨコハケ？、ヨコハケ	ヨコナデ？	白		2
76	包含層	98A		土師器	甕		12.3	15.5	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナ	ヨコナデ、ヘラケズリ、ナ	白		62
77	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型甕	推8.4	9.4	4.8	スス付着	スス付着	白		4
78	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	8.4	8.8	5.6	ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、ケズリ、黒斑、あり	にぶい黄褐色		13
79	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	8.8	7.9	3.8	ヨコナデ、ヨコハケ、指	ヨコナデ、ヘラケズリ、黒	にぶい褐色		1
80	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	9.4	7.7		ナダ、スス付着	ナダ、スス付着	にぶい黄褐色		1
81	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	推7.8	推4.6		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ヘラケズリ	にぶい橙色		1
82	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型甕	推7.8	推5.5		ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ、ス	褐色		1
83	包含層	98A	素土剥ぎ	土師器	小型甕		推7.0	4.4	ナダ	ナダ	素オサエのち板状工具のケ	にぶい黄褐色	9
84	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型甕		推4.1	3.0	ヨコナデ	ヨコナデ、被熱痕	被熱痕	2	
85	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	推10.0	推5.0		ヨコナデ、イキ	ヨコナデ、指オサエ	淡黃褐色		5
86	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	推7.0	推5.8		ヨコナデ、指オサエ	ヨコナデ、指オサエ、指	褐色		3
87	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕	推10.2	推4.3		ヨコナデ	ヨコナデ、被熱痕	明褐色		6
88	包含層	98A	振り下げ	土師器	小型甕		推5.7		ヨコナデ、指ナダ	ヨコナデ、指ナダ	にぶい黄褐色		1
89	包含層	98A	トレンチ	土師器	小型甕		推3.2	4.6	ナダ	板ナダ、外側黒化する	にぶい黄褐色		4
90	包含層	98A	トレンチ	土師器	甕	推6.9	推3.5		ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、スス付着	にぶい褐色		2

番号	遺構番号	区	日遺構 番号	周地・材質	器種	口径	高さ	底様	内面	外面	出土	備考	破片 数
91	包含層	98A	トレン チ	土師器	小型壺	径12.0	残4.2		ヨコナヂ	ヨコナヂサ	にぶい黄褐色		1
92	包含層	98A	網り下	土師器	鉢	径16.0	残5.4		ケツリ	不明、一部ケツリ	灰白色		7
93	包含層	98A	檢?	土師器	甕	径7.4		5.0	ヘラケツリ、焦化	ヘラケツリ、黒斑、スス村 君	にぶい黄褐色		3
94	包含層	98A	網り下	土師器	小型壺	径8.5	残6.2		ヨコナヂ、ヨコハケ	ヨコナヂ	灰白色		3
95	包含層	98A	トレン チ	土師器	鉢	13.8	9.1		ヨコナヂ、ケツリ	ヨコナヂ、雨オサエ荒く殘 る、ケツリ、黒斑	にぶい褐色		23
96	包含層	98A	網り下 げ	須恵器	杯壺	12.4	5.9		ヨコナヂ	回転ヘラケツリ、ヨコナ ヂ、施成陶刻あり	灰褐色	H-11号窯 式	7
97	包含層	98A	表土 ガ	須恵器	杯壺	径14.0	5.0		ヨコナヂ	回転ヘラケツリ、ヨコナヂ	明黄褐色	H-61号窯 式	2
98	包含層	98B	トレン チ	土師器	甕	径13.6	残4.4		ヨコナヂ、ヘラケツリ	ヨコナヂ、ヘラケツリ、ス ス村君	にぶい赤褐色		6
99	包含層	98B	檢?	土師器	甕	径17.8	残4.1		ヨコナヂ、イキ	ヨコナヂ、スス村君	灰白色		1
100	包含層	98B	トレン チ	土師器	甕	14.0	残4.0		ハケ、ヘラケツリ	ヨコナヂ、雨オサエ	にぶい褐色		7
101	包含層	98B	トレン チ	土師器	甕	径17.6	残4.4		縁部荒マミアガ、ハ ケ、ヘラケツリ	ヨコナヂ、ハケ、スス村君	浅黄褐色		3
102	包含層	98B	トレン チ	土師器	小型壺	径11.0	残2.7		ハケ	ナヂ、一部スス村君	浅黄褐色		4
103	包含層	98B	トレン チ	土師器	高杯	径21.2	残4.9		ヨコナヂ、表面艶失 してから	ヨコナヂ、黒斑	にぶい褐色		3
104	包含層	98B	檢?	土師器	高杯	径20.0	残4.6		ヨコナヂ	ヨコナヂ、黒斑	褐色		1
105	包含層	98B	トレン チ	土師器	高杯	径18.0	残5.6		スス村君、ナヂ	スス村君、ヨコナヂ、指オ サエ	浅黄褐色		6
106	包含層	98B	檢?	土師器	高杯	径16.2	残4.0		ヨコナヂ	指オサエとナヂ	にぶい黄褐色		1
107	包含層	98B	檢?	土師器	高杯	径8.9			ナヂ、ヨコナヂ	タテヘラケツリか?、被熱	にぶい褐色		1
108	包含層	98B	トレン チ	土師器	高杯	径8.9	残0.9	11.6	ヨコナヂ	ヨコナヂ	浅黄褐色		1
109	包含層	98B	檢?	土師器	小型壺	径9.0	残3.5		ヨコナヂ	ヨコナヂ	にぶい黄褐色		1
110	包含層	98B	檢?	土師器	小型壺	径11.1	残4.1		ヨコナヂ、ヘラケツリ	ヨコナヂ	にぶい褐色		1
111	包含層	98B	檢?	土師器	盤?	径11.6	残4.7		ヨコナヂ、ハケ、ヘラケ ツリ	ヘラケツリ、ハケ、黒斑	にぶい黄褐色		1
112	包含層	98B	檢?	土師器	盤?	径11.6	残4.7	5.0	ハケ、ケツリ	雨オサエ、調輪不明、黒斑	灰白色		9
113	包含層	98B	トレン チ	土師器	甕	径14.0	残4.0		ヨコナヂ、ヘラケツリ	ヨコナヂ、スス村君	にぶい赤褐色		3
114	包含層	98B	トレン チ	土師器	柳叶型壺	18.4	残5.3		刺突文	ナヂ、刺突文	浅黄褐色		5
115	包含層	98B	トレン チ	須恵器	杯壺	11.9	残4.4		ヨコナヂ	ヘラケツリ、ヨコナヂ	褐色化? 灰 褐色	H-11号窯 式	3
116	包含層	98B	トレン チ	須恵器	杯壺	径14.0	残3.3		ヨコナヂ	回転ヘラケツリ、ヨコナヂ	褐灰色	H-61号窯 式	2
117	NR1001	98C	NR01	土師器	台付甕	径17.5	残33.0		ヨコナヂ、指オサエ、ヘ ラケツリ、ハケ、こげ付 着	ヨコナヂ、スス村君、指オ サエまたヨコナヂのち一部へ ケツリ、スス村君	にぶい褐色		104
118	包含層	98C	網り下	土師器	甕	径18.8	残4.4		ヨコナヂ、ヘラケツリ	ヨコナヂ、被熱瓶	にぶい褐色		4
119	包含層	98C	網り下 げ	土師器	甕	径15.6	残6.5		ナヂ、指オサエ	ヨコナヂ、ヨコヘラケツ リ、被熱瓶	にぶい褐色		4
120	包含層	98C	檢?	土師器	甕	径17.0	残6.0		ヨコナヂ、ハケ	スス村君、ヨコナヂ	にぶい黄褐色		4
121	包含層	98C	表土	土師器	甕	径15.6	残5.0		ヨコナヂ、ハケ	ヨコナヂ、スス村君	にぶい黄褐色		1
122	包含層	98C	南壁	土師器	台付甕	径4.3		11.0	指オサエ、ナヂ	ナヂ	明黄褐色		1
123	包含層	98C	網り下	土師器	甕	径3.3	6.7		ハケ、焦げ付着	指オサエ、ナヂ、スス村君	褐色		1
124	包含層	98C	南壁	土師器	高杯	径6.9			ヘラケツリ	タテヘラケツリ?	にぶい黄褐色		1
125	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径17.2	5.6	7.6	ヨコナヂ、磨滅	ヨコナヂ、磨滅、黒斑、同 軸系切痕	灰白色	第5型式	1
126	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径16.2	5.5	7.4	ヨコナヂ、自然輪、磨滅	ヨコナヂ、一部にスス村 君、同軸系切痕	灰白色	第3型式	3
127	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径15.4	5.5	7.4	自然輪、董ね焼き瓶、ヨ コナヂ	ヨコナヂ、モミ板、同軸系 切痕	灰白色	第5型式	2
128	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径16.8	残4.3		ヨコナヂ、自然輪	ヨコナヂ	灰白色	第4D型 式	1
129	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	残3.5	8.2		ヨコナヂ	ヨコナヂ、モミ板、同軸系 切痕	明黄褐色	第4型式	1
130	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径4.0	8.0	7.67	自然輪、磨滅、スス付け ている、ヨコナヂ	ヨコナヂ、モミ板あり、同 軸系切痕	灰白色	第5型式	1
131	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径4.8	7.8	6.87	ヨコナヂ、自然輪	ヨコナヂ、モミ板、同軸系 切痕	灰白色	第4型式	1
132	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径3.2	7.6		ヨコナヂ、磨滅	ヨコナヂ、モミ板あり、同 軸系切痕	灰白色	第5型式	2
133	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径3.9	8.0	7.27	ヨコナヂ、磨滅	ヨコナヂ、モミ板あり、同 軸系切痕	灰白色	第5型式	1
134	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径4.0	7.5		ヨコナヂ、磨滅、自然輪 の自然輪、董ね焼き瓶、ヨ コナヂ	ヨコナヂ、モミ板あり、同 軸系切痕	黄褐色	第5型式	1
135	SE01	98S	SK171	尾張型	山茶瓶	径3.4	7.8		ヨコナヂ	ヨコナヂ、モミ板あり、同 軸系切痕	灰白色	第5型式	1

遺物一覧表(4)

付表

番号	遺構番号	区	BT遺構番号	產地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	紹介	備考	破片数
136_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残3.4	7.5	ヨコナダ、自然釉、重ね焼き底	ヨコナダ、モミ痕あり、回転系切底	ヨコナダ?、黄褐色	東濃か?	第3型式	1	
137_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残3.1	推8.0	ヨコナダ、自然釉	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
138_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残4.0	推7.2	ヨコナダ	ヨコナダ、一見ス付着	灰白色	第5型式	1		
139_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残3.1	推8.4	ヨコナダ磨滅	ヨコナダ、モミ痕あり、回転系切底	灰白色	第4型式	1		
140_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.5	推6.4	内面に刻状の失敗痕あり、重ね焼き底、自然釉	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
141_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.3	推7.2	重ね焼き底、ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
142_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.7	推7.0	ヨコナダ、磨滅	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
143_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残3.2	推8.0	ヨコナダ、重ね焼き底	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	東濃か?、第3.5型式	1		
144_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.3	推7.6	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
145_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.6		重ね焼き底、自然釉、ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	褐灰色	第4.5型式	1		
146_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.3	推7.8	重ね焼き底、ススキ付着、ヨコナダ	ヨコナダ、モミ痕あり、回転系切底	灰白色? 横	第4.5型式	1		
147_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残3.0	6.6	重ね焼き底、ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
148_SE01	98B	SK171	尾張型	山茶碗	残2.6	推9.2	自然釉、ヨコナダ	ヨコナダ、モミ痕あり、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
149_SE01	98B	SK171	尾張型	小皿	残2.5	5.6	ヨコナダ、重ね焼き底、自然釉	ヨコナダ、重ね焼き底、自然釉	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第3型式	1	
150_SE01	98B	SK171	尾張型	小皿	推9.8	3.3	推5.6	ヨコナダ、自然釉	自然釉、ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第3型式	1	
151_SE01	98B	SK171	尾張型	鉢	27.3	10.9	13.5	灰釉、ヨコナダ	灰釉(自然釉?)、ヨコナダ、ヘラケズリ	にぶい黄褐色	第4型式	6	
152_SE01	98B	SK171	常滑	羽釜	推24.4	推8.3		ヘラケズリ、指オサエ、墨色化	ヨコナダまたは指オサエ	褐灰色	1		
153_SE01	98B	SK171	常滑	鉢	推30.6	推9.6	ヨコナダ	ケズリまたは指オサエ、ズス付着	にぶい褐色	1			
154_SE01	98B	SK171	土器部	伊勢型鏡	推24.8	推8.9	ヨコナダ、ケズリ	ヨコナダ、指オサエ、わずかにズス付着	淡黄色	4			
155_SE01	98B	SK171	土器部	皿	残2.8	7.8	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底、表面は褐色となる	褐色	ロクロ調	1		
156_SE01	98B	SK171	土器部	皿		4.8	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	ロクロ調	1		
157_SE01	98B	SK171	常滑	鉢	残7.4		ヨコナダ、ヘラケズリ	オサエを全焼、ズス付着	灰褐色	1			
158_SE02	98C	SK16	尾張型	山茶碗	残2.5	7.0	ヨコナダ	ヨコナダ、モミ痕あり、回転系切底	灰白色	第6型式	1		
159_SE02	98C	SK16	須恵器9	小型造	推10.6	残4.3	ヨコナダ	自然釉、ヨコナダ	褐灰色	1			
160_SE02	98A	SD1	尾張型	山茶碗	残2.5	推7.6	ヨコナダ	ヨコナダ、モミ痕、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
161_SD03	98A	SD42	土器部	小型造	残5.6	推5.8	ヘラケズリ、指オサエ	ヨコナダ、指オサエ、一部ズス付着、ヘラケズリ	にぶい橙色	1			
162_SD03	98A	SD42	尾張型	山茶碗	残4.2	4.3	ヨコナダ、自然釉	ヨコナダ、モミ痕、回転系切底	灰白色	第5型式	1		
163_SD08	98A	SD16	須恵器	杯身	残1.5		ナダ	ナダ	灰白色	#50号窯式	1		
164_SD20	98A	SD15	尾張型	小皿	推10.0	残1.7	ヨコナダ	ヨコナダ	褐色	知多第5号窯式	1		
165_SD20	98A	SD15	尾張型	山茶碗	残1.9	推7.8	ヨコナダ	ヨコナダ、モミ痕	灰色	第5型式	1		
166_SD23	98A	SD27	尾張型	山茶碗	残2.0	推8.0	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第3型式	1		
167_SD28	98A	SD31	尾張型	片口鉢	残3.3		ヨコナダ	ヨコナダ、自然釉	褐灰色	第5型式	1		
168_SD35	98A	SD32	灰釉	鉢	残1.8	推7.2	ナダ	ナダ、赤切?	灰白色	E-90号窯式	1		
169_SD35	98A	SD32	灰釉	鉢	残5.3	推7.0	灰釉	灰釉、回転系切底	灰白色	大原2号窯式	1		
170_SD35	98A	SD32	尾張型	山茶碗	推14.0	残3.2	ヨコナダ	ヨコナダ	灰白色	第4型式	1		
171_SD38	98A	SD05	尾張型	小皿	7.4	1.8	4.5	ヨコナダ、一方向ナダ	ナダ、ヨコナダ、回転系切底	廻戸第6型式	3		
172_SD42	98A	SD35	尾張型	山茶碗	残2.3	8.6	輪トチ前、ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切底	灰白色	第4型式	1		
173_SD44	98A	SD41	尾張型	山茶碗	残2.7		自然釉、ヨコナダ	ヨコナダ	灰白色	98A-10と同一個体か、第4型式	1		
174_SD45	98A	SD68	尾張型	小皿	7.9	2.0	4.4	ヨコナダ、全面自然釉	ヨコナダ、回転系切底	知多第6型式	1		
175_SD61	98A	SD67	尾張型	山茶碗	推16.0	4.4	7.8	ヨコナダ、自然釉若干	ヨコナダ、モミ痕、回転系切底	知多第3型式	1		
176_SD61	98A	SD67	尾張型	山茶碗	15.8	5.5	6.8	ヨコナダ、切、板状压痕	ヨコナダ、モミ痕、回転系切底	知多第5型式	1		
177_SD62	98A	SD69	尾張型	山茶碗	残2.1	推8.8	ヨコナダ	ヨコナダ、モミ痕、回転系切底	にぶい黄褐色	知多第3型式	1		
178_SD65	98B	SD83	尾張型	山茶碗	残2.2	推6.0	ヨコナダ、一方内ナダ	ヨコナダ、モミ痕、回転系切底	灰白色	第6型式	1		

## 天神前遺跡

## 遺物一覧表(5)

番号	遺物番号	区	印造機番号	产地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
179	SD05	98B	SD05	尾張型	山茶碗		残1.8	7.6	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	1	
180	SD05	98B	SD05	尾張型	小皿	残6.7	1.5	残4.4	全面自然釉	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第72-8型式	
181	SD05	98C	SD09	須恵器	杯身		残3.0		ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	緑灰色	1-41号葉式	
182	SD05	98C	SD09	須恵器	杯身A	推13.4	10.4	推4.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	灰色	0-10号葉式	
183	SD05	98C	SD09	須恵器	フタコ形垂	残9.7			自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	7世紀後	
184	SD07	98B	SD03	中世瓦	平瓦	巾12.4	厚1.8		布目ヘラケズリ	コピキA-谷目	灰白色	1	
185	SD07	98B	SD03	中世瓦	瓦丸	残長7.2	幅9.7	厚2.3	工芸なヘラくガキ、ヘラケズリ	ヘラケズリ、部分的に布目	灰白色	1	
186	SD07	98B	SD03	上部器	台付甕		残6.6		イキ、脚ヘラケズリ	ハケ、スヌ付着、ヘラケズ	にぶい褐色	1	
187	SD07	98B	SD03	須戸美濃	钵		残6.6		鉄輪		黄灰色	江戸	
188	SD07	98B	SD03	須戸美濃	内耳瓶	推20.4	残3.8		サビ釉	サビ釉、スヌわざかに付着	古瀬戸後 Ⅱ期		
189	SD07	98B	SD07	須戸美濃	内耳瓶		推19.0	残4.5	うすいサビ釉	うすいサビ釉	灰白色	古瀬戸後 Ⅱか中期	
190	SD09	98B	SD08	灰釉陶器	粗瓶	推13.8	残1.5		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	1	
191	SD07	98B	SD10	尾張型	山茶碗		残1.6	残8.4	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	知多第6型式	
192	SD07	98B	SD10	尾張型	山茶碗	推12.2	残3.9		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	2	
193	SD07	98B	SD10	上部器	南伊勢系縞	推17.0	残2.2		ヨコナデ	スヌ付着	にぶい黄褐色	1	
194	SD04	98B	SD01	尾張型	小皿	推8.6	1.8	推5.8	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	第65-7型式	
195	SD01	98B	SD07	古瀬戸	灰釉平瓶	推15.8	残4.6		灰釉	灰釉、露胎	灰白色	古瀬戸後 Ⅱ期	
196	SD01	98B	SD07	須戸美濃	灰釉鉢皿		残1.3	推7.6	灰釉、鉢皿	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	古瀬戸中 期	
197	SD01	98B	SD02	須恵器	杯身		残3.3	推12.0	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	1	
198	SD01	98B	SD07	上部器	甕	推14.6	残5.0		ヨコハケ、ヘラケズリ	スヌ、ヨコナデ	にぶい褐色	2	
199	SD01	98B	SD02	上部器	内耳瓶	推20.4	残4.6		ハケ	スヌ付着	淡黄色	くの字形	
200	SD04	98B	SD07	上部器	内耳瓶	推28.4	残6.4		ヘラケズリ	スヌ付着	にぶい褐色	内彌形?	
201	SD04	98B	SD07	上部器	内耳瓶		残7.5		内耳	調整不明、スヌ付着	にぶい褐色	半彌形	
202	SD04	98B	SD07	上部器	内耳瓶				上半は赤化する。スヌわずかに付着。調整痕不明な所多い。		にぶい褐色	半彌形	
203	SD04	98B	SD07	上部器	内耳瓶	推33.6	残4.2		ハケ	スヌ付着	にぶい褐色	半彌形	
204	SD04	98B	SD07	中世瓦	平瓦	残長9.9	幅6.9	厚2.0	ヨコキAのち布目	タタキハナレ形	灰白色	1	
205	SD07	98B	SD06	尾張型	山茶碗	推13.9	残2.8		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色	第6型式	
206	SD08	98B	SD05	尾張型	山茶碗	推13.8	残4.0		スヌ付着、ヨコナデ	ヨコナデ	黄灰色	第40-5型式	
207	SD08	98B	SD05	尾張型	山茶碗		残4.1		自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	知多第4型式	
208	SD09	98C	SD08	須恵器	杯身	推10.0	残2.2		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	II-10号葉式	
209	SD09	98C	SD16	須恵器	杯身		残2.5	推6.8	ヨコナデ	ナデ、ヘラケズリ	灰色	0-10号葉式	
210	SD09	98C	SD16	須恵器	盤		残1.7	推14.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	青灰色	0-10号葉式	
211	SD09	98C	SD16	須恵器	碗A	推12.2	3.8	推5.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	青灰色	0-10号葉式	
212	SD09	98B	SD12	須恵器	碗A	推12.2	4.3	5.8	ナデ	ナデ、回転糸切痕	褐灰色	16-78号葉式	
213	SD09	98C	SD16	須恵器	便器		残7.4		ナデ	調せき文	青灰色	繩系5-6 世紀	
214	SD09	98C	SD20	須恵器	脚付壺?	推5.2			ヨコナデ	ケズリ。木葉痕、被熱痕	褐灰色	1	
215	SD09	98C	SD20	土師器	高杯	推4.9	推4.9	推4.9	ヘラケズリ?、ヨコナデ	タス方向ケズリ?、黒斑	褐灰色	1	
216	SD09	98B	SD12	土師器	焰塔		残1.9		ハケ	スヌ付着	にぶい黄褐色	1	
217	SD09	98C	SD20	須恵器	脚付壺?	推5.2			ヨコナデ	ヨコナデ、ヘラケズリ	灰色	7世紀代	
218	SD09	98C	SD20	土師器	便	推17.6	残3.9		不明、ヘラケズリ	あらしいハケ	灰白色	1	
219	SD09	98C	SD20	土師器	便	推2.4	推9.0		ナデ	ハケ、木葉痕、被熱痕	橙色	1	
220	SD09	98B	SD12	尾張型	小皿	7.7	2.3	4.1	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、被熱痕	灰白色	第5型式	
221	SD09	98B	SD12	尾張型	小皿	7.9	1.8?	2.0	ヨコナデ	ヨコナデ、自然釉	灰白色	知多第6型式	
222	SD09	98B	SD12	須戸美濃	盤折皿	推10.7	残2.6		灰釉	灰釉、露胎	灰白色	古瀬戸後 Ⅳ期新	
223	SD09	98B	SD12	須戸美濃	盤		残4.6		うすいサビ釉	うすいサビ釉	灰色	古瀬戸後 IV古期	
224	SD09	98B	SD12	土師器	内耳瓶	推22.3	残7.0		ヨコナデ、ヘラケズリ	ヨコナデ、ハケ、スヌ付着	淡黄色	くの字形	
225	SD09	98B	SD27	土師器	便	推15.3	残2.5		ハケ	ヨコナデ、スヌ付着	にぶい黄褐色	4	

遺物一覧表(6)

付表

番号	遺物番号	区	出土地	地質	材質	器種	口径	器高	底径	内面	外側	胎土	備考	破片数
226	SD96	98B	SD45	中国	白磁	直筒		残1.9		白磁釉	灰白色			1
227	SD96	98B	SD45	土師器	燒物			残3.3		ハケ	ナデ、スス付着	浅黄褐色		1
228	SD96	98B	SD45	土師器	焼物	ハクツ		残8.1		ヨコナデ	ヨコナデ、波状文、次輪	褐灰色	5世紀後半	3
229	SD98	98B	SD20	土師器	土罐	長さ4.4	巾1.0	厚1.0			にぶい黄褐色	色		1
230	SD102	98B	SD17	尾張型	小皿	径7.7		1.9	推5.5	ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ、回転系切版	灰白色	第6型式	1
231	SD102	98B	SD17	土師器	皿					ヨコナデ、回転系切版、蓋	黄灰色	ロクロ調	1	
232	SD104	98B	SD79	土師器	内耳鍋	推24.4	残9.2			調整不明	調整不良、スス付着、次輪	にぶい褐色	手揉形	3
233	SD108	98B	SD30	尾張型	山茶碗			残3.3	推5.4	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕あり、回	灰白色	転び第7型	1
234	SD110	98B	SD43	尾張型	山茶碗	推14.7	残3.5			ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	第6小7型	1
235	SD120	98C	SD22	尾張型	小皿	径7.4	1.6	推4.4		自然釉、ヨコナデ。一方 向ナデ	ヨコナデ、回転系切版	灰白色	第6型式	1
236	SD120	98C	SD22	土師器	皿	径2.0	推8.0		ナデ、タール付着	ヨコナデ、回転系切版	灰白色	ロクロ調	1	
237	SD120	98C	SD22	土師器	内耳鍋	推19.2	残3.8		ヨコナデ、指オサエ	スス付着、ヨコナデ	灰白色	くの字形	1	
238	SD129	98C	SD64	土師器	高杯			残5.6		ハラケズリ	ナデ	褐色		1
239	SD129	98C	SD64	灰釉陶器	碗	15.0	4.1	7.0	灰釉、ヨコナデ	灰釉、ヨコナデ、ハラケズ リ	灰白色	E-90号需 式	2	
240	SD129	98C	SD64	尾張型	山茶碗	残2.9	推6.4		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	第5型式	1	
241	SD132	98C	SD13	氣泡窓	瓶	推13.8	残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	褐色		1	
242	SD132	98C	SD13	尾張型	山茶碗			残2.3	推7.0	ススけている、自然釉 すか	ヨコナデ、モミ痕、回転系 切版	褐灰色	第5型式	1
243	SD136	98C	SD18	氣泡窓	瓶A			残3.6		ヨコナデ	ヨコナデ	浅黄褐色	0-10号需 式	1
244	SD136	98C	SD02	尾張型	山茶碗			残3.7	6.2	自然釉、ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切版	灰白色	第5型式	1
245	SD134	98C	SD19	氣泡窓	杯身	推13.6	3.9	推10.0	ヨコナデ	ヨコナデ	青灰色	0-10号需 式	1	
246	SD134	98C	SD19	氣泡窓	長頸瓶	推8.2	残6.1		ヨコナデ	ヨコナデ、沈縫	灰色	NN-32号需 式	1	
247	SD134	98C	SD19	氣泡窓	高盤			残8.2		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	0-10号需 式?	1
248	SD134	98C	SD19	氣泡窓	盤			残1.4		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	0-10号需 式	1
249	SD134	98C	SD19	氣泡窓	杯身	推12.4	3.4	推7.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ 瓶	褐色	0-10号需 式	3	
250	SD134	98C	SD19	土師器	甕	推17.4	残24.3		ヨコハケ、タテハケス	ヨコナデ、タテハケス、スス 付着	浅黄褐色		17	
251	SD134	98C	SD19	土師器	甕	推18.0	残5.0		ヨコハケ、ヨコケズリ 付着	ヨコナデ、タテハケス、スス 付着	にぶい黄褐色		1	
252	SK016	98A	SK09	瓶戸美濃	擂鉢			残5.4	推12.0	サビ鉢、標目1單位20cm <sup>2</sup> 本	サビ鉢、回転系切版	古瀬戸後 期		1
253	SK045	98A	SK115	土師器	皿	径7.6	残2.2			ヨコナデ、回転系切版	灰白色	ロクロ調		1
254	SK045	98A	SK115	尾張型	山茶碗	残2.4	推7.4		ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切版	灰色	知多第5	1	
255	SK045	98A	SK115	氣泡窓	杯?			残5.6		ナデ	ヨコナデ、ハラケズリ	淡黄色	古代末 期	4
256	SK056	98A	SK07	瓶戸美濃	擂鉢			残2.7		うすいサビ鉢	うすいサビ鉢	古瀬戸後 期		1
257	SK056	98A	SK07	瓶戸美濃	灰釉直瓶			残1.4	7.0	露胎、即日	ナデ、回転系切版、露胎	灰白色	古瀬戸後 期	1
258	SK064	98A	SK162	尾張型	小皿	8.3	2.2	4.7	ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切版	灰白色	知多第5型	1	
259	SK083	98A	SK158	氣泡窓	杯身	12.0			ヨコナデ	ヨコナデ、回転系切版、墨 にぶい赤褐色	色? 鹿島 式?	NN-32号需 式	1	
260	SK098	98A	SK163	尾張型	山茶碗			残3.8	推7.6	ヨコナデ、自然釉、輪ト チシ瓶	自然釉、ヨコナデ、ナデ、 回転系切版	灰白色	廻六? 第4	1
261	SK117	98A	SK33	土師器	甕	推12.0	残10.8		ヨコナデ、ヘラケズリ 付着	ヨコナデ、丸いハケ、スス 付着	にぶい黄褐色		2	
262	SK128	98A	SK125	尾張型	山茶碗			残2.5	推9.6	ヨコナデ、よくそれで てススけている	ヨコナデ、モミ痕、回転系 切版	灰白色	知多第5型	1
263	SK128	98A	SK125	中國御皇	青磁碗	残4.8				青磁釉、麻状裂文	灰白色	B2類	1	
264	SK137	98A	SK151	土師器	内耳鍋	残1.8			ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ	くの字形		1	
265	SK138	98A	SK155	尾張型	山茶碗			残3.1	6.6	ヨコナデ	初のち板状圧痕	黄灰色	備後第5型	1
266	SK139	98A	SK10	尾張型	山茶碗	推15.2	残3.6		ヨコナデ、自然釉	ヨコナデ	灰白色	知多第4型	1	
267	SK142	98A	SK172	尾張型(知 多)	山茶碗			残1.5	推6.9	ナデ	ナデ、モミ痕、回転系切版	灰白色	瀬戸戸第6 型式	1
268	SK153	98A	SK131	尾張型	山茶碗	推14.2	残3.4		ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	知多第5型	1	
269	SK162	98A	SK167	尾張型	瓶	推14.0	残2.8		ヨコナデ、自然釉	自然釉、ヨコナデ	灰白色	6型式	1	

番号	遺構番号	区	印鑑番号	產地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数	
270	SK176	98A	SK139	尾張型	山茶碗		13.2	4.6	ヨコナダ、高台輪着底あり。一方向ナダ《ヨコシ》あり。	ヨコナダ、モミ瓶、回転系切瓶。ふきだし多く残る。ヨゴツゴツした肌ざわり《木シ》。	灰白色	瀬戸♀第7型式	1	
271	SK179	98A	SK144	尾張型	山茶碗		2.5	7.2	自然釉、蓋ね引き底	ヨコナダ、モミ瓶、回転系切瓶	灰白色	瀬戸♀第5型式	1	
272	SK183	98B	SK347	尾張型	山茶碗	推11.8	3.3		ヨコナダ	ヨコナダ	灰色	第6型式	1	
273	SK331	98B	SK450	尾張型	山茶碗	推14.8	5.0		ヨコナダ。よく磨減する	ヨコナダ	灰白色	第5型式	2	
274	SK155	98B	SK230	土器器	土瓶	長4.3	巾1.0	厚1.0		孔先端が少し欠けり、先端よく焼けている。	灰白色		1	
275	SK373	98B	SK418	灰釉陶器	瓶		2.6	7.6		灰釉、ヨコナダ、付高台、回転系切瓶	灰白色		1	
276	SK406	98B	SK36	尾張型	山茶碗		3.3	6.0	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切瓶	灰白色	知多第5型式	1	
277	SK419	98B	SK54	土器器	瓶	推27.0	4.0		ヨコナダ。ハケ	ヨコナダ、ハケ、黒斑	淡黄褐色		1	
278	SK450	98B	SK125	瀬戸美濃	小皿	推5.5	1.2	3.4	灰釉	灰釉、露胎、回転系切瓶	灰白色	古瀬戸中IV期	1	
279	SK450	98B	SK125	瀬戸美濃	天目茶碗	推10.8	3.0		鉄輪	鉄輪	灰白色	古瀬戸後IV期古	1	
280	SK450	98B	SK125	土器器	内耳皿		2.0	2.0	ヨコナダ	ヨコナダ	灰白色	古瀬戸後IV期	1	
281	SK450	98B	SK125	瀬戸美濃	折縁深皿	推20.0	4.5	推12.0	灰釉	灰釉。ヘラケメリ、露胎	灰白色	古瀬戸中IV期	1	
282	SK450	98B	SK125	土器器	内耳皿	推22.0	4.3		ハケワ	スス付着	にぶい褐色	半球形	1	
283	SK456	98B	SK156	尾張型	山茶碗		1.1	5.0	ヨコナダ。内方向ナダ	高台無、回転系切瓶	灰白色	第6型式	1	
284	SK466	98B	SK160	瀬戸美濃	瓶子口瓶		4.2	推10.8	露胎、ヨコナダ	鉄輪、露胎、ヨコナダ	灰白色	古瀬戸後III~IV期	1	
285	SK466	98B	SK160	瀬戸美濃	灰陶茶碗	推11.2	6.4	6.4	灰釉、須頭輪	灰釉、須頭輪	灰白色	登臨10小期	4	
286	SK490	98B	SK486	尾張型	山茶碗	推16.2	4.6	推9.0	ヨコナダ。自然釉、一方向ナダあり	ヨコナダ。モミ瓶あり、回転系切瓶	灰白色	第6型式	1	
287	SK491	98B	SK28	瀬戸美濃	碗反碗		2.2	4.4	鉄輪	鉄輪、削出高台、露胎	にぶい、黄褐色	古瀬戸後IV期	1	
288	SK491	98B	SK28	瀬戸美濃	横鉢		3.1		サビ釉	サビ釉	にぶい、黄褐色	大雲寺第1段階	1	
289	SK491	98B	SK28	瀬戸美濃	四(三)耳皿		6.9		灰釉	灰釉	古瀬戸後IV期		1	
290	SK504	98B	SK26	尾張型	山茶碗		1.6	7.87	よく磨減する	ヨコナダ、モミ瓶あり、回転系切瓶	灰白色	第3型式	1	
291	SK511	98B	SK102	尾張型	小皿		7.8	2.2	5.0	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切瓶	灰黄色	知多? 第6型式	3
292	SK515	98B	SK110	土器器	瓶	推17.8	3.0		ヨコナダ	ヨコナダ	洗黄褐色		1	
293	SK532	98B	SK142	瀬戸美濃	花札		3.0	推6.0	露胎	鉄輪、露胎、回転系切瓶	淡黄色	古瀬戸後IV期	1	
294	SK559	98B	SK113	須頭輪	碗A	推15.4	4.5	7.2	ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切瓶	明褐色		2	
295	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗	推14.2	4.8	6.2	自然釉、ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切瓶	灰白色	瀬戸♀第6型式	1	
296	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗	推14.8	4.4		ヨコナダ	ヨコナダ	灰白色	第6型式	1	
297	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗	推14.0	4.5		自然釉、ヨコナダ	ヨコナダ	灰白色	第5型式	2	
298	SK559	98B	SK113	尾張型	山茶碗		1.1	7.6	ヨコナダ、二方向ナダ	ヨコナダ、モミ瓶	回転系切瓶	灰白色	1	
299	SK572	98B	SK135	瀬戸美濃	内耳皿	推16.0	3.9		うすいサビ釉	うすいサビ釉、スス付着	にぶい、黄褐色	古瀬戸後IV期古	1	
300	SK573	98B	SK132	土器器	内耳皿		5.1		ヨコナダ	ヨコナダ、浅い沈殿	灰白色	半球形	1	
301	SK584	98B	SK114	瀬戸美濃	横鉢	推20.6	6.6		サビ釉、溜目	サビ釉	褐色	古瀬戸後IV期古	2	
302	SK585	98B	SK121	須頭輪	碗A	推12.0	3.8	5.0	わざかに自然釉。ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切瓶	灰白色	IG-78号館式	1	
303	SK585	98B	SK121	瀬戸美濃	綠釉小皿	10.6	2.8	5.0	灰釉	灰釉。ヨコナダ、回転系切瓶	灰白色	古瀬戸後IV期新	1	
304	SK585	98B	SK121	常滑	鍋	推30.0	推13.4		ヨコナダ。ケズリ	自然釉、調整直不明、一部にスス付着	灰白色		1	
305	SK588	98B	SK18	近江瀬戸	二ね鉢		4.1	推15.8	ハケにむりの鉄輪	鉄輪、露胎、回転系切瓶	灰白色	登臨8a~9号小窓	1	
306	SK608	98C	SK24	土器器	盆	推1.9	5.4		ヨコナダ	ヨコナダ、回転系切瓶	淡黄褐色	ロクロ調	1	
307	SK619	98C	SK02	常滑?	盆	推10.0	2.6		自然釉、ヨコナダ	自然釉、ヨコナダ	灰白色		2	
308	SK619	98C	SK02	瀬戸美?	型	山茶碗		2.2	5.6	自然釉、よく磨減する	鉄輪、矮小として転用か、鉢底、ヨコナダ	灰白色	第5型式	1
309	SK619	98C	SK02	常滑?	羽釜		8.4		ヨコナダ。ハケ	ヨコナダ	淡黄褐色		1	
310	SK382	98C	SK10	土器器	盆	推7.8	1.2		ヨコナダ	ヨコナダ、被熱板	にぶい、褐色	ロクロ調	1	
311	SK382	98C	SK10	常滑?	羽釜		5.9		ヨコナダ	ヨコナダ、自然釉	灰白色		1	
312	SK384	98C	SK04	肥前磁器	丸瓶	推12.0	3.8		透明釉	透付	灰白色		1	
313	SK400	98B	SK05	尾張型	山茶碗		1.9		ヨコナダ	ヨコナダ、高台欠け落ちる	灰白色	第7型式	1	
314	SK402	98B	SK01	瀬戸美濃	四(三)耳皿	推6.1	4.5		灰釉	灰釉	灰白色	古瀬戸前II期	1	
315	SK403	98B	SK14	瀬戸美濃	香炉	推11.2	4.6		露胎、鉄輪、ヨコナダ	露胎、鉄輪、ヨコナダ	淡黄色	登臨5a~6号小窓	1	

付表

## 遺物一覧表(8)

番号	遺構番号	区	II遺構番号	產地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
316	SK397	988	SK169	瓶戸(赤津) こね鉢	推22.2	9.4	推12.8	鉄軸	口縁端部一部欠ける。鉄軸、遮蔽	淡黄色	豊富8小分 小削	1	
317	SK306	988	SK306	瓶戸美濃	天目茶碗	残2.8			鉄軸	灰白色	古瀬戸後 田原	1	
318	SK306	988	SK306	中国龍泉窯 瓶		残3.7			青磁釉	青磁釉片切形落弁文	灰白色	1	
319	SK306	988	SK301	中国龍泉窯 瓶		残3.4			青磁釉	青磁釉	灰白色	1	
320	SK306	988	SK306	常滑 豊		残4.7			ヨコナゲ	自然釉	灰白色	1	
321	SK306	988	SK306	瓶戸美濃	折縁深皿	残6.0			鉄軸	灰白色	古瀬戸後 1期	1	
322	SK306	988	SK306	土師器 土器		残1.9			ナゲ	ナゲ、スズ付着	淡黄褐色	1	
323	SK306	988	SK306	土師器 土器		残2.0			ナゲ	ナゲ	灰白色	1	
324	SK306	988	SK306	土師器 盆	推10.2	1.5	推6.2	ヨコナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕	灰黃褐色	クロ口圓	1	
325	SK306	988	SK306	瓶戸美濃	天目茶碗	残1.0	推4.0		鉄軸	サビ鉄	大窪第1段 離	1	
326	SK306	988	SK306	土師器 不明脚	残長3.3	巾3.5	厚3.5				灰白色	1	
327	SK306	988	SK306	尾張型 陶丸	長2.2	巾2.0	厚2.0				灰白色	1	
328	SK306	988	SK306	尾張型 陶丸	長2.4	巾2.4	厚2.3				灰白色	1	
329	SK306	988	SK306	尾張型 陶丸	長2.0	巾1.9	厚1.9				灰白色	1	
330	SK306	988	SK306	尾張型 陶丸	長2.4	巾2.2	厚2.2				灰白色	1	
331	SK306	988	SK306	土師器 脚付鉢	推20.0	残1.8		脚付着	スズ付着、ナゲ		にふい黄褐色	1	
332	SK306	988	SK306	中世瓦 丸瓦	残長4.3	巾4.0	厚1.3	ヨコキホのち直口	ヘラケズリ		灰白色	1	
333	SK306	988	SK306	中世瓦 平瓦	残長3.4	巾6.0	厚1.9	ヨコキホのち直口	ハナレ砂		灰白色	1	
334	SK306	988	SK306	中世瓦 平瓦	残長3.1	巾6.2	厚1.9	ヨコキホのち直口	タタキ+ハナレ砂		灰白色	1	
335	SK306	988	SK306	中世瓦 平瓦	残長5.9	巾5.9	厚1.6	ヨコキホのち直口	タタキ+ハナレ砂		灰白色	1	
336	SK111	988	SK309	尾張型 (細多)	山茶碗	13.6	5.1	6.6	ヨコナゲ	切痕	灰白色	知多第6型式	10
337	SK111	988	SK309	尾張型 (細)	山茶碗	推12.6	5.5	推5.4	ヨコナゲ	切痕	瓶戸第7型式	8	
338	SK111	988	SK10	尾張型 (細)	山茶碗	推12.4	5.1	推5.0	ヨコナゲ、一方尚ナゲ	切痕	瓶戸第7型式	1	
339	SK111	988	SK309	尾張型 (細)	山茶碗	推2.8			ヨコナゲ、一方尚ナゲ、ヨコナゲ		瓶戸第7型式	2	
340	SK111	988	SK309	尾張型	山茶碗	推14.6	5.3	推5.8	ヨコナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕	灰白色	第8型式	1
341	SK111	988	SK10	尾張型	山茶碗	残2.1	推8.6	自然輪	ヨコナゲ	ヨコナゲ、モミ痕、回転系	灰白色	第3型式	1
342	SK111	988	SK10	尾張型	小瓶	推10.4	3.2	5.6	全面自然輪、ヨコナゲ	ヨコナゲ、モミ痕、回転系	灰白色	第3型式	1
343	SK111	988	SK309	尾張型 小瓶		7.4	1.9	4.2	ヨコナゲ、自然輪	ヨコナゲ、回転系切痕	灰白色	第5か6型式	1
344	SK111	988	SK309	中国龍泉 青磁釉		残2.1		6.4	青磁釉、刻花紋	青磁釉、露胎	灰白色	1	
345	SK111	988	SK309	瓶戸美濃	壺	推12.0	推3.5		鉄軸	鉄軸	古瀬戸前 口か墨痕	2	
346	SK111	988	SK10	須恵器 瓶?		推2.7		8.6	ヨコナゲ、一部自然輪	ヨコナゲ、回転ヘラケズリ	灰白色	1	
347	SK111	988	SK309	土師器 盆		推8.6	残1.5		ヨコナゲ	ヨコナゲ	手づくね開削	1	
348	SK111	988	SK10	須恵器 ハソウ		推7.9			ナゲ、刻文、沈器、ヘラ	ヘラケズリ	灰白色	BS6	1
349	SK111	988	SK10	灰陶器		残2.9			ヨコナゲ、灰軸	灰白色	1		
350	SK111	988	SK309	土師器 壺		残3.1			ナゲ、ヘラケズリ	ナゲ、スズ付着、指サエ	灰黄色	1	
351	SK111	988	SK309	土師器 山茶碗		推3.0			ヨコナゲ、スズ付着	ヨコナゲ、スズ付着	灰白色	3	
352	SK111	988	SK10	土師器		長3.4.7	巾1.5	厚1.4		スズ付着	褐色	1	
353	SK111	988	SK10	土師器 壺		推15.8	推6.0		ハケ、ヘラケズリ	ヨコナゲ、ハケ	にふい黄褐色	4	
354	SK111	988	SK309	中世瓦 丸瓦	残長7.8	巾6.9	厚1.4	ヨコキホのち直口	ヘラケズリ	ヨコナゲ	1		
355	SK307	988	SK307	須恵器 杯身	推12.2	4.2	6.1	ヨコナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕	褐色	0-10号窯式	4	
356	SK112	988	SD06	尾張型 山茶碗	推12.8	残4.5		ヨコナゲ	ヨコナゲ、自然輪	灰白色	瓶戸第7型式	2	
357	SK112	988	SD06	尾張型 山茶碗	残2.1	推6.2		ヨコナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕	灰白色	第7型式	1	
358	SK112	988	SD06	尾張型 山茶碗		推1.4	推7.4		ヨコナゲ、スズ付着、モミ痕、回転系切痕	ヨコナゲ、スズ付着、モミ痕、回転系切痕	灰白色	第6型式	1
359	SK112	988	SD06	尾張型 小瓶		推1.0		4.3	自然輪	ヨコナゲ、回転系切痕	灰白色	第5型式	1
360	SK112	988	SD06	尾張型 山茶碗		推4.6			ヨコナゲ、自然輪、スズ付着	ヨコナゲ、自然輪、スズ付着	灰白色	知多第50、6型式	1
361	SK112	988	SD06	尾張型 小瓶		推8.3	1.6	推5.8	ヨコナゲ、一方尚ナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕	灰白色	第6型式	1
362	SK112	988	SD06	尾張型 小瓶		推8.6	1.27	推5.0	ヨコナゲ、一方尚ナゲ	ナゲ、回転系切痕	第6-7型式	1	
363	SK112	988	SD06	尾張型 小瓶		8.4	2.1	5.2	一方尚ナゲあり、ヨコナ	ヨコナゲ、回転系切痕	浅黄色	第6型式	1
364	SK112	988	SD06	土師器 内耳瓶		推3.7			スズ付着	ヨコナゲ、回転系切痕	灰黄色	内彌形	1
365	SK113	988	SD01	尾張型 山茶碗		推3.8	推9.2	ヨコナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕	灰黄色	第5型式	1	
366	SK113	988	SK01	土師器 盆		推10.6	2.2	推6.8	ヨコナゲ	ヨコナゲ、回転系切痕のち板状系切痕	にふい黄褐色	クロ口圓	1
367	SK113	988	SK01	白磁	玉隠柄	推3.2			白磁	白磁	灰白色	1	

番号	遺物番号	区	印鑑番号	產地・材質	器種	口径	高さ	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数	
368	SX13	98B	S002	尾張型	小皿		7.0	1.8	3.8	一方向ナデあり。ヨコナデ	ヨコナデ、回転条切痕	灰黄色	第77.9型式	1
369	SX13	98B	S001	尾張型	鉢付瓶	径26.5	高2.7		ナデ、ハケ、黒け付着	ナデ、ハケ、スス付着	黒灰色		1	
370	SX13	98B	S001	中世瓦	丸瓦	径長3.9	高1.6	厚1.4	ヨビキアのち布目	ヨビキア、ヘラカズリ	灰色		1	
371	SX13	98B	S001	中世瓦	平瓦	径長4.8	高1.6	厚1.1	ヨビキアのち布目	タタキナ・ナレ鈴	灰白色		1	
372	SX13	98B	S001	中世瓦	丸瓦	径長3.2	高1.4	厚1.1	ヨビキアのち布目	ヘラカズリ	灰白色		1	
373	包含層	98A	檢?	須恵器	杯身	径10.8	高2.9		ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐色	?	1	
374	包含層	98A	檢?	須恵器	杯蓋		残3.8		ヨコナデ	自然輪、ヨコナデ、ヘラカズリの範囲不明	黄灰	H-11号窯式	1	
375	包含層	98A	檢?	須恵器	盤		残1.6	9.0	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラカズリ	灰色	青灰NN-32号窯式	1	
376	包含層	98A	檢?	須恵器	高盤?		残3.3		ナデ、ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい赤褐色	?	1	
377	包含層	98A	檢?	尾張型	山茶碗		残2.9	7.0	ヨコナデ、一方向ナデ(コロシ)あり	ヨコナデ、モミ痕あり、回転条切痕のち板状圧痕、底部墨書き「上」	灰白色	第5型式	1	
378	包含層	98A	S001	尾張型(知多)	山茶碗		残2.2	6.0	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転条切痕	灰白色	知多第6型式	1	
379	包含層	98A	檢?	尾張型	山茶碗		残2.7	6.0	ヨコナデのみ	ヨコナデ、モミ痕、板状圧痕	灰白色	第6型式	1	
380	包含層	98A	トレンチ	尾張型	山茶碗		残2.7	残7.8	ヨコナデ、スス付着	ヨコナデ、黒け付着、底成不良	灰白色	第4型式	1	
381	包含層	98A	檢?	東濃型	山茶碗		残1.9	残6.0			灰白色	第5型式後半	1	
382	包含層	98A	檢?	尾張型	山茶碗	残13.8	2.7	残8.2	ヨコナデ	ヨコナデ	灰色	第11型式	1	
383	包含層	98A	檢?	尾張型	小皿	7.5	2.39	4.4	ヨコナデ、黑色磨擦物	ヨコナデ、回転条切痕、底部墨書き「丁」、黑色磨擦物	灰白色	第5型式	1	
384	包含層	98A	檢?	常滑	壺		残3.5		ヨコナデ	ヨコナデ	灰色		1	
385	包含層	98A	トレンチ	白磁	碗		残2.3		白磁輪	白磁輪	灰白色		1	
386	包含層	98A	檢?	白磁	四五壹		残2.2		白磁輪	白磁輪	灰白色		1	
387	包含層	98A	檢?	粗陶器	青磁輪		残2.4		青磁輪	青磁輪	明オーバープラスチック	片安藤謹井文	1	
388	包含層	98A	檢?	青白磁	碗		残2.5		青白磁輪	青白磁輪	灰白色		1	
389	包含層	98A	檢?	白磁	玉緑瓶		残2.3		白磁輪	白磁輪	灰白色		1	
390	包含層	98A	檢?	粗陶器	青磁輪		残2.2		青磁輪	青磁輪	灰色		1	
391	包含層	98A	檢?	青磁	碗		残2.4		青磁輪	青磁輪	明褐色灰色		1	
392	包含層	98A	檢?	白磁	碗		残3.0		白磁輪	白磁輪	灰白色		1	
393	包含層	98A	檢?	瓶戸美濃	汎輪平瓶		残3.0		灰輪	灰輪	古瀬戸後IV期古		1	
394	包含層	98A	檢?	瓶戸美濃	瓶か壺		残5.6		露胎	鉄輪、輪は少し剥離する	灰白色	古瀬戸中IからII期	1	
395	包含層	98A	檢?	瓶戸美濃	陶丸	最大径2.0					灰白色		1	
396	包含層	98A	檢?	瓶戸美濃	陶丸	最大径2.2					灰白色		1	
397	包含層	98A	檢?	土師器	土玉	最大長2.6	2.5	2.3			黒灰色		1	
398	包含層	98A	檢?	土師器	土鉢	残長1.9					にぶい黄褐色		1	
399	包含層	98A	檢?	土師器	土鉢	残2.4	2.3	残厚1.2			灰白色		1	
400	包含層	98A	S001	土師器	皿	14.9	3.9	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転条切痕	灰白色	ロクロ調	37	
401	包含層	98A	檢?	土師器	皿		7.8	1.8	5.8	ヨコナデ、一方向ナデ	縦	ロクロ調	3	
402	包含層	98A	檢?	土師器	皿		7.6	1.3	5.8	ヨコナデ、一方向ナデ、焦げ付着、ヨコナデ、焦げ付着、ヨコナデ、回転条切痕のち	黒色	ロクロ調	1	
403	包含層	98A	トレンチ	土師器	皿		残1.3		6.8	ヨコナデ、一方向ナデ	スス付着	ロクロ調	1	
404	包含層	98A	トレンチ	土師器	皿	残8.6	残1.6		ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	にぶい褐色	手づくね	1	
405	包含層	98A	檢?	土師器	皿	残3.9			ヨコナデ	ヨコナデ、黒斑	浅黄色		1	
406	包含層	98A	檢?	常滑	鉢		残5.2		ヨコナデ、自然輪、ヘラケズリ	ヨコナデ	暗灰褐色? 黄灰色		1	
407	包含層	98A	檢?	土師器	清潔型鍋		残2.6		ヨコナデ	ヨコナデ	灰褐色? 黑褐色		1	
408	包含層	98A	檢?	土師器	清潔型鍋		残2.5		ナデ	ナデ	赤灰褐色? にぶい褐色		1	
409	包含層	98A	檢?	瓦器	火鉢		残6.0		ヨコナデ、スス付着	ナデ、タテハケ?	灰白色		1	
410	包含層	98A	檢?	土師器	盤		残5.9		ヨコナデ	ヨコナデ、指オサエ	にぶい赤褐色	横堀型?	16	
411	包含層	98A	檢?	土師器	南伊勢系鏡		残1.7		ヨコナデ	ヨコナデ	浅褐色		1	
412	包含層	98A	檢?	土師器	鉢付鏡	残24.0	残2.8		ヨコナデ	ヨコナデ、荒いハケ、スス付着	黒灰色		1	
413	包含層	98A	檢?	土師器	土鉢	長4.5	1.2				にぶい黄褐色		1	

## 遺物一覧表(10)

付表

番号	遺構番号	区	II遺構番号	產地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
414	包含層	98A	検?	土師器	土鍋	楕長5.7 1.3					灰白色		1
415	包含層	98A	検?	土師器	土鍋	長8.9 2.3					灰白色		1
416	包含層	98A	検?	常滑	こね鉢	幅40.0	残13.0		よく磨滅する	指オサエ痕	明赤褐色	第9型式	1
417	包含層	98A	検?	瓦	瓦				ヘラケズリと砂目	ヘラケズリ	灰白色		1
418	包含層	98A	検?	瓦	瓦				砂目	ヨコヘラケズリ	灰白色		1
419	包含層	98A	検?	瓦	瓦				砂目、ヘラケズリ		灰白色		1
420	包含層	98A	検?	瓦	平瓦				砂目	ヘラケズリ、タタキ	灰白色		1
421	包含層	98A	トレン	瓦	平瓦				砂目	ヨコビキ+板状压痕、ヘラケズリ	灰白色		1
422	包含層	98A	トレン	瓦	平瓦				砂目、ヘラケズリ	タタキ+砂目	灰白色		1
423	包含層	98B	SK264	須恵器	軒身		残2.0			ヨコナデ	灰赤色	8-44号集式?	1
424	包含層	98B	SK89	須恵器	壇	9.2	4.7			ヨコナデ、回転ヘラケズリ	褐灰色	?	1
425	包含層	98B	噴砂	須恵器	壇A	幅12.0	残4.9			ヨコナデ	褐灰色	8世紀前	1
426	包含層	98B	SK14	尾張型	山茶碗	幅15.6	5.3	幅6.0		ヨコナデ、モミ痕	灰白色	第5型式	2
427	包含層	98B	SK39	尾張型	山茶碗		残2.7	残8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕、モミ痕あり	灰白色	第5型式	1
428	包含層	98B	SK56	尾張型	山茶碗	幅16.6	5.2	幅8.2	ヨコナデ	ヨコナデ、高台・筒削離、回転糸切痕	灰白色	第6型式	2
429	包含層	98B	SK14	尾張型	山茶碗		残2.1	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕、ス付着	灰白色	第5型式	1
430	包含層	98B	SK14	尾張型	山茶碗		残1.8	7.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第4型式	1
431	包含層	98B	SD15	尾張型(直口)	山茶碗	幅12.6	残3.5		自然輪、ヨコナデ	ヨコナデ	灰白色	瓶戸第7型式	2
432	包含層	98B	SK105	尾張型	山茶碗		残2.3	残7.8	ヨコナデ、自然輪	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第6型式	1
433	包含層	98B	SD44	尾張型	山茶碗	幅12.8	5.7	幅5.1	自然輪、ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	瓶戸第7型式	2	
434	包含層	98B	SD44	尾張型	山茶碗	幅13.0	4.9	幅6.6	ヨコナデ	ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	第7型式	1
435	包含層	98B	SD15	尾張型	山茶碗		残2.7		ヨコナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瓶戸第7型式	1
436	包含層	98B	SD15	尾張型	山茶碗	( )	幅6.6	一方向ナデ(コロシ)あり、ヨコナデ		ヨコナデ、モミ痕、回転糸切痕	灰白色	瓶戸第7型式	1
437	包含層	98B	SD15	尾張型	山茶碗	残1.6	残4.9	一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瓶戸第7型式	1	
438	包含層	98B	トレン	尾張型	山茶碗?		残1.0		回転糸切痕・墨書き		灰白色		1
439	包含層	98B	噴砂	尾張型	小皿	8.0	2.4	3.9	ヨコナデ	ナデ、回転糸切痕、ヨコナ	灰白色	第5型式	1
440	包含層	98B	SD29	尾張型	小皿	幅8.1	1.5	幅5.6	ヨコナデ	ヨコナデ(ヨコハゲ式)	灰白色	第7型式	1
441	包含層	98B	SK55	尾張型	小皿	幅7.8	1.7	幅4.8	自然輪・崩れあり	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瓶戸第7型式	1
442	包含層	98B	SD15	尾張型	小皿	幅7.9	1.5	幅5.5	ヨコナデ、一方向ナデ	ヨコナデ、回転糸切痕	灰白色	瓶戸第7型式	2
443	包含層	98B	SD87	瀬戸美濃	直線大皿	幅2.2	幅11.0	灰釉	ヘケ巻り	ヘラケズリ	古瀬戸後期	1	
444	包含層	98B	SK14	常滑	盤		幅8.8		ナデ、ヘラケズリ	ナデ、粗オサニ、ス付着	にぶい褐色	1	
445	包含層	98B	トレン	土師器	南伊勢系編	幅21.6	残2.9		ヨコナデ	ヨコナデ、ス付着	灰白色? 桶	1	
446	包含層	98B	トレン	常滑	盤	幅38.0	残4.2		ヨコナデ、自然輪		にぶい黄褐色	1	
447	包含層	98B	検?	土師器	土鍋	楕長5.3	巾1.3	厚1.2			にぶい褐色	1	
448	包含層	98B	表土剥	瀬戸美濃	瓶子皿類		残7.7		圓輪	灰釉	灰白色	古瀬戸後期	1
449	包含層	98B	検?	土鮮器	盤	幅25.2	残3.7		ヨコナデ	指オサエ	灰白色? にぶい褐色	1	
450	包含層	98B	SK14	土師器	盤	幅25.6	残9.3		ヨコナデ、ヘラケズリ	ス付着、表面の調整不明	にぶい黄褐色	3	
451	包含層	98B	SK14	中世瓦	平瓦	楕長4.9	幅巾2.9	厚2.7	ハナレ谷、タタキ	布目	灰白色		1
452	包含層	98C	トレン	須恵器	杯	10.0	3.1		ヨコナデ	ヘラケズリ、ヨコナデ	灰白色	關西II-50号室式作	2
453	包含層	98C	トレン	須恵器	杯蓋		ヨコナデ		回転ヘラケズリ		黄褐色	?	1
454	包含層	98C	トレン	須恵器	杯身		ヨコナデ		ヨコナデ、回転ヘラケズリ	ヨコナデ	白	C-2号室式	1
455	包含層	98C	トレン	須恵器	杯身A	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ、回転ヘラケズリ		灰色	0-10号室式	1
456	包含層	98C	トレン	須恵器	杯A	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ、回転糸切痕		灰色	0-10号室式	1
457	包含層	98C	トレン	須恵器	杯	ヨコナデ	ヨコナデ		ヨコナデ、回転糸切痕		にぶい黄褐色	0-10号室式	1
458	包含層	98C	トレン	須恵器	杯身	幅12.6	3.7	6.8	ヨコナデ	ヨコナデ、回転ヘラケズリ	黄褐色	0-10号室式	3
459	包含層	98C	トレン	土師器	杯	幅14.0	残5.0		ヨコナデ	沈線、ヨコナデ	浅黃褐色	關西II-50號	3
460	包含層	98C	検?	須恵器	杯	幅3.4	5.0	ヨコナデ	ヨコナデ	ヨコナデ	褐色	2世紀代	1

## 天神前遺跡

## 遺物一覧表(11)

番号	遺構番号	区	印鑑番号	产地・材質	器種	口径	器高	底径	内面	外面	胎土	備考	破片数
461	包含層	98C	表土	灰陶陶器	碗		残2.9	残7.5	灰釉	ヨコナダ、露胎	灰白色	X-14号層式	1
462	包含層	98C	トレンチ	灰陶陶器	碗		残3.3	残7.4	灰釉	ヨコナダ、回転条切波ナダ、露胎	灰白色	X-14号層式	1
463	包含層	98C	横?	瓦窓器	壺		残2.6	6.4	内面の半分スズ付着、ヨコナダ	ヨコナダ、回転条切波ナダ、ス付着	灰白色	0-16号層式	2
464	包含層	98C	縦り下	灰陶陶器	壺?		残3.5	残6.2	ヨコナダ	自然釉、ヨコナダ	明褐色		1
465	包含層	98C	横?	瓦窓器	フラスコ瓶		残2.1		ヨコナダ	回転ヘラケツリ、自然釉	褐灰色		1
466	包含層	98C	横?	灰陶陶器	長瓶	残12.2	残2.2		灰釉	灰釉	灰白色	K-90号層式	1
467	包含層	98C	表土	瓦窓器	フラスコ瓶		残4.5		ヨコナダ	ヨコナダ	灰白色	7世紀後	1
468	包含層	98C	北壁	瓦窓器	高杯?		残5.8		ナダ	ヨコナダ	灰白色	NN-32号層式	1
469	包含層	98C	横?	窓戸美濃	仮輪具		残2.3	4.8	露胎	サビ輪、露胎、回転条切痕	灰白色	古窓戸後IV期	1
470	包含層	98C	縦り下	尾張型	小型壺	残11.0	残3.8		ヨコナダ	自然釉、ヨコナダ	灰白色	第4-6型式	2
471	包含層	98C	トレンチ	土器器	壺		残1.6			ナダ、被熱痕	灰白色		1
472	包含層	98C	土器?	瓦窓器	楕板	残8.0	残5.0		ヨコナダ、タタキ	自然釉、ヨコナダ、タタキ	灰白色		5
473	包含層	98C	南壁	瓦窓器	鉢	残10.0	残3.3		ヨコナダ	ヨコナダ	褐灰色	NN-32号層式	1
474	包含層	98C	横?	瓦窓器	ハフカ小壺		残4.0		ヨコナダ	ヘタケツリ、波状文	灰白色	猪窓では ない6世紀	1
475	包含層	98A	横I	石製品	砥石	長6.4	幅4.0	厚1.8	露灰斑				1
476	SD110	98B	SD43	石製品	砥石	長4.0	幅4.0	厚1.6	肥質基灰斑				1
477	SD104	98B	SD70	石製品	砥石	長10.3	幅4.2	厚2.4	露灰斑				1
478	SD57	98B	SD93	石製品	砥石	長5.8	幅3.7	厚2.6	露灰斑				1
479	SK13	98B	SK31	石製品	砥石	長5.6	幅5.8	厚3.7	露灰斑				1
480	SD89	98C	SD29	石製品	砥石	長7.3	幅6.7	厚4.5	結晶片岩				1
481	包含層	98C	横I	石製品	砥石	長4.1	幅3.5	厚1.7	露灰斑				1
482	SK13	98B	SK31	石製品	砥石	長5.0	幅3.0	厚1.4	露灰斑				1
483	SD121	98C	SD97	石製品	砥石	長5.0	幅4.1	厚1.1	露灰斑				1
484	SK13	98B	SK31	石製品	石鏡	長3.3	幅3.0	厚1.0	泥岩				1
485	SK559	98B	SK113	石製品	石鏡	長19.4	幅6.5	厚1.0	泥岩				1
486	包含層	98A	横I	脚製品	鉄貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	開元通寶				1
487	包含層	98A	横I	脚製品	鉄貨	長2.4	幅2.4	厚0.1	寛永通寶				1
488	包含層	98A	横I	脚製品	鉄貨	長2.4	幅2.4	厚0.1	寛永通寶				1
489	SK306	98B	SK306	脚製品	鉄貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	永樂通寶				1
490	SK306	98B	SK306	脚製品	鉄貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	元豐通寶				1
491	SD84	98B	SD74	脚製品	鉄貨	長2.4	幅2.4	厚0.1	宋元通寶				1
492	包含層	98C	横I	脚製品	鉄貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	皇宋通寶				1
493	包含層	98C	横I	脚製品	鉄貨	長2.5	幅2.5	厚0.1	永樂通寶				1
494	包含層	98C	横I	脚製品	小柄	長7.4	幅1.3	厚0.2					1
495	SK306	98B	SK306	脚製品	不明	長7.7	幅0.5	厚0.1					1
496	包含層	98B	表土	脚製品	椎管吸口	長15.8	幅1.2	厚1.2					1
497	SK13	98B	SK301	脚製品	刀子ナダ	長10.3	幅1.3	厚0.3					1
498	包含層	98C	縦り下	脚製品	刀子ナダ	長5.0	幅2.1	厚1.1					1
499	包含層	98A	横?	木製品	檜盤	長5.2	幅2.9	厚1.2					1
500	SE02	98C	SK16	木製品	曲物箆	厚11.8	23.2	厚41.8					1
501	SE01	98C	SK171	木製品	曲物箆	厚43.8	16.0	厚43.0					1
502	SE01	98C	SK171	木製品	曲物箆	残10.6	残46.4						1
503	SE01	98C	SK171	木製品	曲物箆	厚46.8	19.0	厚46.8					1
504	SE01	98C	SK171	木製品	曲物箆	厚44.0	25.5	厚44.0					1

## 付表

- 1 遺構一覧表
- 2 遺物一覧表

## 図版

遺構図版 1	上面遺構全体図	(縮尺 1:800)
遺構図版 2～7	上面遺構図	(縮尺 1:200)
遺構図版 8～9	上面遺構拡大図	(縮尺 1:100)
遺構図版 10	下面遺構全体図	(縮尺 1:800)
遺構図版 11～16	下面遺構図	(縮尺 1:200)
写真図版 1～8	遺構写真	
写真図版 9～16	遺物写真	

## 遺構一覧表の凡例

1、新遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。遺構記号は以下の通りである。

N R—自然流路、S A—柵列、S B—建物、S D—溝、S E—井戸、S K—土坑、S T—水田状遺構、S X—その他

2、区と旧遺構番号は、発掘調査当時（年報記載）の番号である。写真・記録類や遺物ラベルなどは全てこの番号で記録されている。なお、欠番は出土遺物がない等の理由から調査時点では遺構番号を付けなかったものである。

3、長軸、短軸、深さは検出された遺構の規模をcm単位で計測したものである。したがって、この数値は本来の遺構の規模ではない。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。

4、遺物の項目には、図化した遺物の図版番号と、それ以外の遺構から出土した遺物の種別と破片数を示した。

## 本文掲載遺物一覧表の凡例

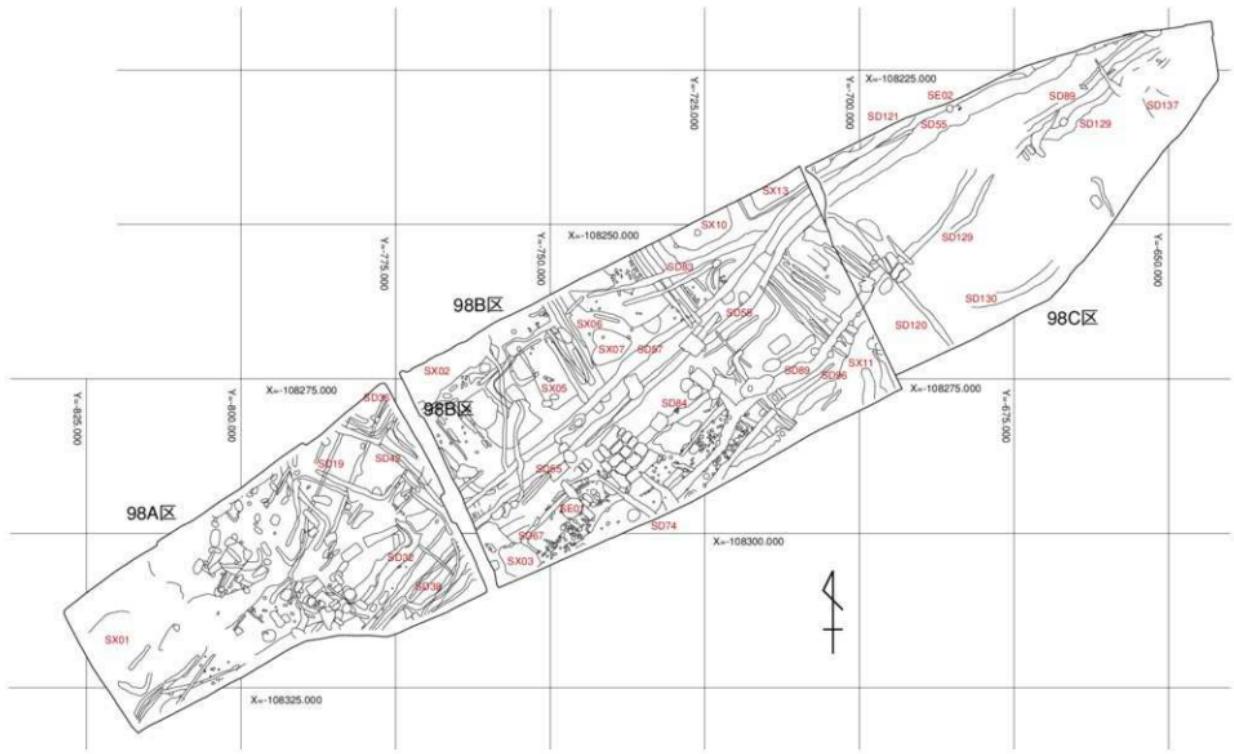
1、遺物番号は、本文掲載の実測図などの番号である。

2、遺構番号は、本書に掲載された遺構図等の番号である。

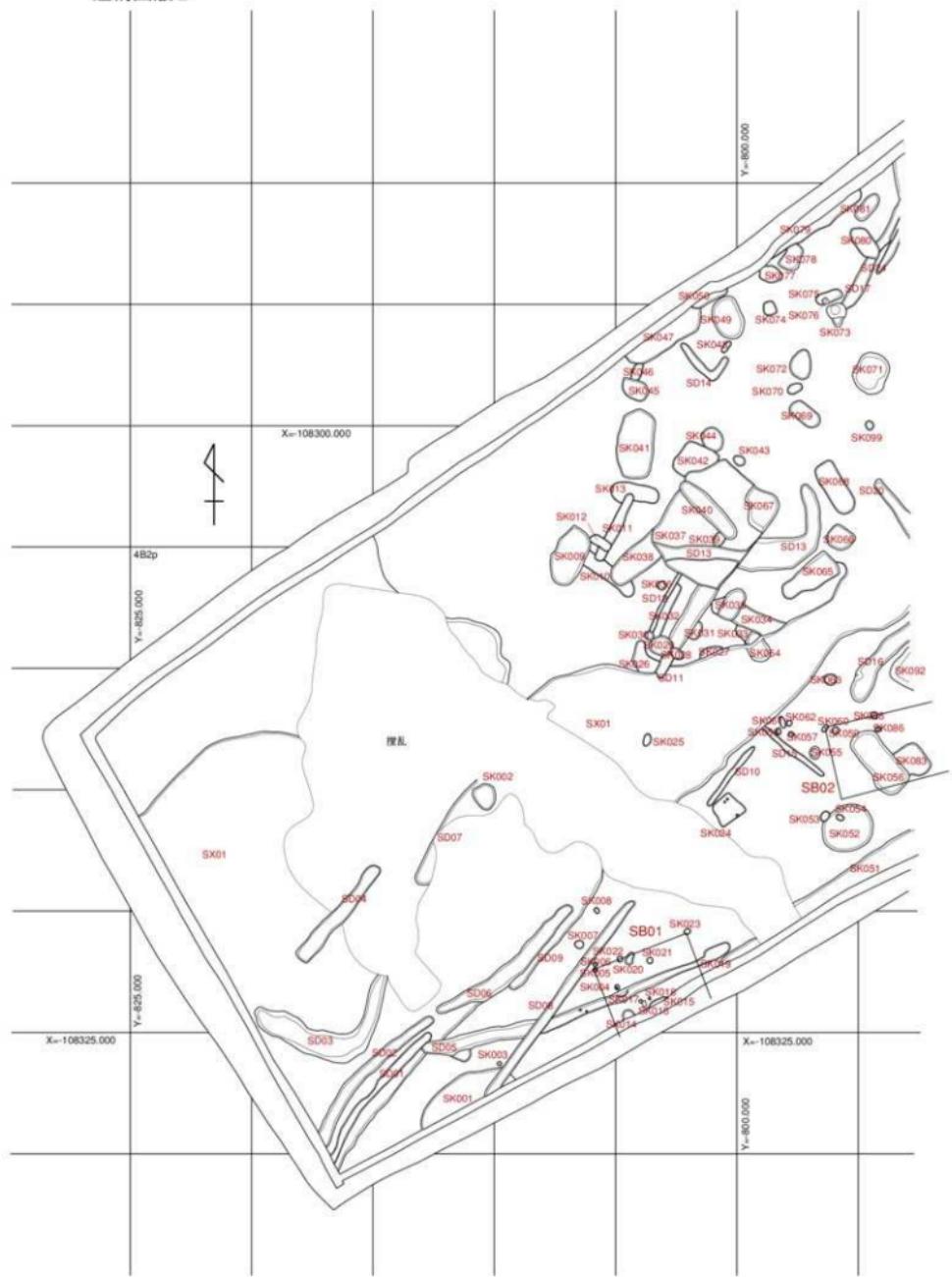
3、法量についてはcm単位で計測した。数値の前に記された「残」は残存した部分のみの計測値を示している。また、数値の前に記された「推」は復元推定値を示している。

4、調整痕や使用痕については「内面」と「外面」に分けて表記した。

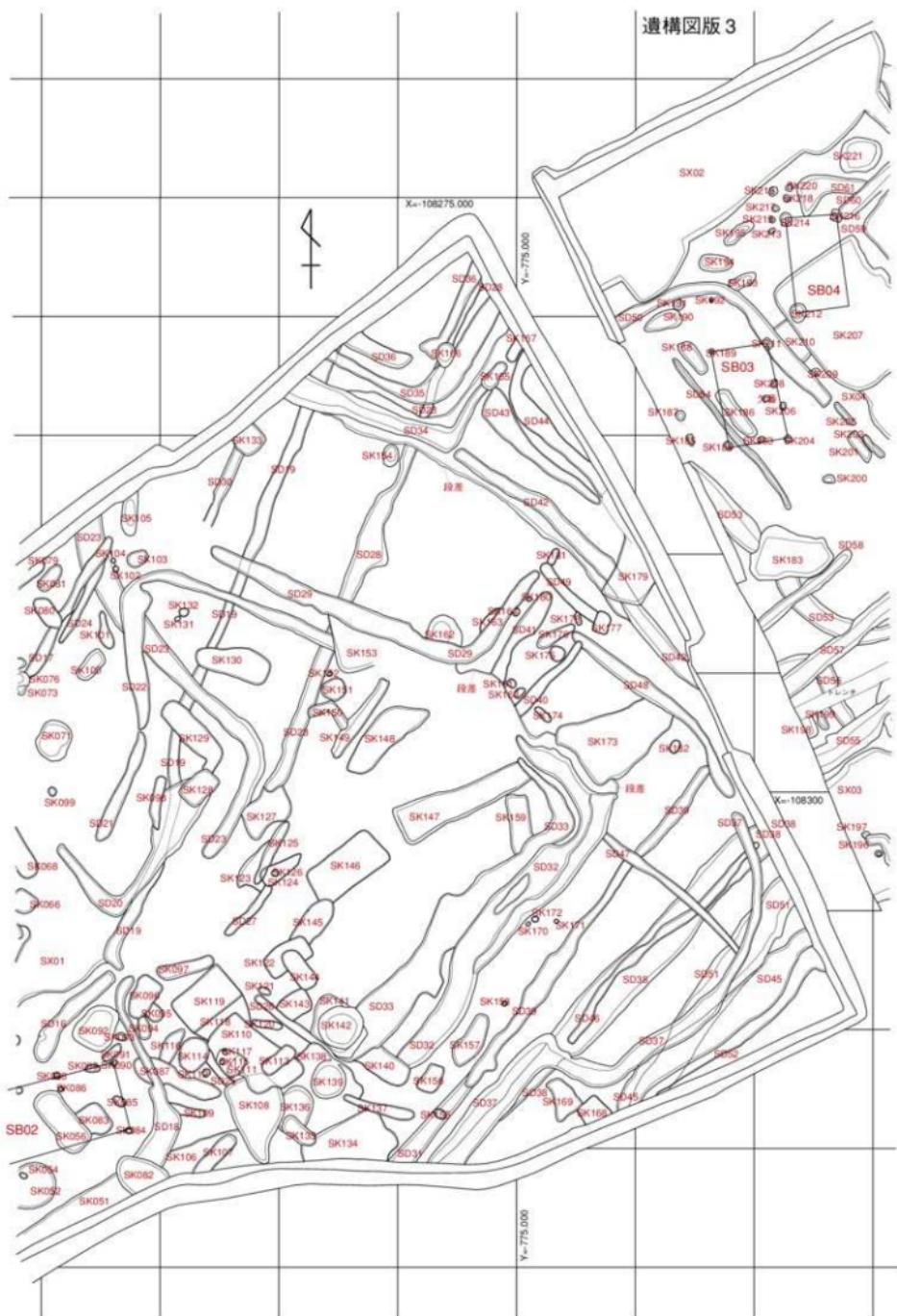
5、遺物の登録は、本書掲載の遺物番号で整理されている。



遺構図版 2



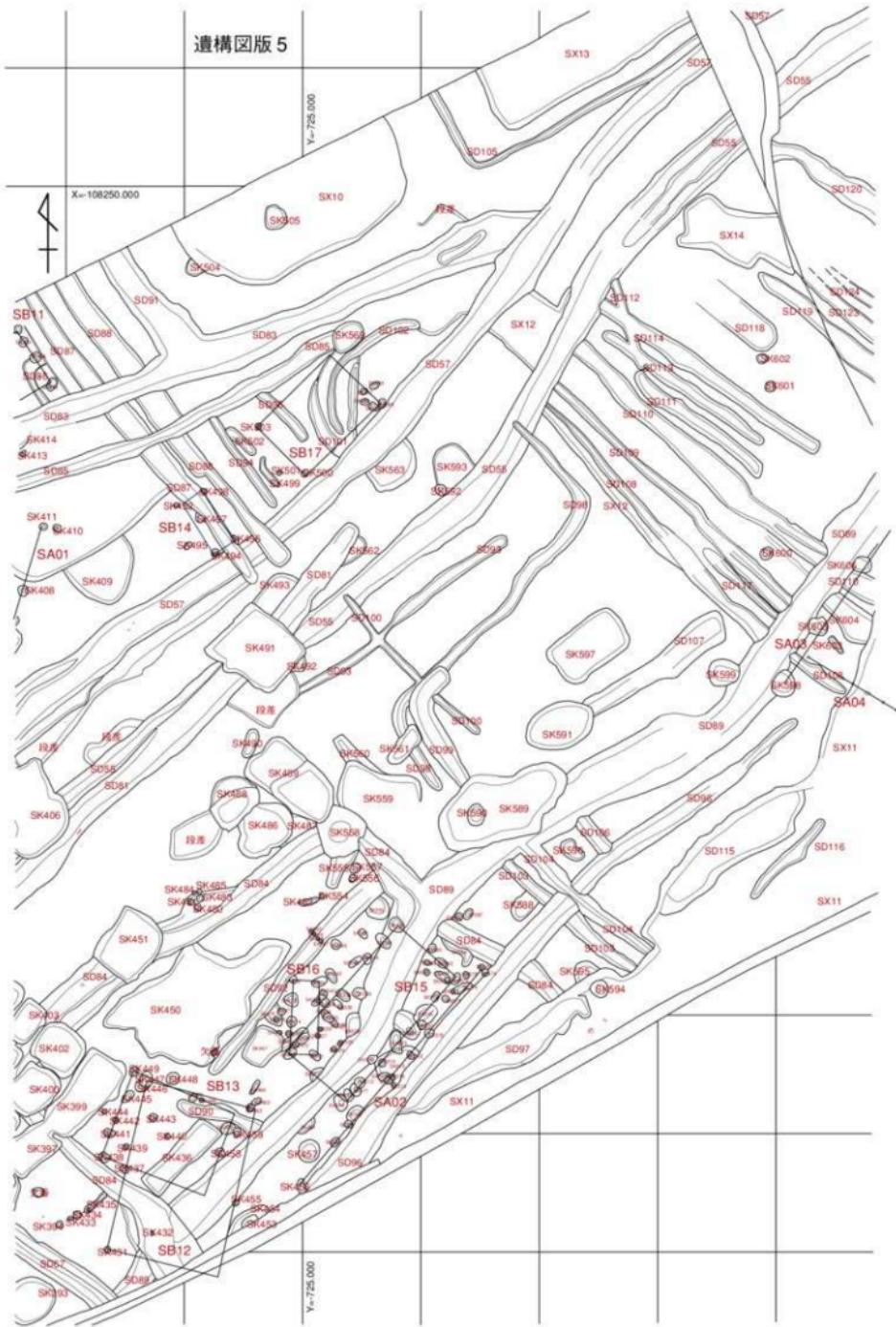
遺構図版 3



遺構図版 4



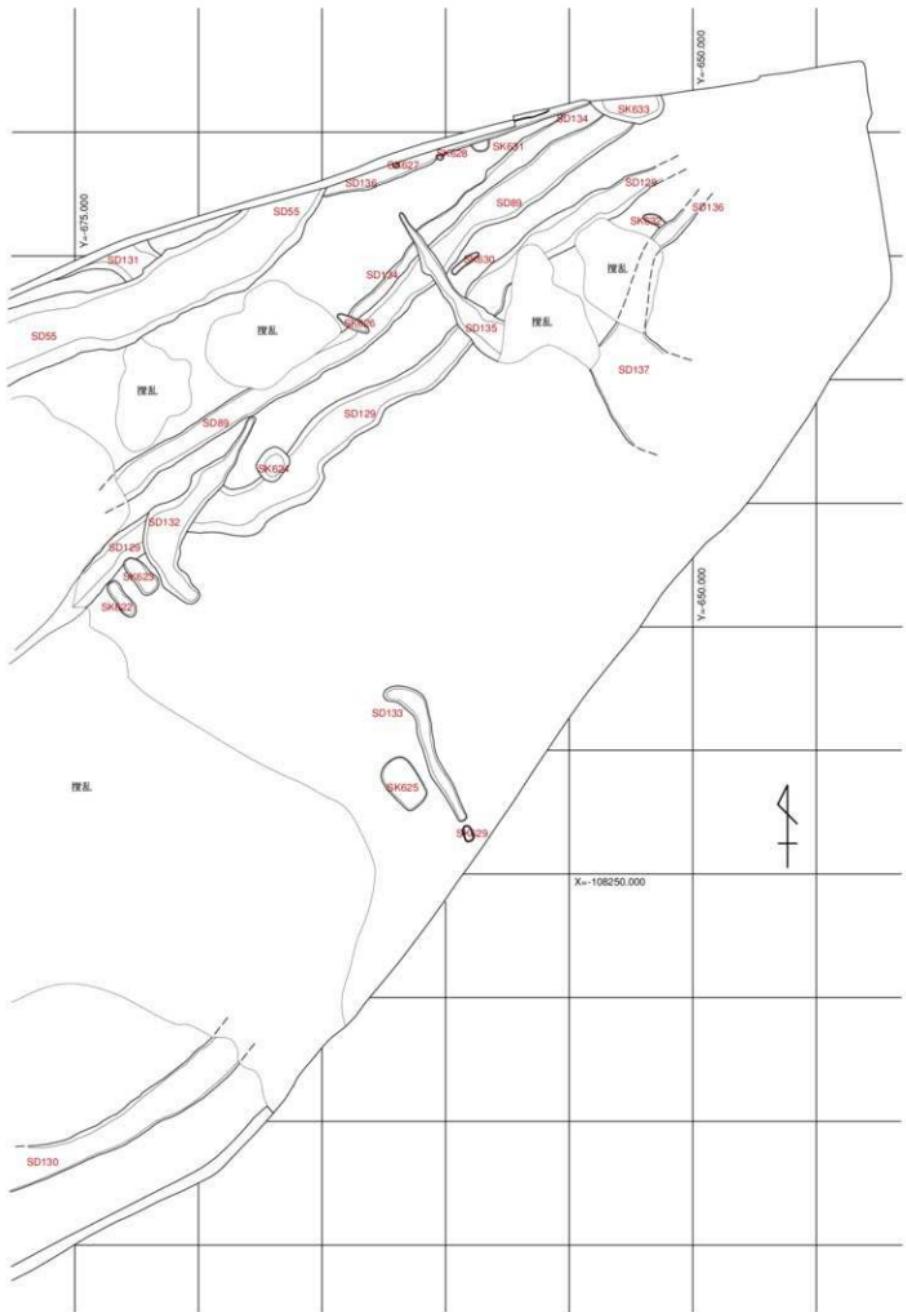
遺構図版 5



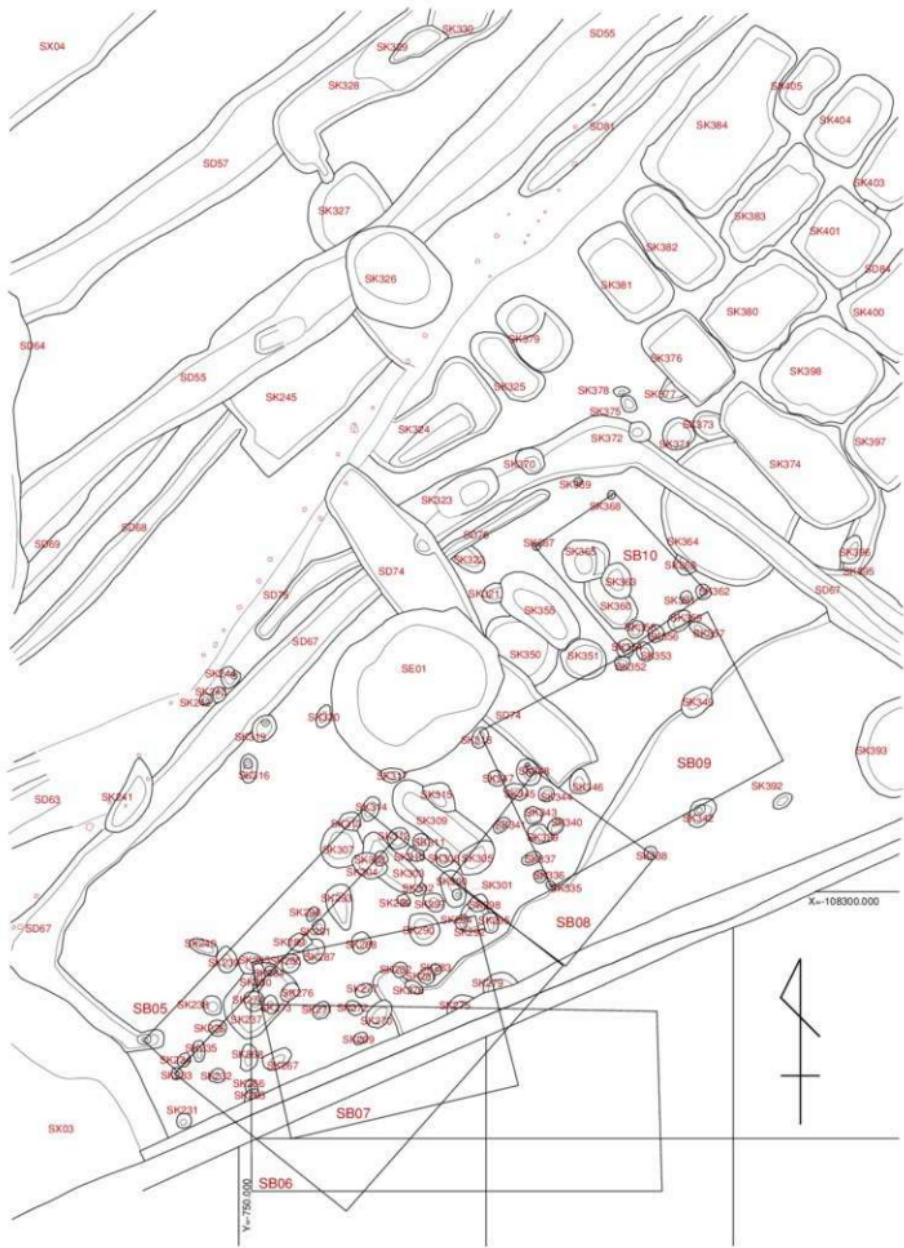
遺構図版 6



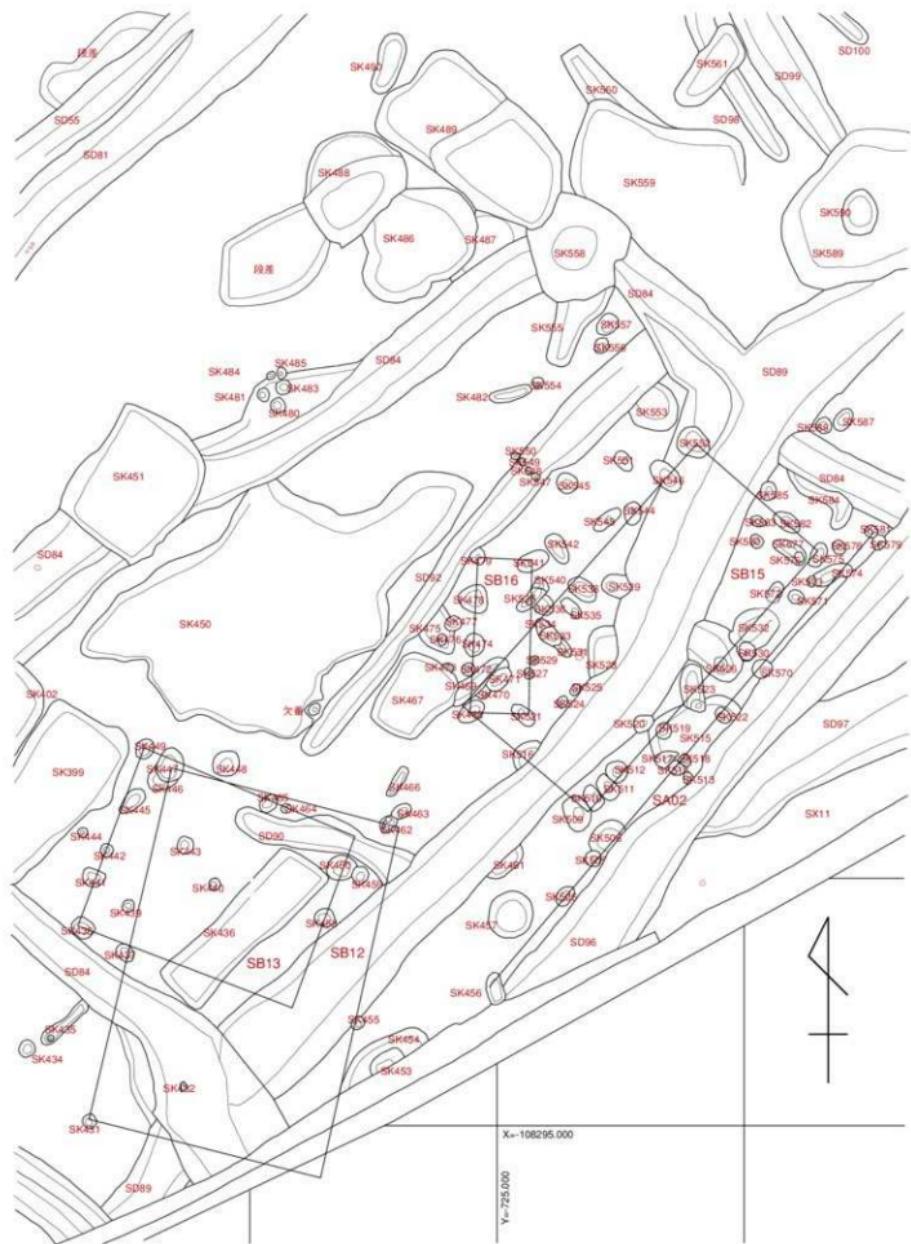
遺構図版 7

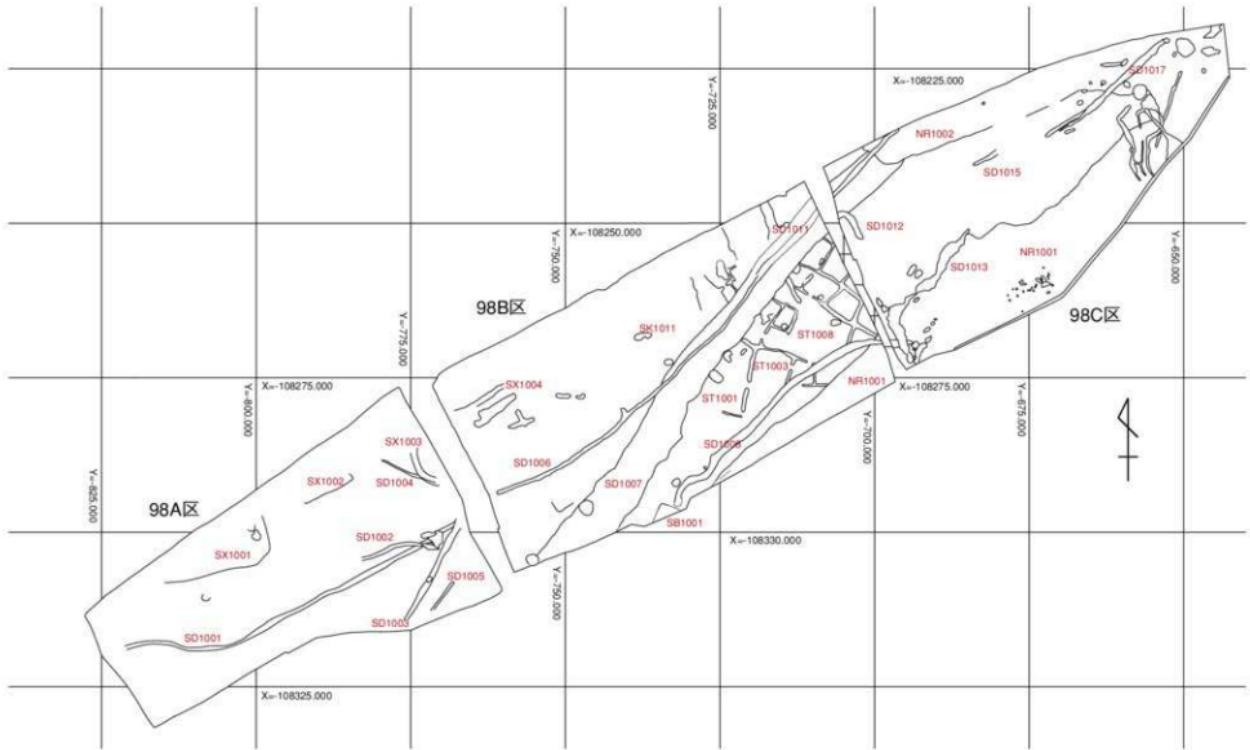


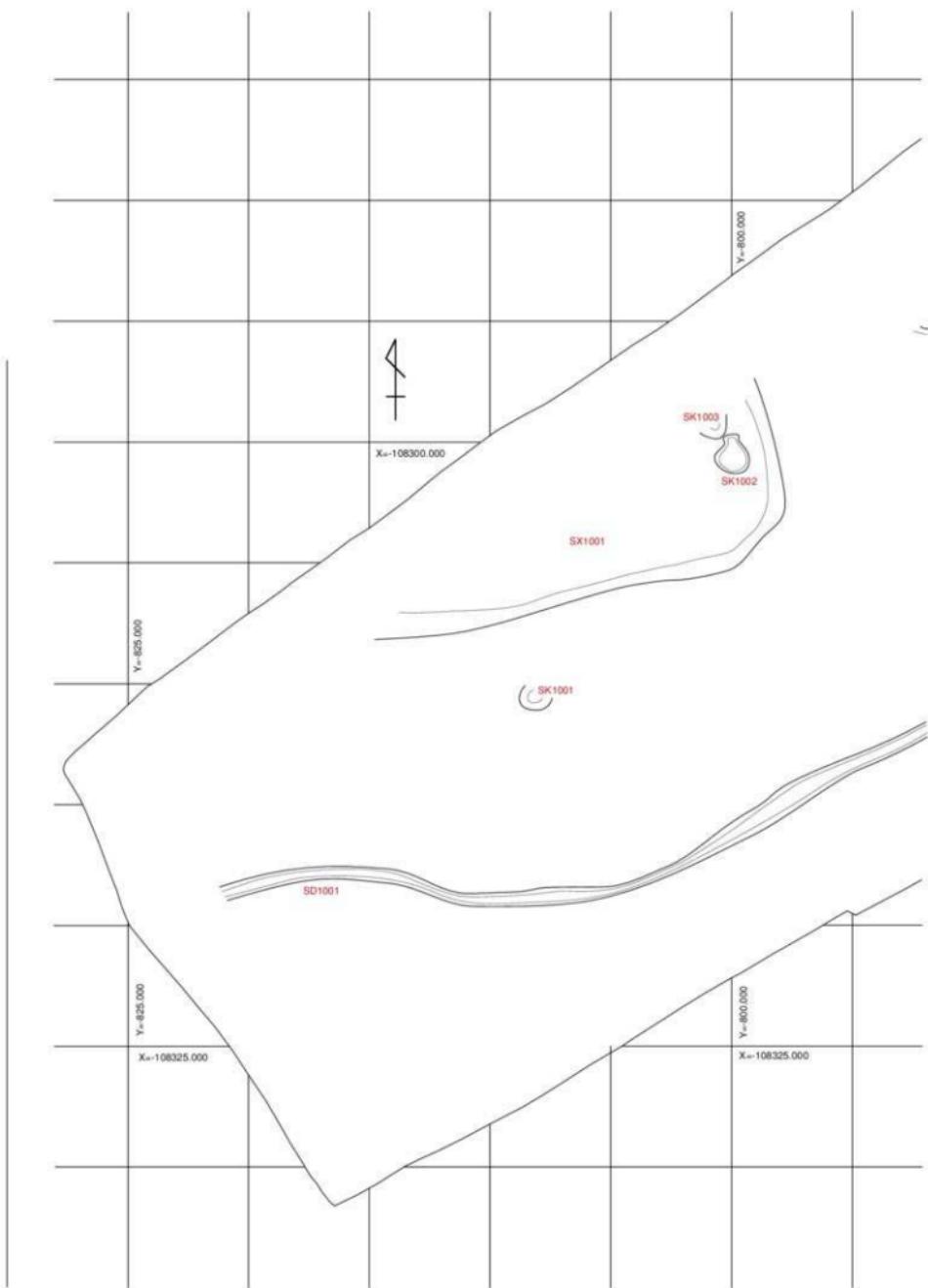
遺構図版 8



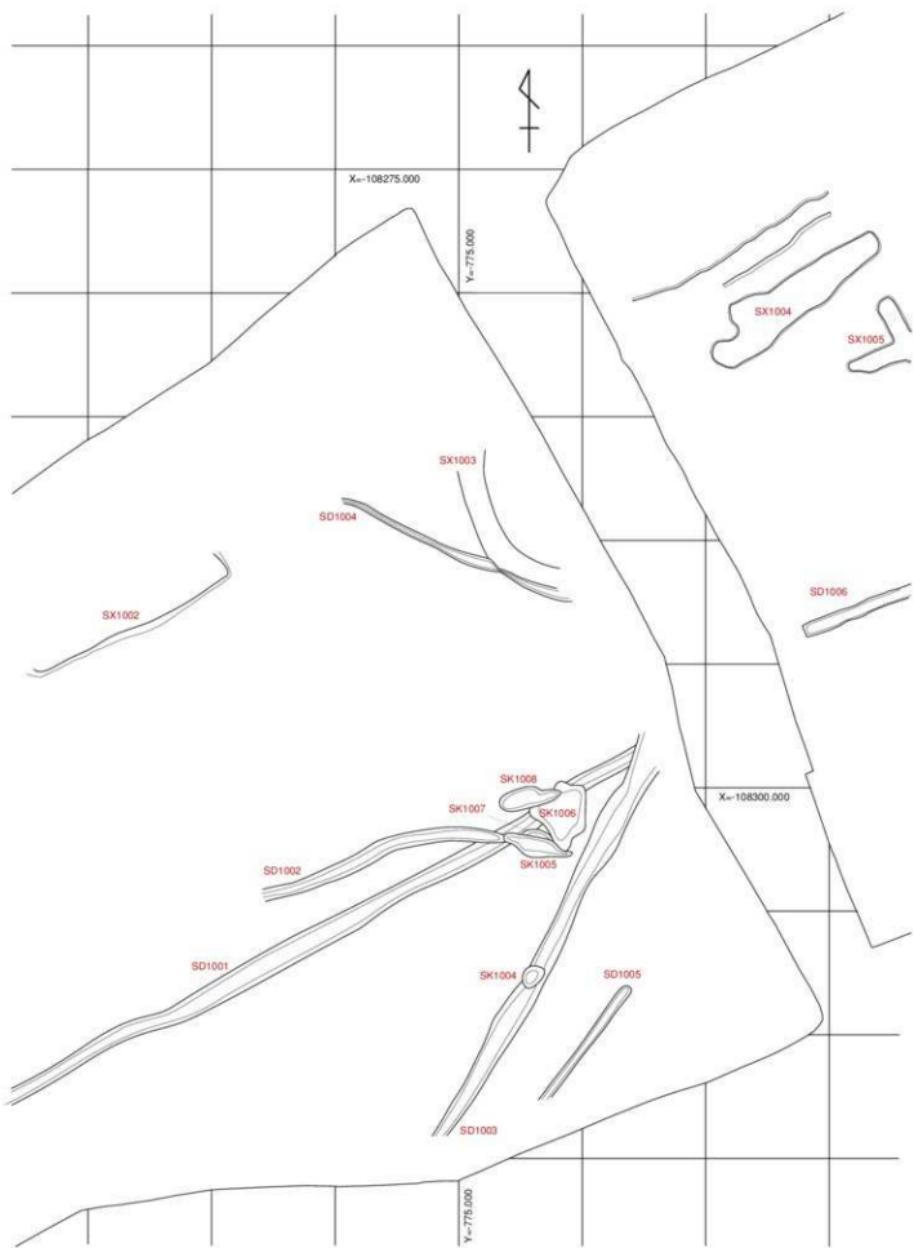
遺構図版 9



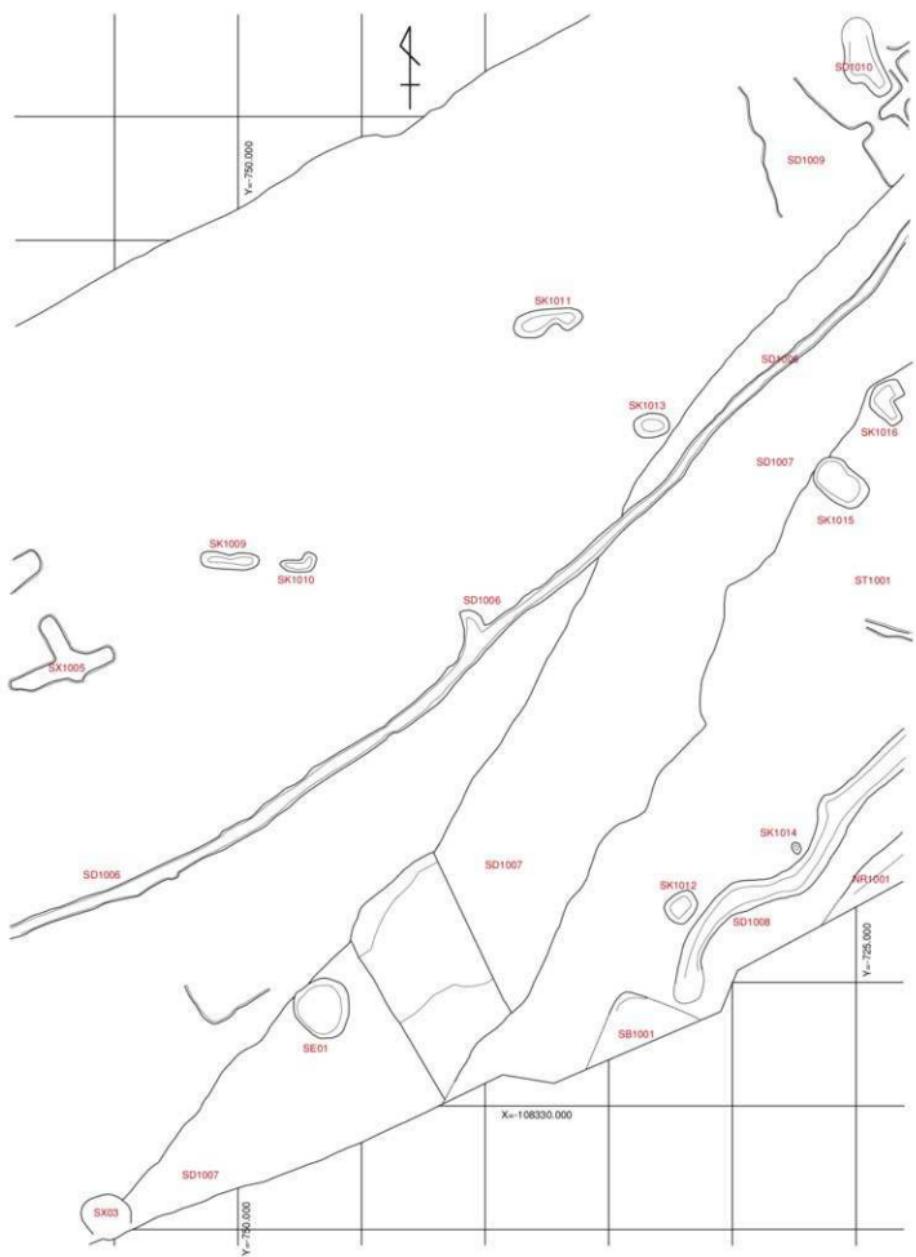




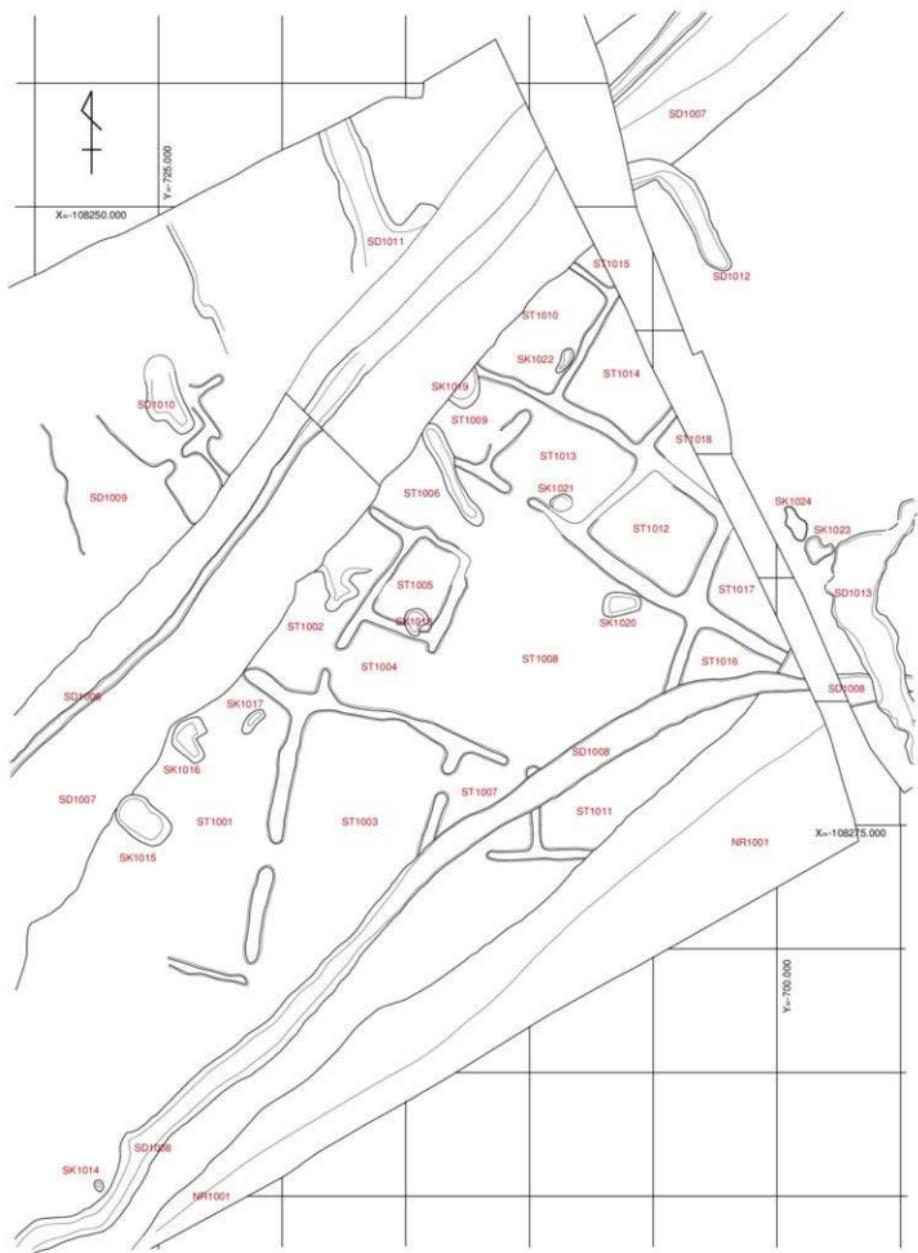
遺構図版 12



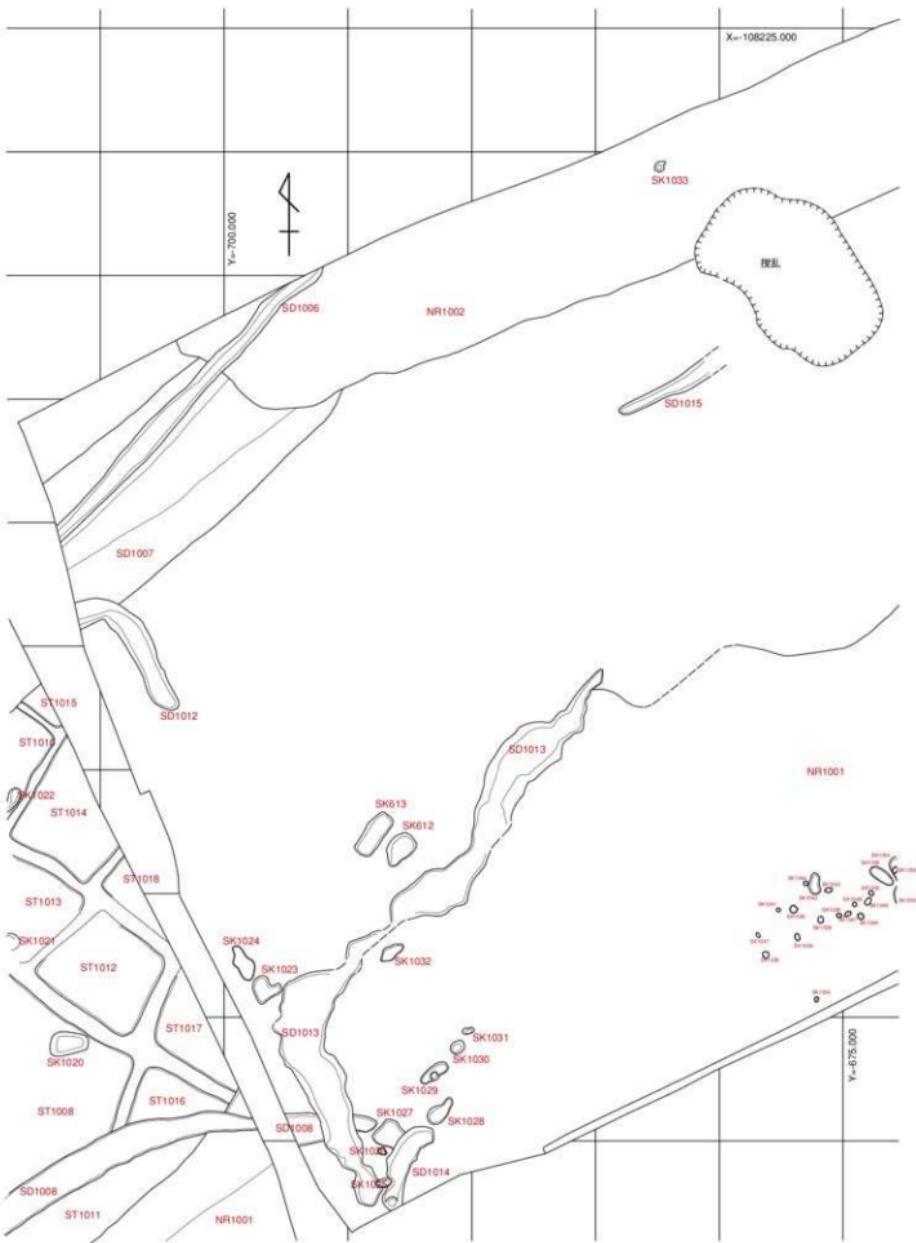
遺構図版 13



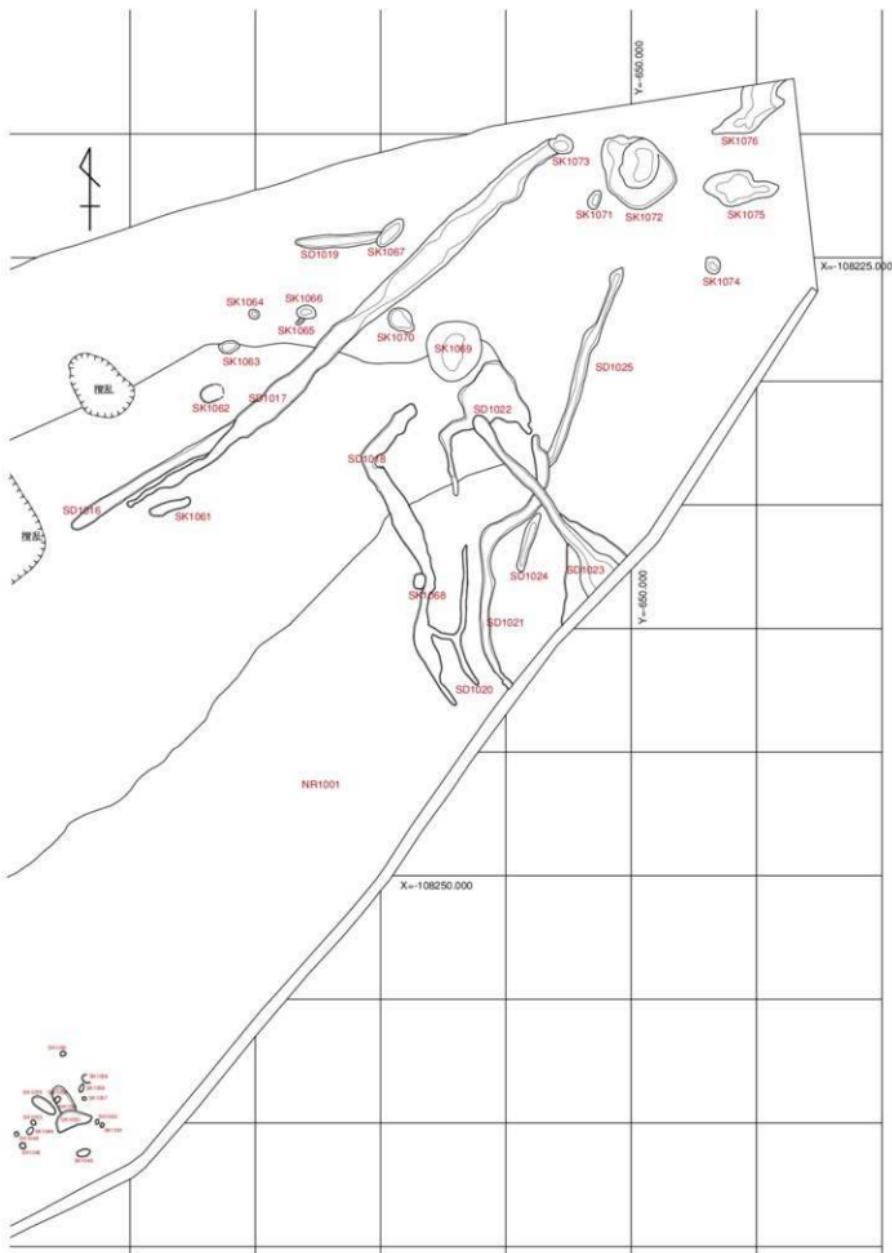
遺構図版 14



遺構図版 15



遺構図版 16





98 A区上面全体  
(古墳時代後期～江戸時代)  
南西方向からみる



98 B区上面全体  
(古墳時代後期～江戸時代)  
北東方向からみる



98 C区上面全体  
(古墳時代後期～江戸時代)  
北東方向からみる

## 写真図版2

左：98 A区上面北部  
南西から見る



左：98 A区上面中部  
南西から見る



右：98 B区上面南部  
西から見る



左：98 C区 S D 120  
北から見る



右：98 C区方形土坑  
南から見る



左：歛状造構群  
(98 B区上面)  
北東から見る



左：SD 81等  
(98 B区上面)  
南西から見る



左：SD 57等  
(98 B区上面)  
南西から見る



左：SD 103・104  
(98 B区上面)  
南東から見る



左：SD 42等  
(98 A区上面)  
南東から見る



右：SD 96  
(98 B区上面)  
南西から見る

写真図版 4

左: S D 57  
(98 B 区上面)  
南西から見る



左: S D 89 等  
(98 B 区上面)  
北東から見る



左: S K 1069  
(98 C 区下面)  
南から見る



左: S D 135  
(98 C 区上面)  
南から見る



左: S E 01  
(98 B 区上面)  
南西から見る



左: SK 176  
(98 A区上面:270)  
西から見る



左: SX 07  
(98 B区上面:355)  
北から見る



左: 425 出土状況  
(98 B区上面)  
北から見る



左: SK 1070  
(98 C区上面)  
東から見る



左: SD 134  
(98 C区上面)  
南から見る



右: SD 129  
(98 C区上面)  
北から見る

## 写真図版 6

左: S A 04  
(98 B 区上面)  
北西から見る



左: S E 02  
(98 C 区上面)  
南から見る



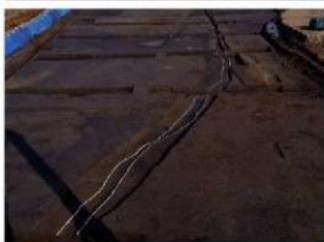
左: S E 01  
(98 B 区上面)  
南西から見る



左: S E 01  
(98 B 区上面)  
北西から見る



左: S D 1001  
(98 A 区下面)  
西から見る



右: 大畦畔  
(98 A 区下面)  
西から見る

左：遺物出土状況  
(98 A区下面)  
西から見る



左：N R 1001  
(98 C区下面)  
東から見る



右：S D 1007  
(98 B区下面)10)  
北西から見る

98 B区下面全体  
(古墳時代中期)  
北東方向からみる



98 C区下面全体  
(古墳時代中期)  
北東方向からみる



## 写真図版 8

左: S X 1004  
(98 B 区下面)  
南から見る



左: S D 1007  
(98 B 区下面)  
南西から見る



右: S T 1008・1012  
(98 B 区下面)  
南東から見る



左: S T 1008・1012  
(98 B 区下面)  
南東から見る



右: S B 1001 地床炉  
(98 B 区下面)  
北から見る



左: S B 1001  
(98 B 区下面)  
北西から見る



右: S B 1001  
遺物出土状況  
(98 B 区下面)  
北から見る



左: S B 1001  
(98 B 区上面)  
西から見る



右: S B 1001  
(98 B 区上面)  
南東から見る

SU1001



5

SB1001



2



4



5



2



1



8



26



23



9

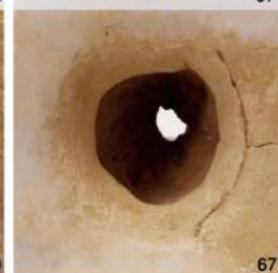


43



10

写真図版 10





写真図版 12



253



452



417



253



249



185



458



348



185



458



212



204



418



355



204



写真図版 14





写真図版 16



## 報告書抄録

ふりがな	てんじんまえいせき							
書名	天神前遺跡							
副書名								
卷次								
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第96集							
編著者名	鈴木正貴、鬼頭剛、小野映介、尾崎和美							
編集機関	財団法人 愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター							
所在地	〒498-0017 愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田野方802-24 TEL0567(67)4161							
発行年月日	西暦 2001年8月31日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° °'	° °'			
てんじんまえいせき 天神前遺跡	豊田市鶴町 てんじんまえ 天神前	23211	63474	35度 1分 25秒	137度 24分 30秒	19980402 ～ 19990330	8000m <sup>2</sup>	道路建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
天神前遺跡	集落	古墳時代中期 ～ 江戸時代	堅穴状遺構1基、 水田状遺構18区画、 溝25条、自然流路、 土坑など  掘立柱建物17棟、 柵列1基、 井戸2基、溝136条、 方形土坑群、 土坑など	土師器、 須恵器、 灰釉陶器、 山茶碗類、 瀬戸美濃窯産陶器、 中国産磁器、 石製品、 金属製品、 木製品	屋敷、 道路状遺構？			

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第96集

## 天神前遺跡

2001年8月31日

編集、発行 財団法人愛知県教育サービスセンター  
愛知県埋蔵文化財センター

印刷

